岩手県文化財調査報告　第91集

岩手県内遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ

平成３年度

岩手県教育委員会

序　文

文化財は、私たちの先祖により永く培われてきた貴重な歴史資料であります。私たちはそれらを正しく理解し、文化財保護法の理念に基づき保護・活用し、そして後世に伝えていかなければなりません。

しかしながら、埋蔵文化財は、近年の増大する大規模な開発等によりきびしい状況におかれています。埋蔵文化財の保護と各種開発事業の調整をはかる上で、遺跡の性格・所在地・範囲等を正確に示すことが必要であることは言うまでもありません。

当教育委員会では、国庫補助金の交付を受けて昭和52年以来遺跡の分布調査を実施しているところでありますが、毎年増加する新たな遺跡の周知徹底を図る必要があると共に、遺跡の範囲・内容確認を目的とした試掘調査の結果を明らかにするために、平成元年度より、年度毎に報告書を作成しております。

本報告書は、平成３年度に実施した県内の遺跡詳細分布調査の成果をまとめたものであり、文化財の保護に資するところがあれば幸いに存じます。

調査の実施と報告書の作成にあたり関係各位からのご協力・ご指導を賜りましたことに対し、心より感謝申し上げます。

平成４年３月

岩手県教育委員会

教育長　高　橋　健　之

例　言

1．本書は、岩手県教育委員会が平成３年度に実施した県内遺跡詳細分布調査事業に係る調査結果の概要報告である。なお、本事業は国庫補助金の交付を受けて実施したものである。

2．本事業は、岩手県教育委員会が調査主体となり、県立埋蔵文化財センター及び関係市町村教育委員会の協力を得て実施した。

3．表面調査の遺跡分布図は、国土地理院発行の1/25,000地図を原図に、原寸大を原則とし、試掘調査の配置図は、各事業所より入手した1/1,000地図を原図に、縮尺1/2を原則として掲載したが、双方とも、調査範囲の広いものについては縮小してある。

4．試掘調査に係る遺跡の推定範囲については、スクリーントーンで示し、試掘溝は実線で示した。

5．遺跡の名称については、分布調査は遺跡コード番号を主とし、すでに遺跡名の付けられているものについては遺跡名も併記した。試掘調査については、遺跡名を主とした。

6．本事業の調査、整理、報告書編集等は、岩手県教育委員会文化課の高橋信雄主任文化財主査・熊谷常正・中村英俊文化財主査が担当した。

7．本事業の記録及び出土品は、岩手県教育委員会文化課が保管している。

目　　次

序　　文

例　　言

I　遺跡分布調査

1．県営ほ場整備事業（赤石第２地区）関連…… 3

2．県営ほ場整備事業（本宮地区）関連…… 4

3．県営ほ場整備事業（西郷地区）関連…… 4

4．県営ほ場整備事業（土館地区）関連…… 5

5．県営ほ場整備事業（上平沢地区）関連…… 6

6．県営ほ場整備事業（飯岡第１地区）関連…… 6

7．県営ほ場整備事業（和賀中央第３地区）関連…… 7

8．農免農道整備事業（紫波地区）関連…… 8

9．県道紫波雫石線緊急地方道整備事業関連…… 8

10．農道整備事業（江刺家地区）関連…… 9

11．農道整備事業（亀ヶ森地区）関連…… 9

12．一般国道395号道路改良事業関連……10

13．一般県道和賀金ケ崎胆沢線凍雪害防止事業関連……11

14．県営かんがい排水事業（大瀬川地区）関連……11

15．産業廃棄物処理施設関連……12

16．千厩病院移転候補地関連……12

17．林業技術センター建設事業関連……13

18．県営畑地帯総合土地改良事業（藤崎地区）関連……13

II　試掘調査

1．県営ほ場整備事業〔上平沢地区〕関連……17

(1)　升沢極楽寺遺跡

(2)　作岡遺跡

(3)　上平沢川原遺跡

2．県営ほ場整備事業〔西郷地区〕関連……20

(1)　不動馬場遺跡

(2)　羽下遺跡

3．県営ほ場整備事業〔土館地区〕関連……21

(1) 関沢Ⅰ・Ⅱ遺跡
(2) 内川遺跡
(3) 小林遺跡
(4) 土館百目木遺跡
(5) 新里遺跡
(6) 土館田屋遺跡
(7) 中島遺跡
4．県営ほ場整備事業〔本宮地区〕関連……27
(1) 田中遺跡
(2) 林崎遺跡
5．県営ほ場整備事業〔赤石第2地区〕関連……29
(1) 平沢堤頭Ⅱ遺跡
(2) 平沢字館Ⅰ遺跡
(3) 平沢字館Ⅱ遺跡
(4) 桜町上野沢遺跡
(5) 平沢桧Ⅴ遺跡
(6) 伝平沢館遺跡
(7) 平沢堤頭Ⅰ遺跡
(8) 平沢桧Ⅰ遺跡
(9) 平沢桧Ⅲ遺跡
(10) 平沢境田Ⅲ遺跡
6．県営ほ場整備事業〔飯岡第1地区〕関連……40
(1) 深渕Ⅰ遺跡
(2) 深渕Ⅱ遺跡
(3) 上新田Ⅰ遺跡
(4) 上新田Ⅱ遺跡
(5) 西遺跡
(6) 熊堂Ⅰ遺跡
(7) 熊堂Ⅲ遺跡
(8) 熊堂Ⅱ遺跡
(9) 南谷地Ⅱ遺跡
(10) 田中遺跡

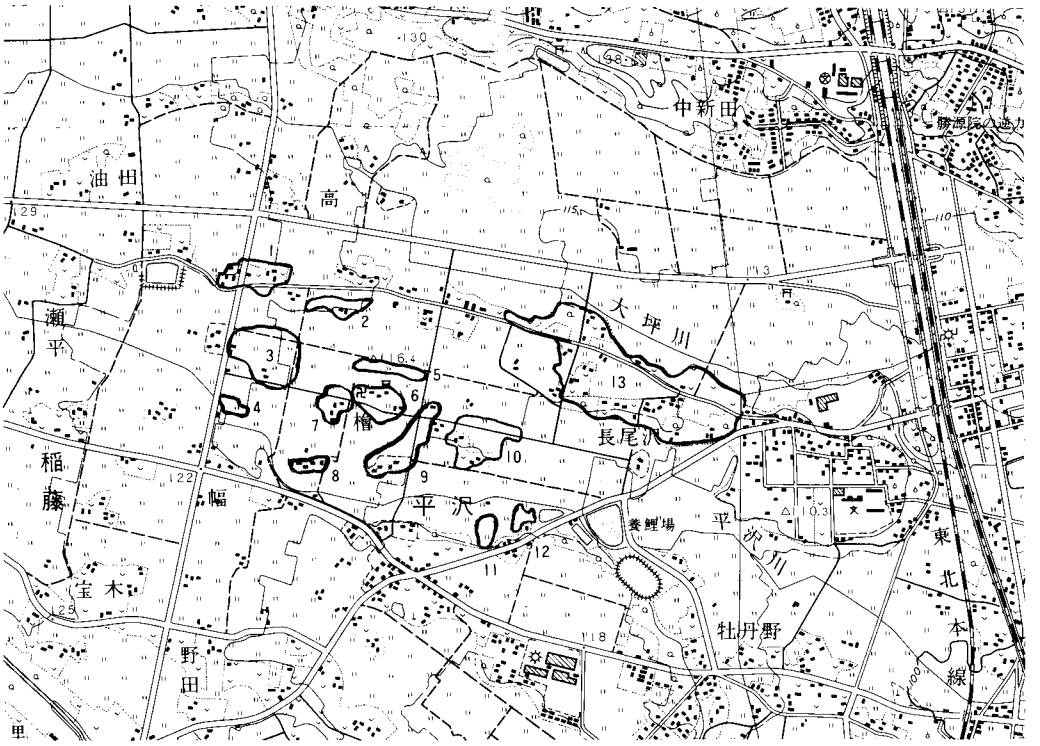
(11) 林崎II遺跡
7．国道46号線稲荷前バイパス建設事業関連……60
(1) 中道II遺跡
(2) 中道Ⅰ遺跡
(3) 仁沢瀬II遺跡
(4) 板橋II遺跡
8．三陸国道山田道路関連……62
(1) 上村遺跡
(2) 大畑II遺跡
9．県道二戸軽米線凍雪害対策事業関連……65
(1) 中村II遺跡
10．県道北成島花巻線整備事業関連……66
(1) 高松II遺跡
(2) 高松III遺跡
11．県道一関北上線交通安全施設整備事業関連……66
(1) 斎羽場遺跡
12．農免農道整備事業〔江刺家地区〕関連……68
(1) 田代III遺跡
(2) 田代VI遺跡
13．農免農道整備事業〔岩手地区〕関連……69
(1) 宮沢Ⅰ遺跡
(2) 宮沢II遺跡
(3) 倍田IV遺跡
14．広域農道整備事業〔盛岡西部地区〕関連……71
(1) 横道沢遺跡
15．農免農道整備事業〔手代森地区〕関連……71
(1) 妻の神遺跡
16．胆沢ダム建設事業関連……72
(1) 下尿前Ⅰ遺跡
(2) 下尿前IV遺跡
17．早池峰ダム建設事業関連……75
(1) 人中遺跡

(2)　上高森遺跡
(3)　高森遺跡
18．一関遊水地事業関連……77
(1)　樋渡遺跡
(2)　泉屋遺跡
19．滝名川河川改修事業関連……80
(1)　西田遺跡
(2)　西田東遺跡
20．山王海農業水利事業関連……81
(1)　弥五郎屋敷遺跡
21．工業技術センター建設事業関連……83
(1)　矢盛遺跡
22．県職員住宅建設事業関連……84
(1)　中曽根遺跡
23．その他の試掘調査……85
III　写真図版

I　遺跡分布調査

1．ほ場整備（赤石第２地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年４月15～17日



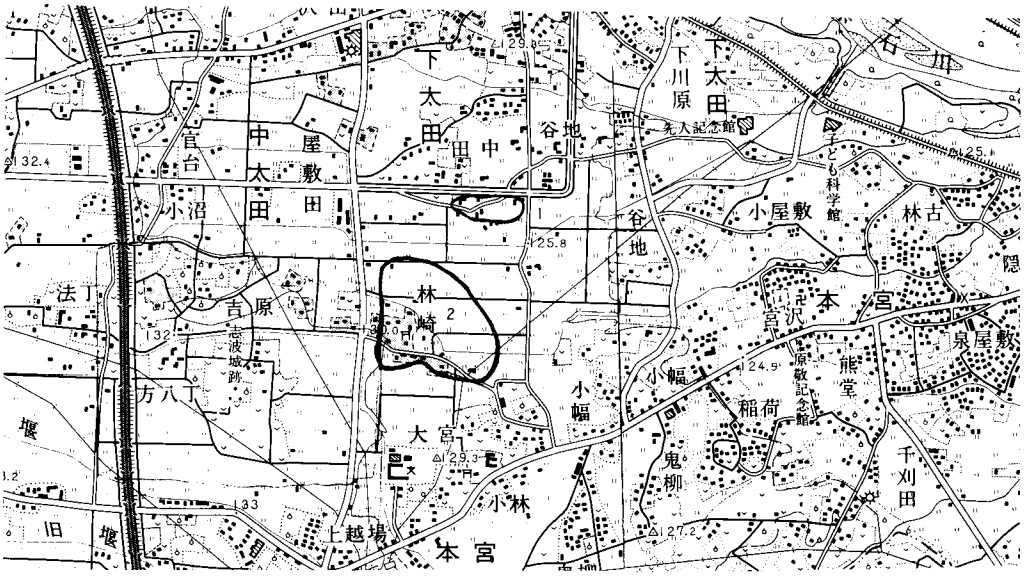
第１図　ほ場整備（赤石第２地区）関連遺跡分布図

第１表　ほ場整備（赤石第２地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	ＬＥ66－1251	六本松	散布地	土師器	平安	紫波町平沢字六本松		
2	1264	平沢堤頭Ⅱ	〃	〃	〃	〃　〃　字堤頭字川又	新規	
3	1282	平沢字館Ⅰ	〃	縄文土器・石器・土師器	縄文・平安	〃　〃　字館	〃	
4	2220	平沢桧Ⅰ	〃	須恵器	平安	〃　〃　字桧		
5	1296	平沢字館Ⅱ	〃	縄文土器・石器	縄文・（平安）	〃　〃　字館	新規	
6	2206	伝平沢館	〃	土師器	平安	〃　〃　〃		
7	2204	平沢桧Ⅴ	〃	〃	〃	〃　〃　字桧	新規	
8	2223	平沢桧Ⅱ	〃	〃	〃	〃　〃　〃		
9	2225	平沢桧Ⅲ	〃	縄文土器・土師器・須恵器	縄文・平安	〃　〃　〃		範囲拡大
10	2218	平沢堤頭Ⅰ	〃	〃　・須恵器	〃・〃	〃　〃　字堤頭		〃
11	2239	平沢境田Ⅱ	〃	土師器	平安	〃　〃　字境田	新規	
12	2330	平沢境田Ⅲ	〃	須恵器	〃	〃　〃　〃	〃	
13	1370	桜町上野沢	〃	石器・土師器	縄文・平安	〃　桜町字上野沢		

2．ほ場整備（本宮地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月１～２日



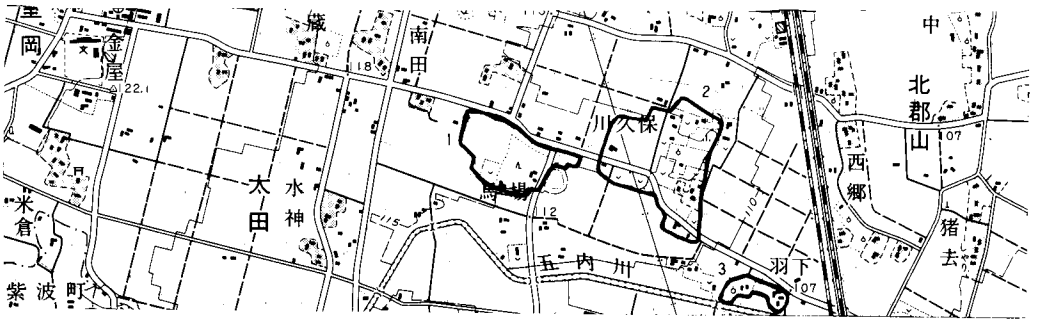
第２図　ほ場整備（本宮地区）関連遺跡分布図

第２表　ほ場整備（本宮地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	ＬＥ16－1055	田中	散布地	土師器	平安	盛岡市下太田字田中	新規	
2	－1082	林崎	〃	〃　・須恵器	〃	〃　〃 字林崎		範囲拡大

3．ほ場整備（西郷地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月９日



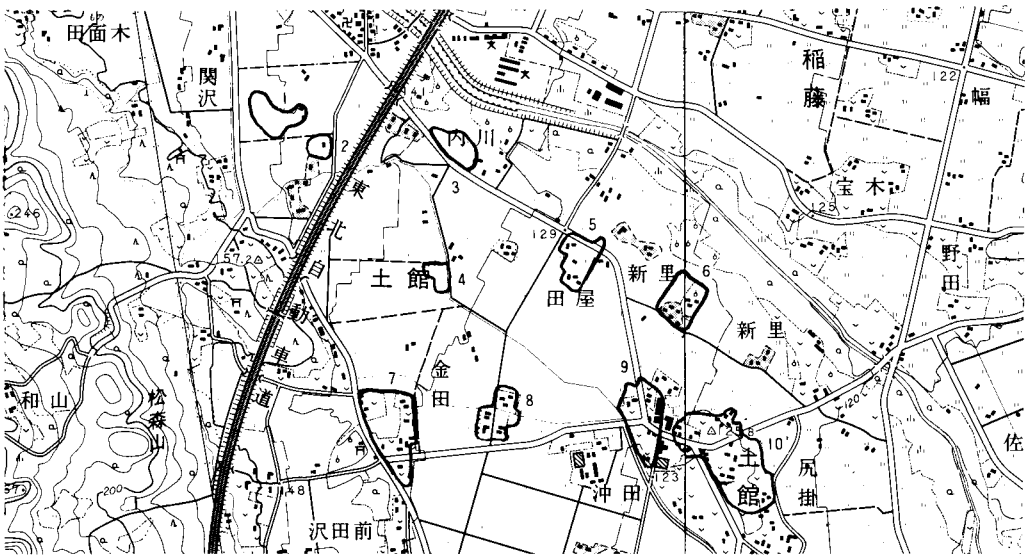
第３図　ほ場整備（西郷地区）関連遺跡分布図

第３表　ほ場整備（西郷地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＥ56　0277	不動馬場	集落跡	縄文土器・土師器	縄文・平安	矢巾町白沢第14地割馬場		平成２年度一部試掘
2	0361	羽下	〃	〃　・　〃	〃　・　〃	〃　〃　第13地割羽下		
3	1314	北郡山	散布地	土師器	平安	〃　北郡山第10地割 糠屋敷		

４．ほ場整備（土館地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月７～８日



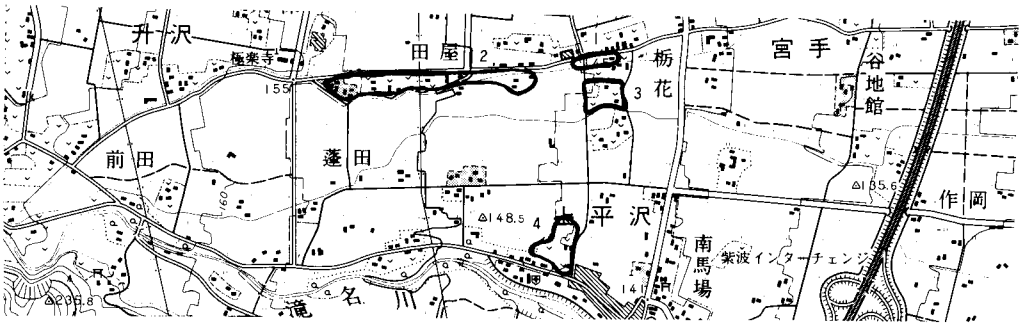
第４図　ほ場整備(土館地区)関連遺跡分布図

第４表　ほ場整備（土館地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＥ65－2336	関沢Ⅰ	散布地	土師器	平安	紫波町土館字関沢		
2	－2347	関沢Ⅱ	〃	〃	〃	〃　〃　〃		
3	ＬＥ66－2043	内川	〃	須恵器	〃	〃　〃　〃		
4	2092	土館百目木	〃	〃	〃	〃　〃　字百目木		
5	2087	小林	〃	土師器	〃	〃　〃　字小林		
6	2190	新里	〃	〃	〃	〃　〃　字新里		
7	ＬＥ76－0040	金田Ⅲ	集落跡	〃	〃	〃　〃　字金田		
8	0034	土館田屋	〃	〃　・須恵器	〃	〃　〃　字田屋		
9	0048	中島	散布地	〃　・　〃	〃	〃　〃　字沖田		範囲拡大
10	0140	尻掛	集落跡	縄文土器	縄文	〃　〃　字新里		ＬＥ76－0151を統合

5．ほ場整備（上平沢地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月７～８日



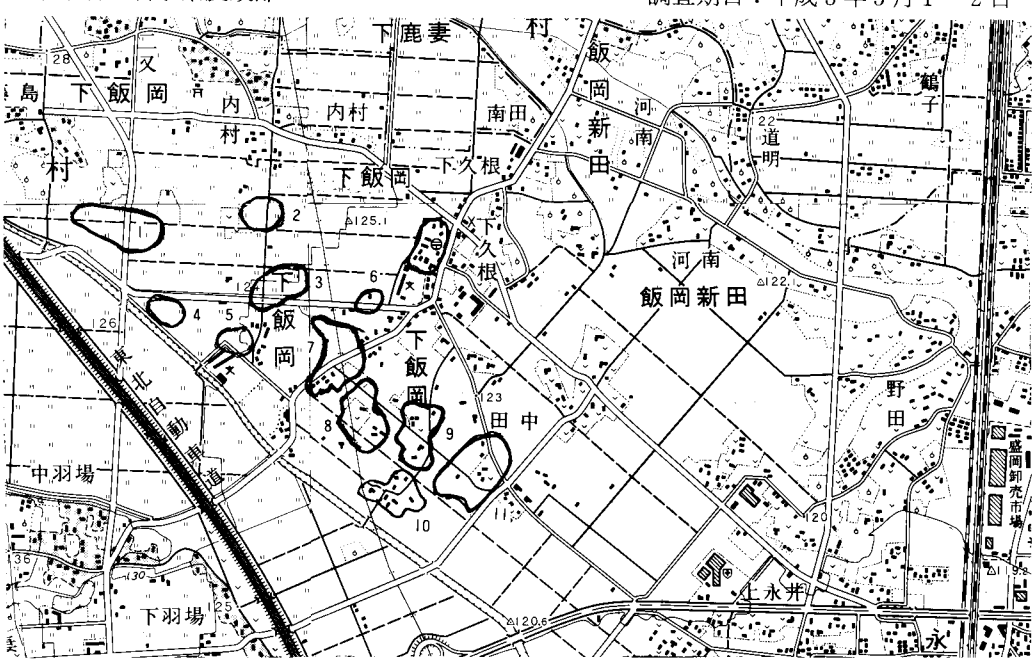
第５図　ほ場整備(上平沢地区)関連遺跡分布図

第５表　ほ場整備（上平沢地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	LE65－0375		散布地	土師器	平安	紫波町宮手字作岡	新規	
2	0275	升沢極楽寺	〃	縄文土器（中～後期）	縄文	〃　升沢字久保ほか		
3	0386	作岡	〃	土師器	平安	〃　宮手字作岡		
4	1335	上平沢川原	集落跡	〃	〃	〃　上平沢字川原		

6．ほ場整備（飯岡第１地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月１～２日



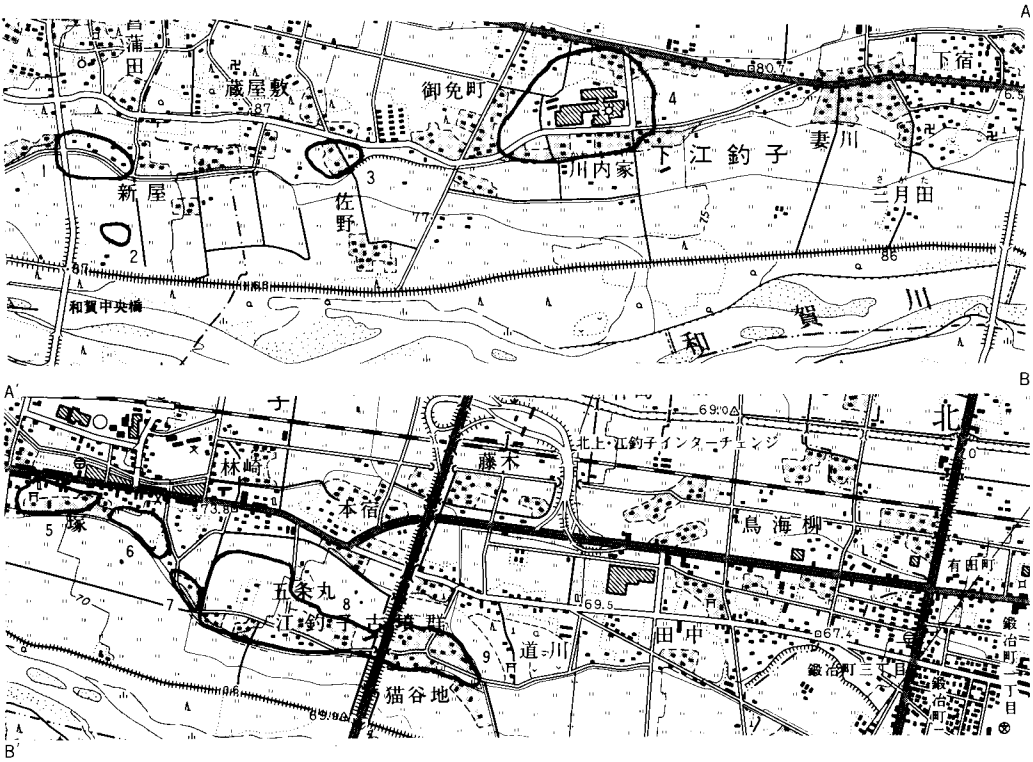
第６図　ほ場整備(飯岡第１地区)関連遺跡分布図

第６表　ほ場整備（飯岡第１地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＥ26－1003	林崎Ⅱ	集落跡	土師器・須恵器・古銭	奈良・平安～中世	都南村下飯岡林崎ほか	新規	
2	0098	深渕Ⅰ	散布地	〃　・　〃	平安	〃　〃　深渕		範囲拡大
3	1009	深渕Ⅱ	〃	〃	〃	〃　〃　〃		〃
4	1035	上新田Ⅰ	〃	〃	〃	〃　〃　上新田	新規	
5	1037	上新田Ⅱ	〃	〃	〃	〃　〃　〃	〃	
6	1130	西	〃	〃	〃	〃　〃　西		範囲拡大
7	1151	熊堂Ⅰ	〃	縄文土器・土師器・石器	縄文・平安	〃　〃　西田・熊堂		－1140西田・－1150熊堂を統合範囲拡大
8	1172	熊堂Ⅲ	〃	土師器・須恵器	平安	〃　〃　熊堂		範囲拡大
9	1174	熊堂Ⅱ	〃	〃　〃	〃	〃　〃　〃・田中		－1163熊堂・－1186田中を統合範囲拡大
10	1192	南谷地Ⅱ	〃	〃　〃	〃	〃　〃　南谷地・熊堂		範囲拡大
11	1186	田中	〃	〃　〃	〃	〃　〃　田中		〃
12	1106	高屋敷Ⅱ	〃	〃　〃	〃	〃　〃　高屋敷		

７．ほ場整備（和賀中央第３地区）関連遺跡一覧

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年10月１～２日



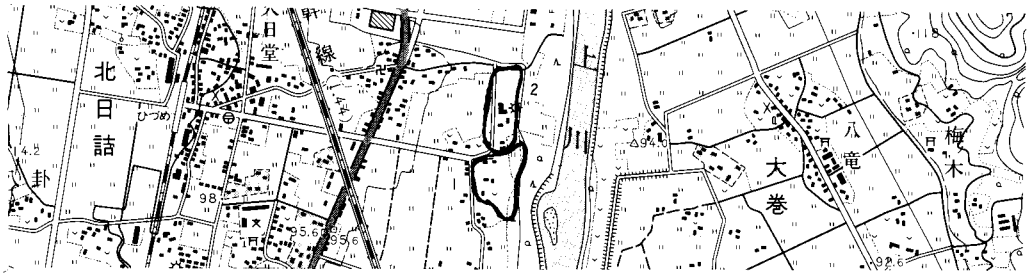
第７図　ほ場整備（和賀中央第３地区）関連遺跡分布図

第７表　ほ場整備（和賀中央第３地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ME64－0156	飯島	散布地	縄文土器（中～晩期）・須恵器	縄文・古墳	北上市和賀町長沼９地割		範囲拡大
2	0176					〃　〃　〃	新規	可能性あり
3	0254	佐野	散布地	土師器	平安	〃　下江釣子12地割		事業地外
4	0343	下江釣子羽場	集落跡	〃	奈良・平安	〃　〃　15地割		〃
5	ME65－0048	江釣子館	城館跡	堀	中世	〃　〃　16地割		〃
6	0162	五条丸館	〃	〃　・　土塁	〃	〃　〃　〃		〃
7	0183	五条丸Ⅰ	散布地	土師器	奈良	〃　上江釣子20地割		〃
8	0185	五条丸古墳群	古墳群	古墳・土師器	古墳・奈良	〃　〃　〃		国指定史跡
9	0290	猫谷地古墳群	〃	〃	〃　・　〃	〃　〃　〃ほか		〃

８．農道整備事業（紫波地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月８日



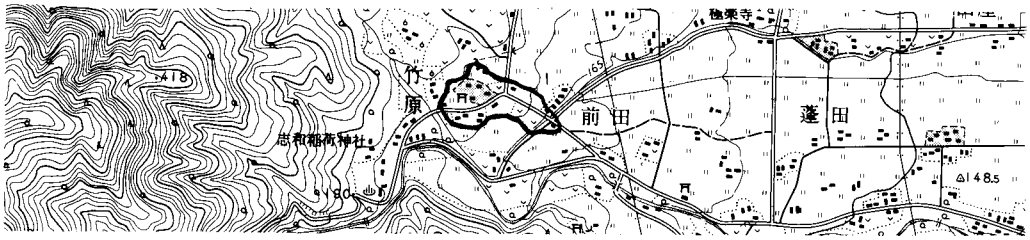
第８図　農道整備事業(紫波地区)関連遺跡分布図

第８表　農免農道整備事業（紫波地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＬＥ77－0164	北条館	城館跡	土師器	中世	紫波町北日詰字城内		
2	0144	北日詰城内Ⅱ	集落跡	縄文土器・竪穴住居	縄文	〃　〃　〃		紫波町教委昭和50調査

９．県道紫波雫石線緊急地方道整備事業関連調査

事業者：岩手県土木部　　調査期日：平成３年７月３日



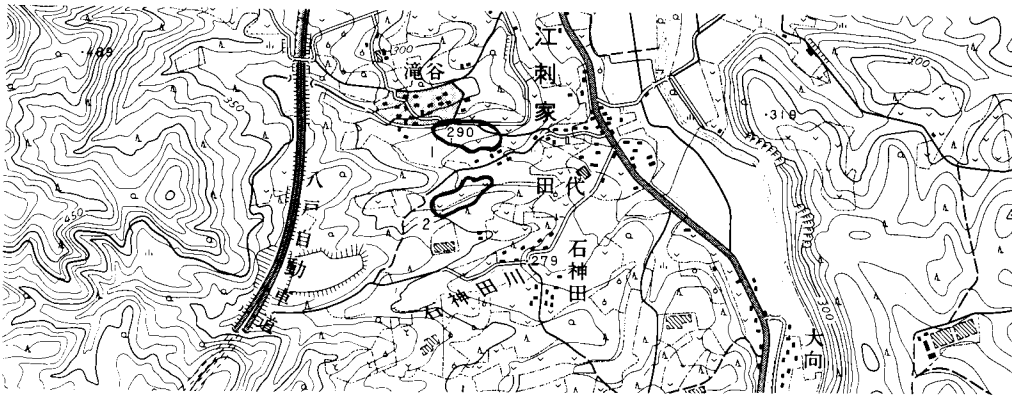
第９図　県道紫波雫石線整備事業関連遺跡分布図

第９表　県道紫波雫石線緊急地方道整備事業関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＬＥ65 -1104	升沢竹原	散布地	縄文土器（中～晩期）・石器	縄文	紫波町升沢字竹原		範囲拡大

10. 農道整備事業（江刺家地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年５月18日



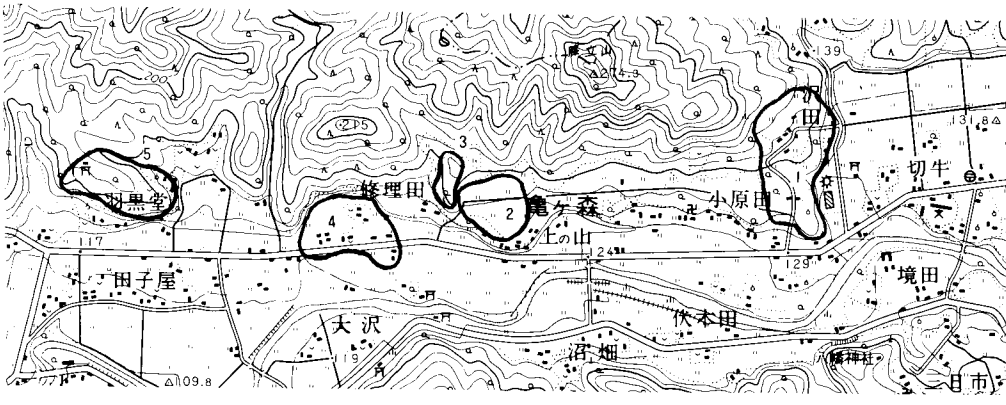
第10図　農道整備事業(江刺家地区)関連遺跡分布図

第10表　農免農道整備事業（江刺家地区）関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ＪＦ12 -0102	田代Ⅲ	散布地	縄文土器（前期）石器	縄文	九戸村大字江刺家第３地割		
2	0111	田代Ⅵ	〃	〃　（後期）	〃	〃		

11. 農道整備事業（亀ケ森地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年10月１～２日



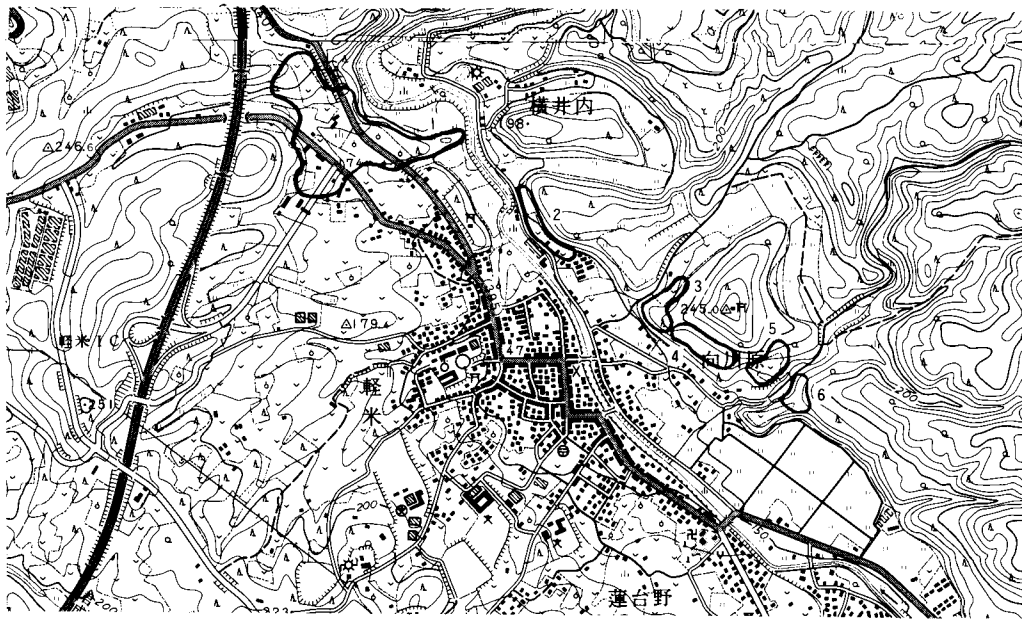
第11図　農道整備事業(亀ヶ森地区)関連遺跡分布図

第11表　一般農道整備事業・亀ヶ森地区関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＥ78－1300	御堂鼻	集落・城館	配石・空堀・石碑・土器	縄文・中世	大迫町亀ヶ森字御堂鼻		範囲拡大
2	1119	エゾ穴	散布地	縄文土器・土師器	縄文・平安	〃　〃　字修理田		〃
3	1107	朴沢	〃	縄文土器(前・中期)	縄文	〃　〃　〃		
4	1125	修理田	〃	〃　(中・晩期)石器	〃	〃　〃　〃		範囲拡大
5	1006	御所ヶ館	城館	空堀・郭・井戸	中世	〃　〃　字羽黒堂		

12. 一般国道395号道路改良工事事業関連調査

事業者：岩手県土木部　　調査期日：平成３年５月16～18日



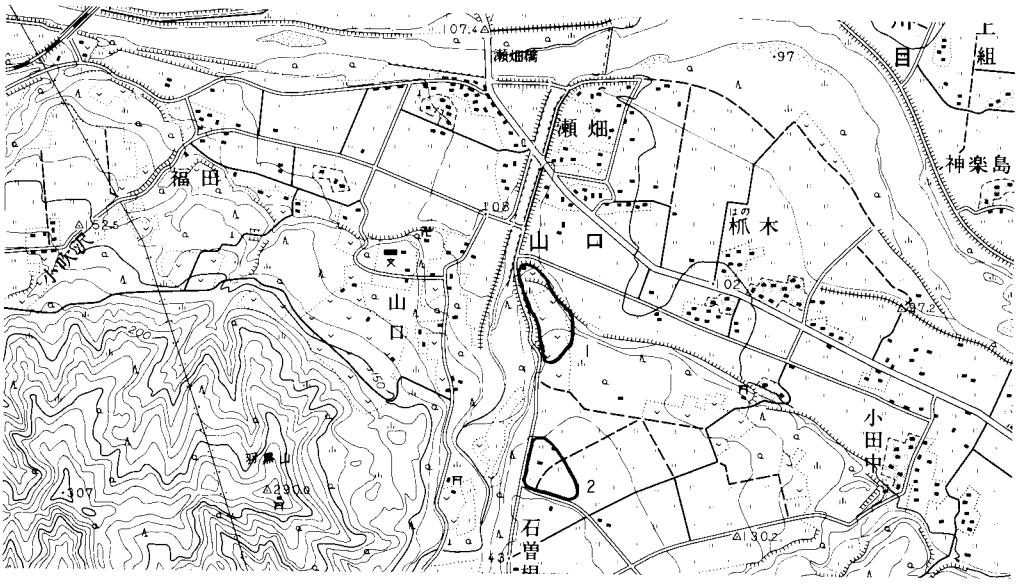
第12図　国道395号道路改良事業関連遺跡分布図

第12表　一般国道395号（軽米バイパス）道路改良工事関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ＩＦ73－2112	大日向	集落跡	縄文土器・石器ほか	縄文	大字軽米第12地割字上弓他		大日向ⅡⅢ・土弓を統合範囲拡大
2	2128		散布地	縄文土器	〃	大字上館字下向川原	新規	計画路線外
3	2262		〃	〃	〃	〃	〃	
4	2273		〃	〃	〃	〃	〃	
5	2286	沼田Ⅲ	〃	縄文土器・土師器	縄文・奈良	大字上館字沼田		範囲拡大
6	2296		〃	〃	縄文	大字上館字向川原	新規	

13. 一般県道和賀金ケ崎胆沢線凍雪害防止事業関連調査

事業者：岩手県土木部　　調査期日：平成３年10月29日



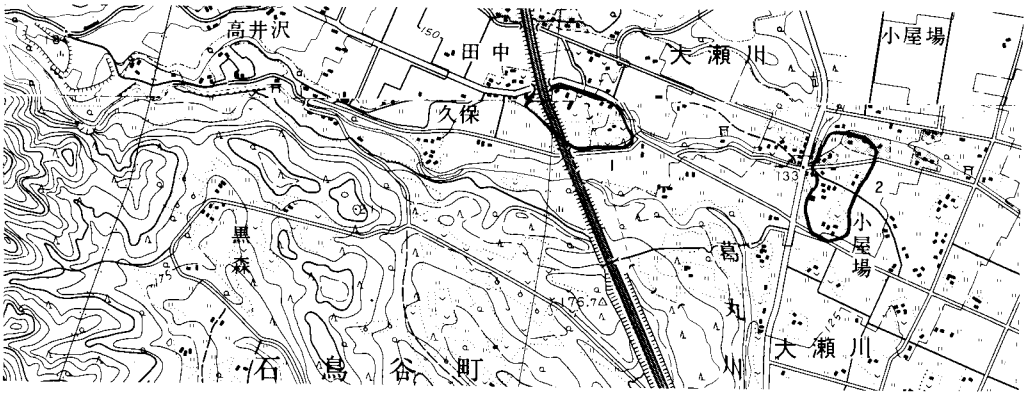
第13図　県道和賀金ヶ崎胆沢線凍雪害防止事業関連遺跡分布図

第13表　一般県道和賀金ヶ崎肝沢線雪寒事業関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　　考
1	ME63－0068	田中館	散布地・城館跡	縄文土器・石鏃・堀跡	縄文・中世	北上市和賀町山口田中館		
2	ME63－1008	八幡野Ⅰ	散布地	縄文土器・石斧	縄文	〃　〃　〃 38地割		

14. 県営かんがい排水事業（大瀬川地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年11月12日



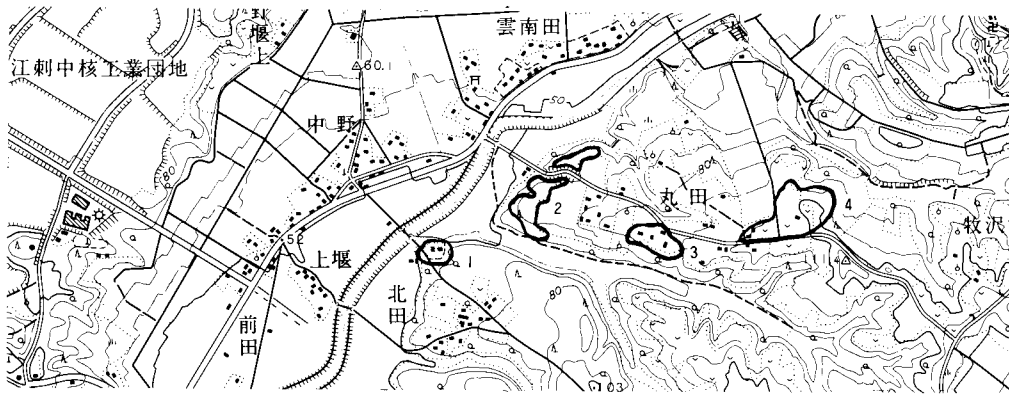
第14図　県営かんがい排水事業(大瀬川地区)関連遺跡分布図

第14表　県営かんがい排水事業・大瀬川地区関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	LE85－1345	大地渡	集落跡	縄文土器・石器	縄文	石鳥谷町大瀬川第7地割		
2	LE86－1084	田屋	散布地・城館跡	縄文土器・石器	縄文・中世	〃　〃		範囲拡大

15. 産業廃棄物処理施設関連調査

事業者：岩手県環境保健部　　調査期日：平成3年7月29～30日



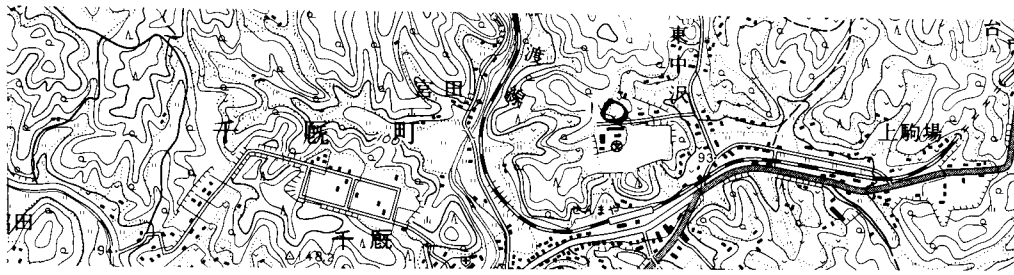
第15図　産業廃棄物処理施設関連遺跡分布図

第15表　産業廃棄物処理施設整備計画関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　代	所　在　地	新発見の有無	備　考
1	ME97－1355		館跡	平場・墓碑群	中・近世	江刺市岩谷堂北田	新規	可能性あり
2	ME97－1329		散布地	縄文土器・石鏃・剥片	縄文	〃　〃　丸田	〃	
3	ME98－1030	大名野	〃	石鏃・剥片	〃	〃　〃　〃		古墳群（損壊）もあり
4	ME98　1046		〃	須恵器	平安	〃　〃　〃	新規	古墳（損壊）もあり

16. 千厩病院移転候補地関連調査

事業者：岩手県医療局　　調査期日：平成3年12月5～6日



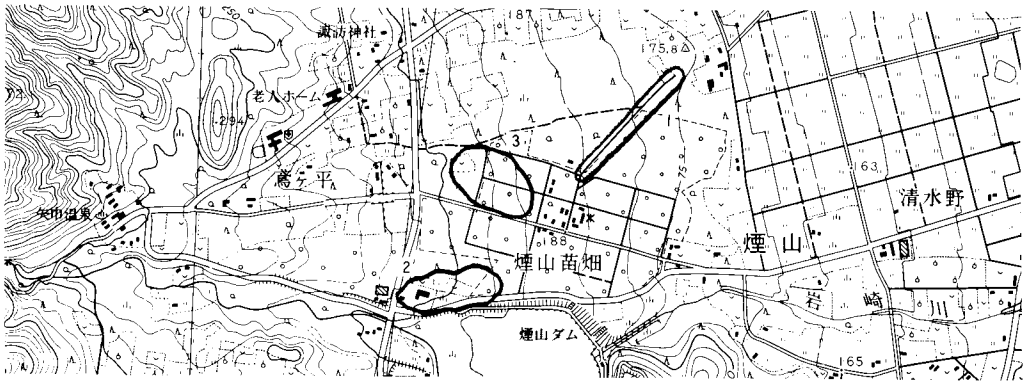
第16図　千厩病院移転候補地関連遺跡分布図

第16表　千厩病院移転候補地関連遺跡一覧

番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　　代	所　　在　　地	新発見の有無	備　　考
1	ＮＦ91　2017		散布地	土師器（？）	古代	千厩町千厩字東中沢	新規	

17. 林業技術センター建設事業関連調査

事業者：岩手県林政部　　調査期日：平成３年11月11日



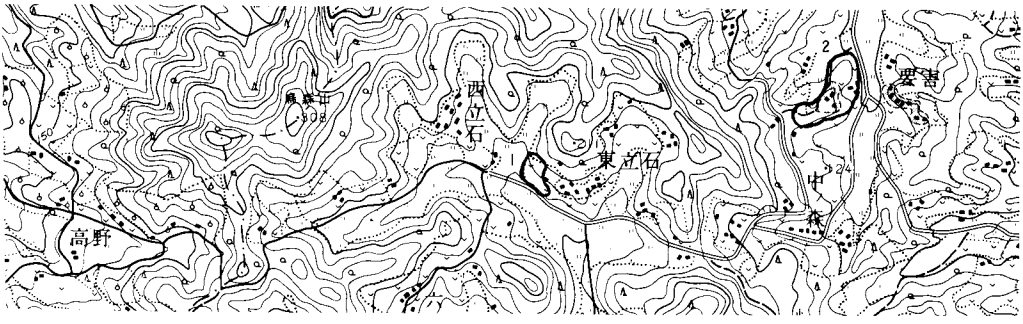
第17図　林業技術センター建設事業関連遺跡分布図

第17表　林業技術センター整備事業関連遺跡一覧

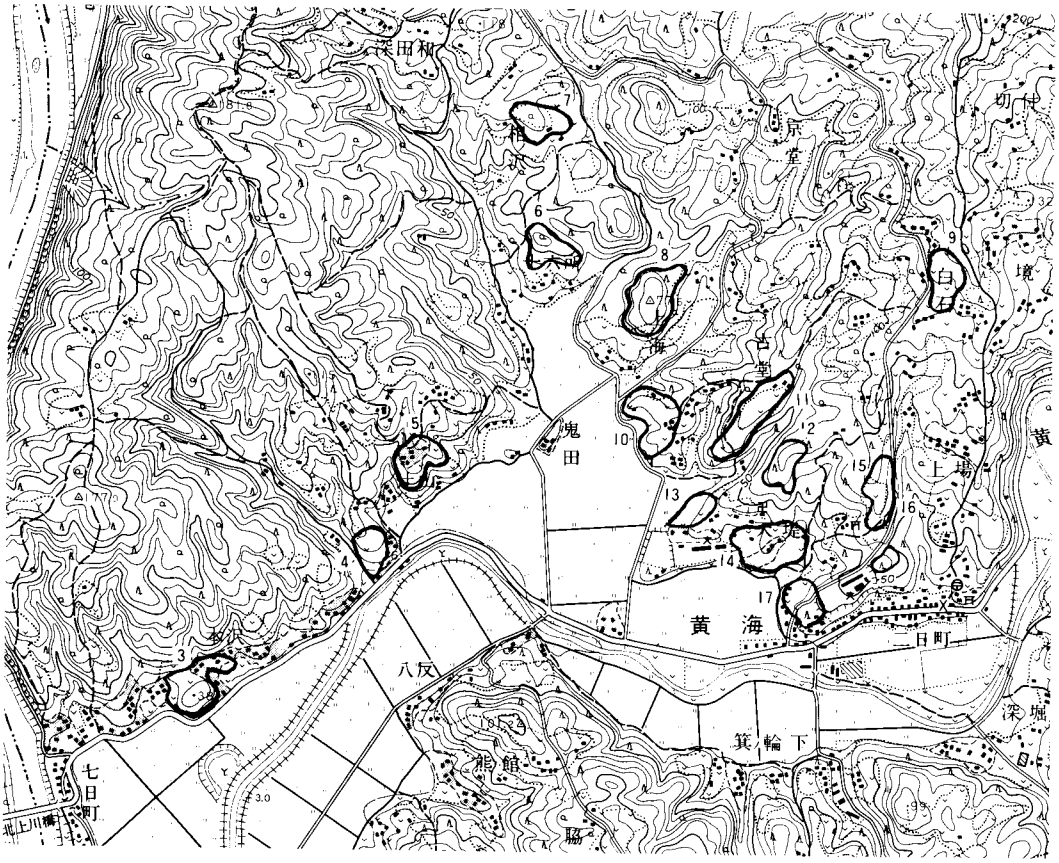
番号	遺跡コード番号	遺　跡　名	種　別	遺　構・遺　物	時　　代	所　　在　　地	新発見の有無	備　　考
1	ＬＥ45－0330	稲荷街道松並木	街道跡	土塁	江戸	矢巾町煙山		
2	－0218		散布地	土器	縄文	〃	新規	
3	－0276	稲荷街道井戸跡	井戸跡・散布地	井戸跡・土器・石器	縄文・江戸	〃		範囲拡大

18. 県営畑地帯総合土地改良事業（藤崎地区）関連調査

事業者：岩手県農政部　　調査期日：平成３年10月30日～11月１日



第18(1)図　県営畑地帯総合土地改良事業(藤崎地区)関連遺跡分布図



第18(2)図　県営畑地帯総合土地改良事業(藤崎地区)関連遺跡分布図

第18表　県営畑地帯総合土地改良事業（藤崎地区）関連遺跡一覧

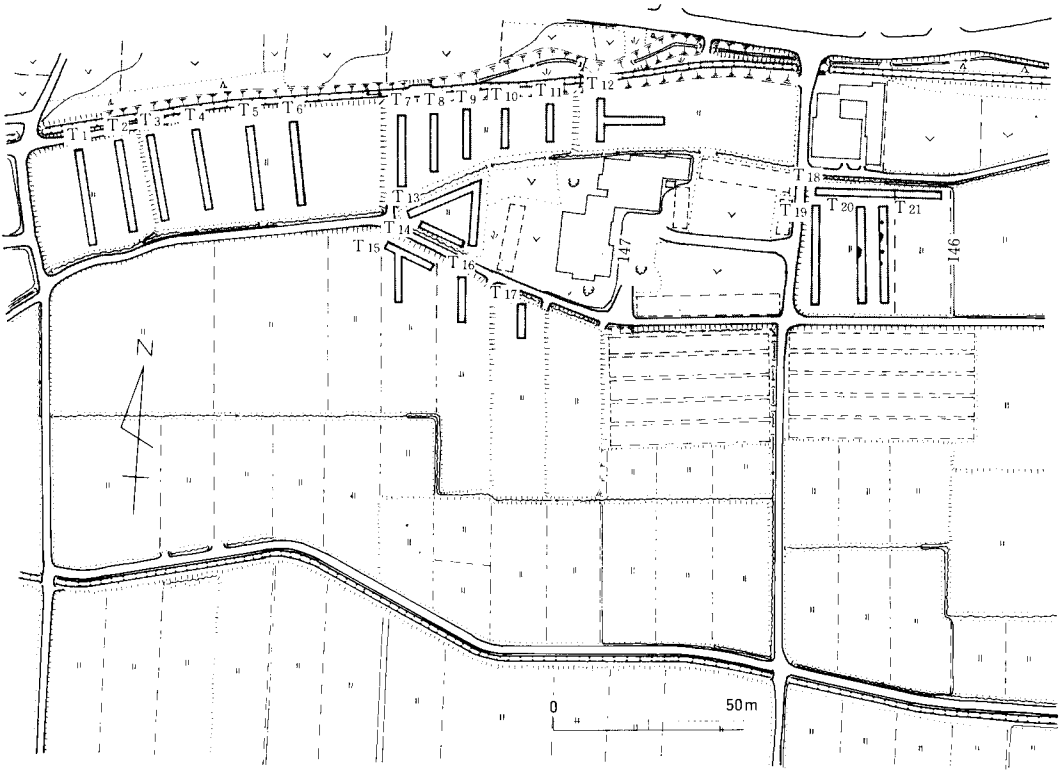
番号	遺跡コード番号	遺跡名	種別	遺構・遺物	時代	所在地	新発見の有無	備考
1	ＯＦ10－1268		散布地	土器片	縄文（？）	藤沢町増沢字東立石	新規	
2	－1327	要害館Ａ	城館跡	郭（？）	中世	〃　〃 字中ノ森		
3	ＯＥ29－2215	シダ森	散布地	縄文土器・石器	縄文	〃　黄海字本沢		
4	－1341	大木沢館	散布地 城館跡	土器片・空堀（？）	縄文(？)・ 中世	〃　〃 字辻山		
5	－1324	辻山館	城館跡	郭状の平場	中世	〃　〃　〃		
6	－0375	十六将	散布地	縄文土器	縄文	〃　〃 字十六将		
7	－0315	相ノ沢	〃	〃　・石器	縄文（晩）	〃　〃 字相ノ沢		開田により一部損壊
8	－0389	上海館	城館跡	空堀（？）	中世	〃　〃 字古堂		
9	ＯＦ20－0162		散布地	縄文土器	縄文	〃　〃 字白石	新規	
10	－1020		城館跡	郭・腰郭状の平場	中世	〃　〃 字鬼田	〃	
11	－1024	古堂館	〃	〃	〃	〃　〃 字古堂		
12	－1045	古館	〃	郭状の平場・空堀（？）	〃	〃　〃 字天堤		
13	－1071		散布地	土器片	縄文（？）	〃　〃　〃	新規	
14	－1064	長昌寺	〃	縄文土器・須恵器	縄文・古代	〃　〃　〃		
15	－1048		〃	土師器	古代	〃　〃　〃	新規	工場用地により損壊
16	－1079		〃	須恵器	〃	〃　〃　〃	〃	
17	－2006	七郎五郎	〃	縄文土器	縄文(後・晩)	〃　〃　〃		

II　試掘調査

1．県営ほ場整備事業〔上平沢地区〕　（位置図：第５図参照）

(1)　升沢極楽寺遺跡

所在地：紫波郡紫波町升沢字田屋　調査期日：平成３年８月５日～６日

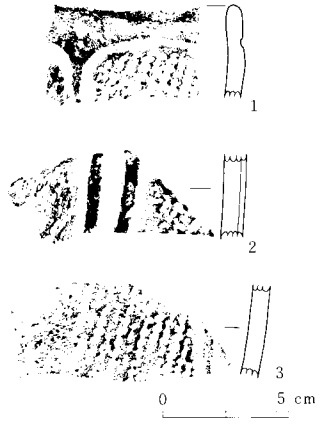


第19図　升沢極楽寺遺跡トレンチ配置図

升沢極楽寺遺跡は、滝名川の左岸に広がる沖積平野上に立地し、標高146m～148mを計る。工事予定地内にトレンチT_1～T_{21}を設定し実施した。

調査の結果、T_1～T_6においては旧河道の影響による砂礫層が見られた。また、T_7～T_{17}は地形の改変を受けており、グライ化した青灰色粘土層が見られた。T_1～T_{17}ではいずれのトレンチからも遺構・遺物ともに発見されなかった。

遺構・遺物が集中するのは微高地として残るT_{20}・T_{21}である。T_{20}中央部で竪穴住居址が１棟、T_{21}で竪穴住居址１棟と土坑３基が検出されている。いずれからも縄文時代中期の土器片（第20図）が出土しており、盛土により遺構の保存を図った。

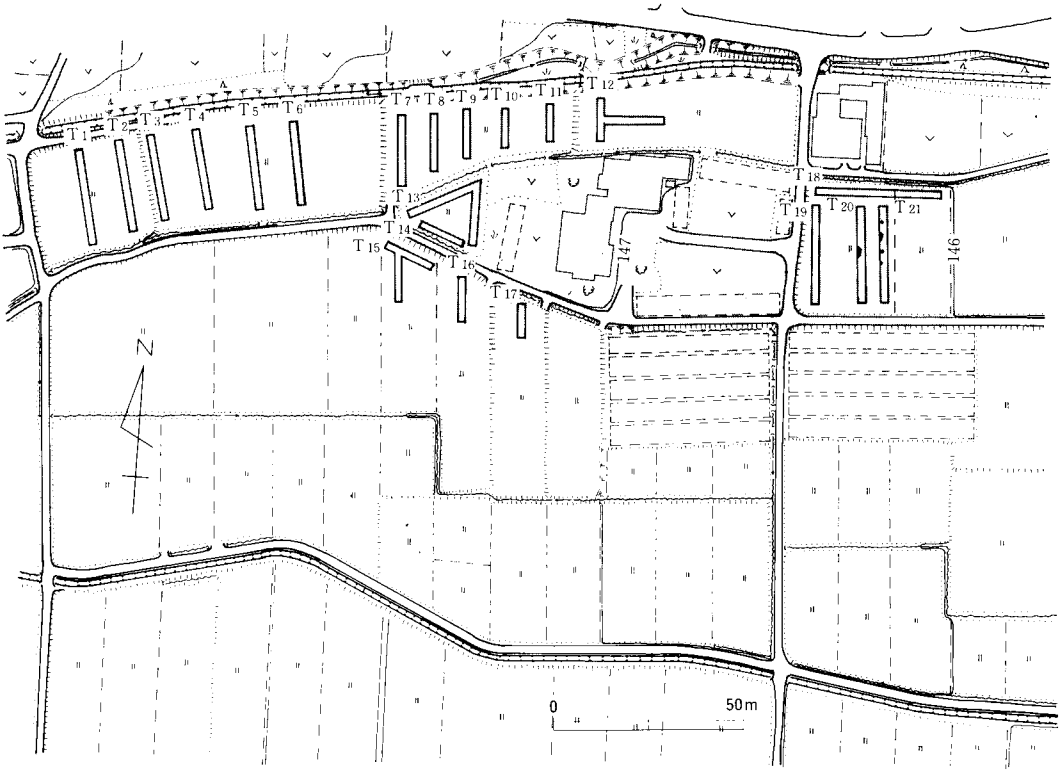


第20図　升沢極楽寺遺跡出土遺物

1．県営ほ場整備事業〔上平沢地区〕　（位置図：第５図参照）

(1)　升沢極楽寺遺跡

所在地：紫波郡紫波町升沢字田屋　調査期日：平成３年８月５日～６日

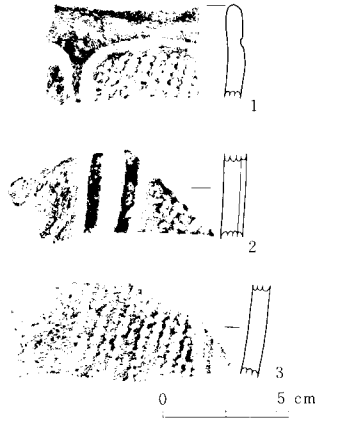


第19図　升沢極楽寺遺跡トレンチ配置図

升沢極楽寺遺跡は、滝名川の左岸に広がる沖積平野上に立地し、標高146m～148mを計る。工事予定地内にトレンチT_1～T_{21}を設定し実施した。

調査の結果、T_1～T_6においては旧河道の影響による砂礫層が見られた。また、T_7～T_{17}は地形の改変を受けており、グライ化した青灰色粘土層が見られた。T_1～T_{17}ではいずれのトレンチからも遺構・遺物ともに発見されなかった。

遺構・遺物が集中するのは微高地として残るT_{20}・T_{21}である。T_{20}中央部で竪穴住居址が１棟、T_{21}で竪穴住居址１棟と土坑３基が検出されている。いずれからも縄文時代中期の土器片（第20図）が出土しており、盛土により遺構の保存を図った。



第20図　升沢極楽寺遺跡出土遺物

(2) 作岡遺跡

所在地：紫波郡紫波町宮手字作岡　調査期日：平成３年８月５日～６日

第21図　作岡遺跡トレンチ配置図

作岡遺跡は、滝名川の左岸に広がる沖積平野上にあり、東西に長く開析された段丘縁辺に立地する。標高は143～144mを計り、現状は畑地及び水田である。昨年度、かんがい排水用水路のために遺跡南端を調査しており、フラスコピット１基が検出され、磨製石斧及び縄文土器片が出土している。

調査は、今年度の工事予定地内にT_1～T_6を設定し実施した。土層の基本層度は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層暗褐色土、第Ⅲ層黄褐色土である。T_1～T_6はほぼ平坦面であるが、T_4から南側がやや低くなる。遺構検出は第Ⅲ層上面で行った。調査の結果、T_1の南端及びT_2の北端で主軸方向の違う陥し穴各１基が検出された。また、T_2・T_3において径15～20cmの柱穴が多数検出されたが、規則性は認められず、遺物も共伴しないところから時期については不明である。T_4・T_5については、遺構・遺物ともに発見されなかったが、T_6東端において遺物包含層が見られ、縄文土器片が出土している。

遺構出土範囲については、盛土による保存を図った。

(3) 上平沢川原遺跡

所在地：紫波郡紫波町上平沢字川原　調査期日：平成３年８月６日

第22図　上平沢川原遺跡トレンチ配置図

上平沢川原遺跡は、滝名川の左岸の沖積地上にあり、南側を開析された段丘縁辺に立地する。標高は144m～146mを計り、遺跡中央より南側がやや高くなる。現状は水田、畑地、宅地となつている。本遺跡から西にのびる段丘縁辺部には周知の遺跡が点在する。

工事予定地内にトレンチT_1～T_{12}を設定し調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層暗褐色砂質土、第Ⅳ層褐色砂質土であるが、T_2～T_7トレンチの南端部からT_{12}トレンチにかけて、河川堆積による砂礫層が見られた。

T_4・T_5の中央から北半部において、径15～25cmを計る柱穴が多数検出されたが、規則性は認められず、遺物も共伴しないところから時期については不明である。その他のトレンチにおいていては、遺構・遺物ともに発見されなかった。

遺構が集中するT_4・T_5については、盛土による設計変更で保存を図ることとし、遺跡南東部の宅地周辺については、事業除外地とした。

2．県営ほ場整備事業〔西郷地区〕(第３図参照)

(1) 不動馬場遺跡

所在地：紫波郡矢巾町大字白沢第10地割

調査期日：平成３年９月６日・10月５日

不動馬場遺跡は、五内川左岸の低位段丘上に立地し、遺跡の標高は約113.5～114.5mを図る。遺跡の中心は、今年度調査区の西側に集中しており、昨年度のほ場整備に当たり、全面盛土による遺構の保存を図ったところである。

調査は、今年度の事業区にトレンチT_1～T_8を設定し実施した。T_1～T_5では遺構・遺物ともに発見されなかったものの、T_6・T_7で平安時代の住居址各１棟が検出された。T_6の住居址は北側にカマドを持ち、回転糸切りの坏(第24図１)が１点出土している。

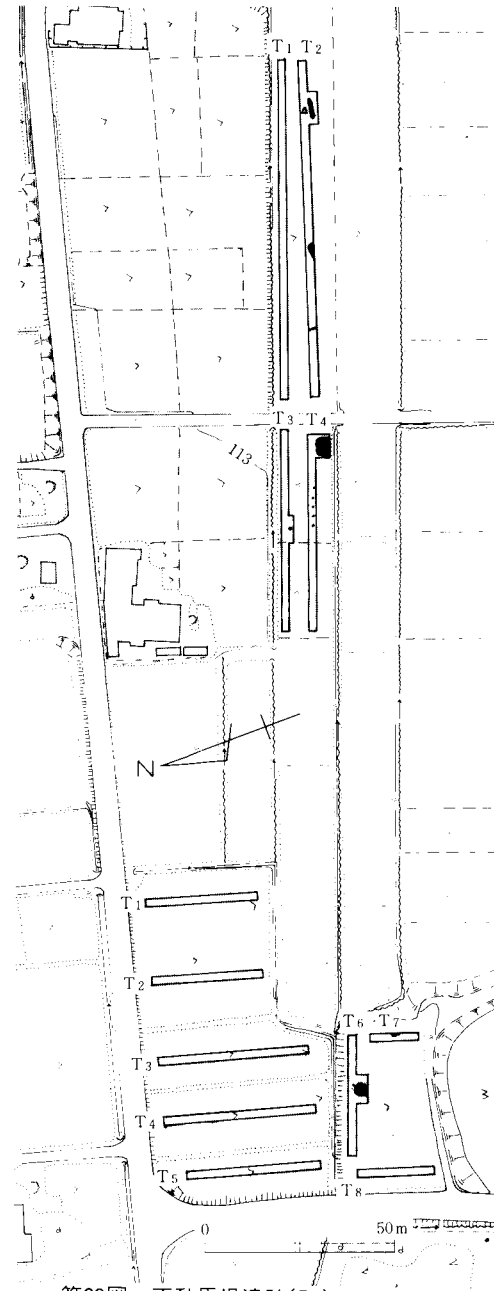
上記の調査結果から、T_6・T_7については盛土による遺構の保存を図った。

(2) 羽下遺跡

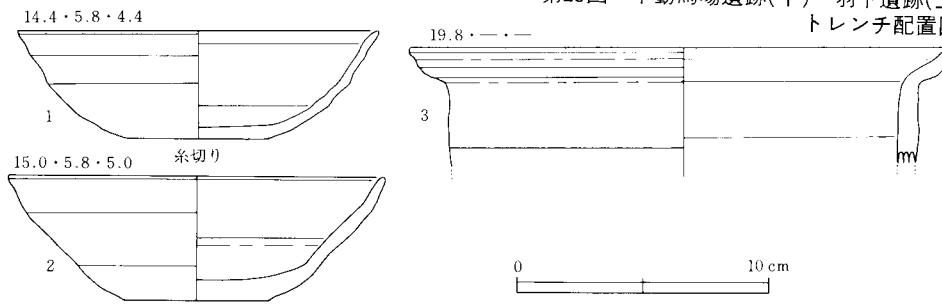
所在地：紫波郡矢巾町白沢第13地割羽下

調査期日：平成３年９月６日

トレンチT_1～T_4を設定し調査を実施した結果、T_2において焼土跡１基・構跡１条・竪穴住居址１棟が検出された。また、T_4において土坑５基と東カマドを持つ平安時代の竪穴住居址１棟が検出され、住居址内から土師器の坏と甕(第24図２・３)が出土した。以上の調査結果から、今回の調査区は事業から除外することとした。



第23図　不動馬場遺跡(下)・羽下遺跡(上)トレンチ配置図



第24図　不動馬場遺跡(1)・羽下遺跡(２・３)出土遺物

3．県営ほ場整備事業　〔土館地区〕　（位置図：第４図参照）

(1)　関沢Ⅰ遺跡、関沢Ⅱ遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字関沢　調査期日：平成３年10月４日

第25図　関沢Ⅰ遺跡(下)・関沢Ⅱ遺跡(上)トレンチ配置図

関沢Ⅰ遺跡、関沢Ⅱ遺跡は、北上川の支流である滝名川によって形成された沖積地上に立地し、標高は約139～141mを計る。遺跡の現状は、水田、畑地及び宅地である。

関沢Ⅰ遺跡の事業予定地内にトレンチT_1～T_{16}を設定し、試掘調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層黄褐色粘土であるが、T_{11}～T_{16}の北半部及びT_6・T_7では約50～70cmの黒色土の厚い堆積が見られ、T_8～T_{10}では耕作土直下に礫層が見られた。調査の結果、T_6の東端で石匙１点が出土したためトレンチを拡張し調査を実施したが、遺構は検出されなかった。他のトレンチからも遺構・遺物ともに発見されなかった。

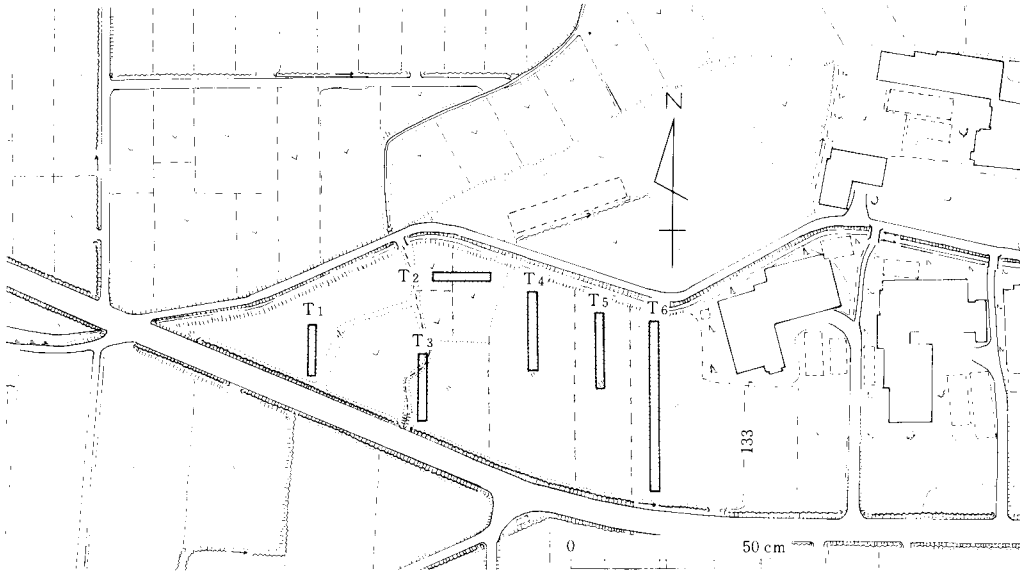
関沢Ⅰ遺跡の南側に位置する関沢Ⅱ遺跡は、土師器片が表持された遺跡であるが、事業予定地内に設定したトレンチT_1～T_3では遺構・遺物ともに発見されなかった。

(2) 内川遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字内川　調査期日：平成３年10月16日

内川遺跡は、滝名川によって北側を開析された低位段丘上の縁辺部に立地し、標高は約132m～133mを計る。遺跡の現状は水田及び畑地である。

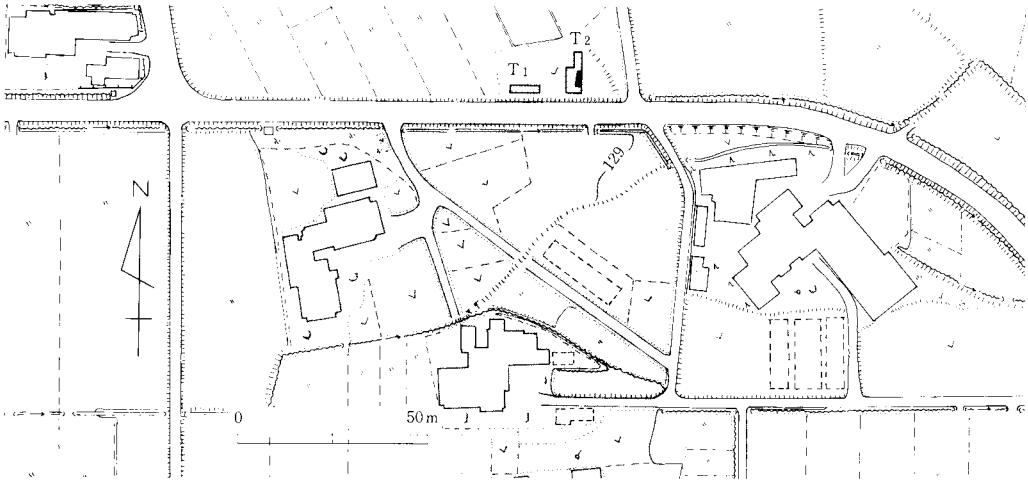
遺跡の事業予定地内にトレンチT_1～T_6を設定し、試掘調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層褐色粘土である。調査の結果、T_1・T_3及びT_6の南半部では、水田造成の際の削平が見られ、T_2では約80cmの黒褐色土の堆積が見られた。遺物については、T_3・T_4で土師器個片が出土したものの、遺構については、いずれのトレンチからも検出されなかった。



第26図　内川遺跡トレンチ配置図

(3) 小林遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字小林　調査期日：平成３年10月16日



第27図　小林遺跡トレンチ配置図

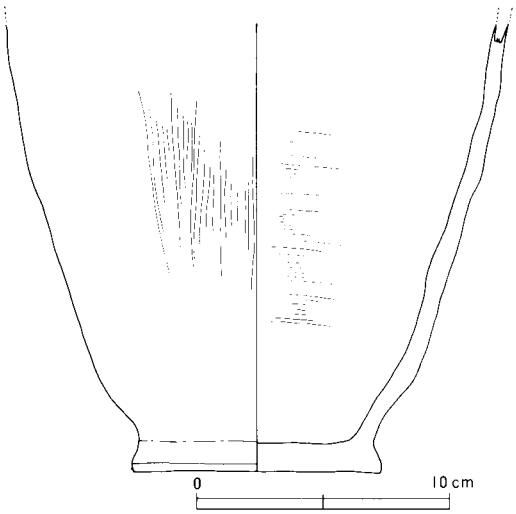
本遺跡は、滝名川の南岸に位置する段丘上の微高地で、標高約129mを計る。県道紫波石鳥谷線の北に接する畑地が本事業に係ることとなり調査を実施した。

調査の結果、T_1では基盤の礫層が上昇していたため、遺構は確認されなかったが、T_2において、暗褐色粘土層を確認面とし、やや黒味がかった褐色土層を埋土に持つ竪穴住居が一棟検出された。この住居は一辺約６m、やや東に振れる軸線を持つもので、カマド等は検出していない。埋土上部より、内外面ナデ調整の土師器甕が出土している。これは、埋土内にほぼ直立して出土したが、口縁～胴上半部は欠損している。内面には輪積み痕が明瞭に残り、底部は強く張り出す特徴がある。時期は８世紀末と考えられている。

調査区南側の宅地・畑地が遺跡の中心地区と思われ、須恵器片等も採集できることから、平安時代まで継続する集落跡と推定される。

なお、竪穴住居が検出された部分については、水田面を現状のまま盛土し、保存することとした。

検出された遺構については、盛土により保存を図った。



第28図　小林遺跡出土遺物

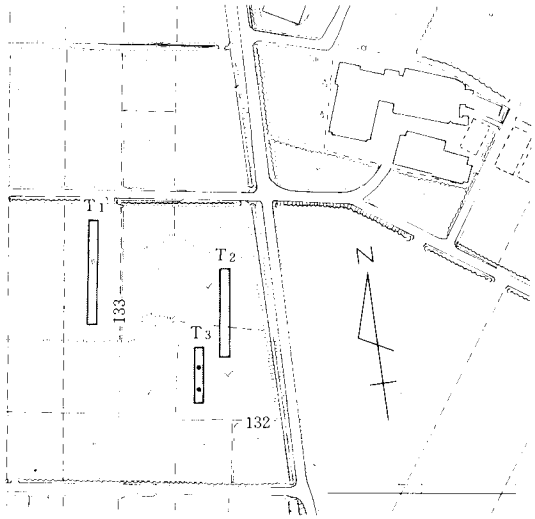
(4) 土館百目木遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字百目木

調査期日：平成３年10年４日

土館百目木遺跡は、滝名川によって形成された沖積地上の微高地に立地し、標高は約132～133mを計る。昨年度の分布調査において、須恵器片が表採されたため遺跡としたところである。現状は畑地及び水田である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_2を設定し試掘調査を実施した。その基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒色土、第Ⅲ層褐色土であり、遺跡南側に緩やかに傾斜しながら下がる。



第29図　土館百目木遺跡トレンチ配置図

調査の結果遺構は、T_3の第Ⅱ層上面で径約35cmのピット２基が検出され、土師器片が出土している。

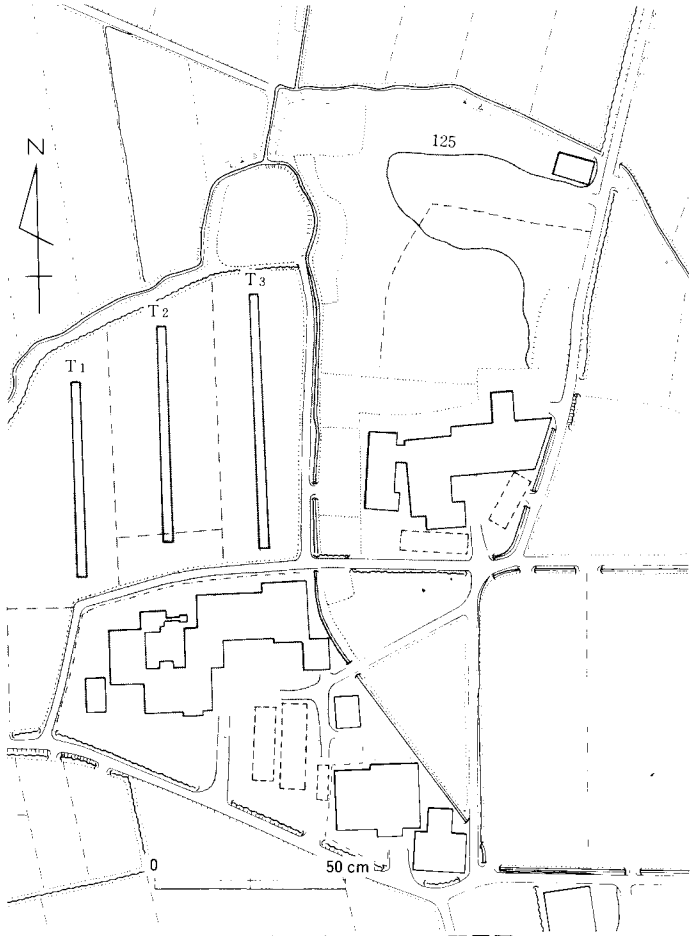
(5) 新里遺跡

所在地:紫波郡紫波町土館字新里

調査期日:平成３年10月16日

新里遺跡は、北側を旧河川によって開析された段丘縁辺部に立地し、標高は125m～126mを計る。

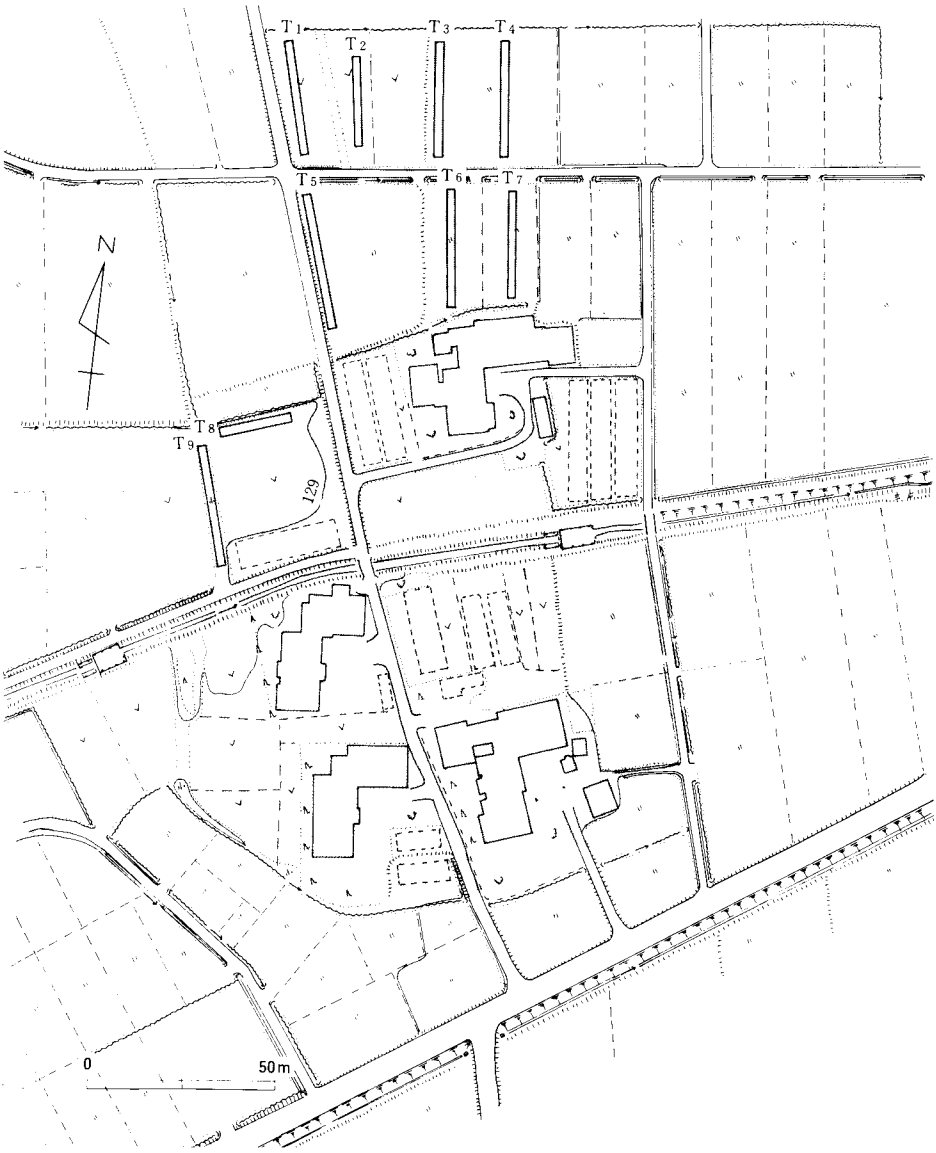
事業予定地内にトレンチT_1～T_3を設定し調査を実施した。T_1～T_3はいずれも水田造成の際に削平を受けており、攪乱された黒褐色土中から土師器細片が出土したのみである。



第30図　新里遺跡トレンチ配置図

(6) 土館田屋遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字田屋　調査期日：平成３年９月30日



第31図　土館田屋遺跡トレンチ配置図

土館田屋遺跡は、沖積平野上の微高地に立地し、標高は約127.5～129mを計り、遺跡南側の宅地周辺の畑地では土師器片・須恵器片の散布が見られる。事業予定地内にトレンチT_1～T_9を設定し調査を実施したが、遺構・遺物ともに発見されなかった。遺跡の中心は、南側の宅地周辺にあるものと考えられる。

(7) 中島遺跡

所在地：紫波郡紫波町土館字沖田　調査期日：平成３年９月30日

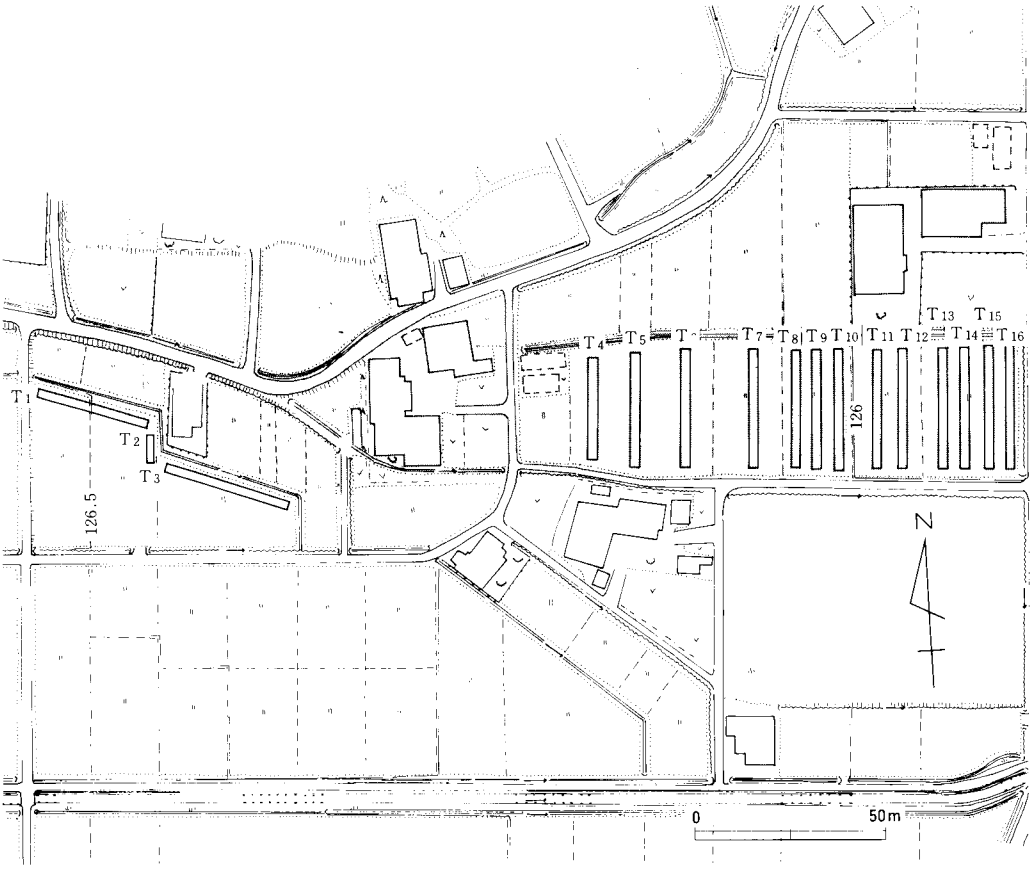
第32図　中島遺跡トレンチ配置図

中島遺跡は、沖積平野上の微高地に立地し、標高は約124～126mを計る。ほ場整備事業によりほ場と水路となる遺跡北端分についてのみ試掘調査を実施した。T_1～T_3の北端部で一部粘土層がみられるものの、ほとんど礫層が入り旧河川の影響を受けていることが判明した。T_1～T_3のいずれのトレンチにおいても、遺構・遺物ともに発見されなかった。

4．県営ほ場整備事業〔本宮地区〕　（位置図：第２図参照）

(1)　田中遺跡

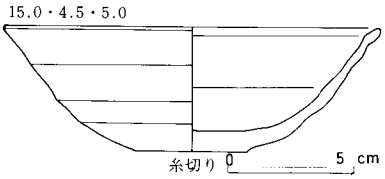
所在地：盛岡市本宮字田中　調査期日：平成３年８月５～９日



第33図　田中遺跡トレンチ配置図

本遺跡は、志波城の北東約500mの東西にのびる小規模な沖積段丘及びその下位の沖積面に所在する。標高は126～128mを計る。今回は、水路及び、水田面についてのみ調査を実施した。

いずれのトレンチでもかっての水田整備の際に削平されていることが観察できた。特にT_8～T_{16}は、耕作土・水田床土の直下に、円礫を主とする礫層が広く分布し、礫層のない部分は、泥炭質の黒褐色土が広がっていた。遺物は、この礫層の上面に貼り付くような状態で出土するものが多く、いずれも水成作用による磨耗がみられるなど、原位置にないものと判断できた。また、泥炭質部分からは、近世・近代の陶磁器類と共に加工痕を持つ木製品が僅かであるが出土し、なかには箸状に加工したものもみられた。遺構としては、構・暗渠が見られたものの、いずれも新しいものと判断された。



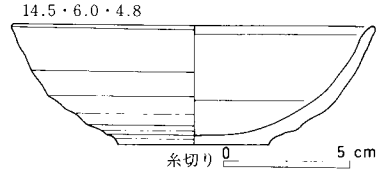
第34図　田中遺跡出土遺物

(2) 林崎遺跡

所在地：盛岡市下太田字林崎　調査期日：平成３年８月５～９日

第35図　林崎遺跡トレンチ配置図

本遺跡は、志波城跡の北東部に位置し、志波城と同一面と、その一段下の沖積部に広がる。今回の事業区は、後者の水田面で、かっての水田整備により微高地が削平されている部分である。T_1～T_{91}のトレンチを設定したが、いずれも礫層部分まで削平されており、遺物は土師器等が散漫に出土するのみで、原位置にはないと考える。また、西南部の一段高い面との境付近は泥炭層が厚く堆積していることを確認した。全体として、遺物は、志波城と同一もしくはやや下がるものと考えられるが、志波城跡と関連する遺構等は検出されなかった。



第36図　林崎遺跡出土遺物

5．県営ほ場整備事業〔赤石第２地区〕　（位置図：第１図参照）

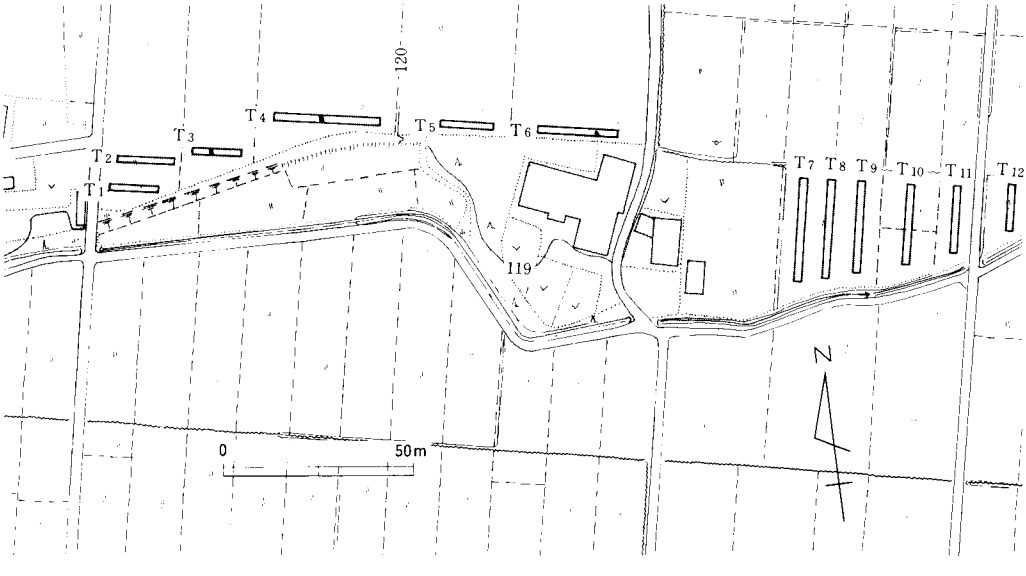
(1)　平沢堤頭II遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字堤頭　調査期日：平成３年７月22日

平沢堤頭II遺跡は、南側を開析された低位段丘の縁辺部に立地し、標高は約118～120mを計る。遺跡の現状は、水田・畑地及び宅地である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_{12}を設定し試掘調査を実施した。土層の基本層序は、第Ｉ層耕作土、第II層暗褐色土、第III層黄褐色粘土であり、第III層までの層厚は約20～60cmである。

第III層上面を検出面とし調査を実施した結果、T_3において表土下約30cmで溝跡１条、T_4において表土下約60cmで溝跡１条、T_6において表土下約50cmで陥し穴１基が検出された。遺物についてはいずれのトレンチからも出土していない。遺構については設計変更により保存を図った。



第37図　平沢堤頭II遺跡トレンチ配置図

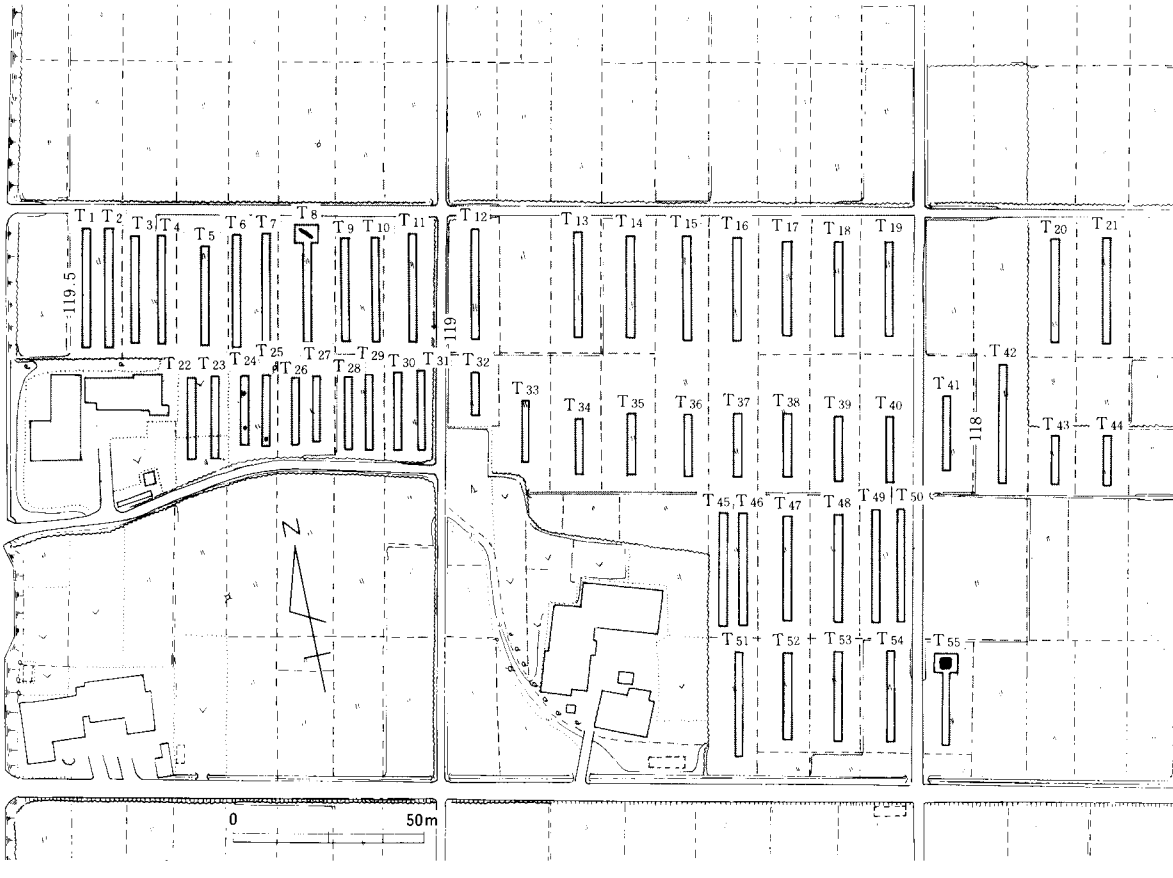
(2) 平沢字館Ⅰ遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字館　調査期日：平成３年７月22日～23日、９月４日

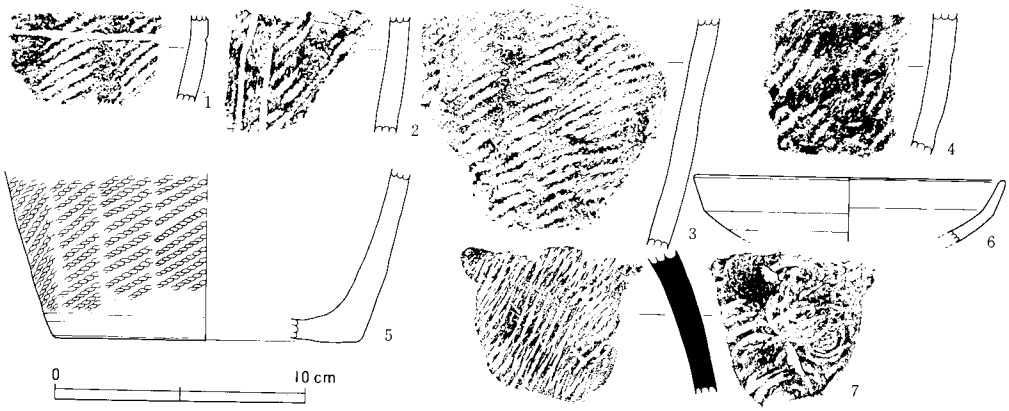
平沢字館Ⅰ遺跡は、旧河川により形成された沖積地上の微高地に立地し、標高は約117～119ｍである。今年度の分布調査により、縄文土器片及び土師器片が表採されたため新規遺跡としたところである。遺跡の現状は、水田・畑地及び宅地である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_{55}を設定し調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層暗褐色土、第Ⅳ層褐灰色土であるが、T_{12}～T_{21}及びT_{32}～T_{44}は湿地となっており、50cmを越す黒褐色土の堆積が見られた。

試掘調査の結果遺構は、T_8北端において主軸方向が西北－南東、上幅で3.4ｍ×0.5ｍを計る陥し穴１基、T_{24}・T_{25}で径約30～50cmのピット３基、T_{55}でカマドを南壁に持つ平安時代の竪穴住居址１棟が検出された。遺物は、T_{36}～T_{38}の黒褐色土中から縄文中期中業の土器片（第39図１～５）が出土し、T_{55}の竪穴住居址内から平安時代の土師器坏及び須恵器の甕の破片（第39図６・７）が出土した。遺構については、いずれも設計変更により保存を図った。



第38図　平沢字館Ⅰ遺跡トレンチ配置図

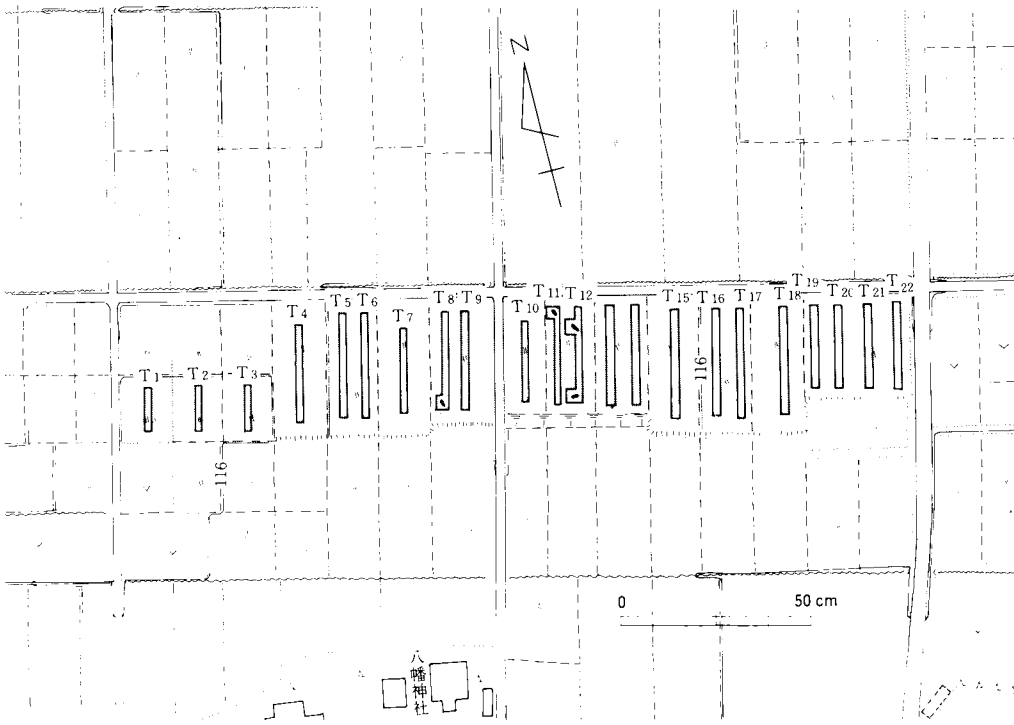


第39図　平沢字館Ⅰ遺跡出土遺物

(3) 平沢字館Ⅱ遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字館　調査期日：平成３年７月24日、９月４日

平沢字館Ⅱ遺跡は、沖積地上の微高地に立地し、標高は約115.5～116.6mである。試掘調査の結果、T_8・T_{11}及びT_{12}北端でほぼ主軸方向を西北－南東方向に同じくする陥し穴３基、T_{12}南端で主軸方向を東－西にする陥し穴１基が検出された。遺物は、T_{21}で縄文土器細片が出土したのみである。遺構については、掘削を受けない設計とすることにより保存を図った。



第40図　平沢字館Ⅱ遺跡トレンチ配置図

(4) 桜町上野沢遺跡

所在地：紫波郡紫波町桜町字上野沢　調査期日：平成３年７月25日～26日、９月４日

桜町上野沢遺跡は、北側を開析された低位段丘の北側縁辺部に立地し、標高は約112～113mである。試掘調査の結果、T_8～T_{11}を除くトレンチでは耕作のための削平を受けており、地山までの層厚は15～25cmほどであった。遺構は、T_{10}・T_{11}で主軸方向を北東－南西とする陥し穴各１基が検出された。遺物は出土していない。陥し穴については、盛土により保存を図った。

第41図　桜町上野沢遺跡トレンチ配置図

(5) 平沢桧Ⅴ遺跡

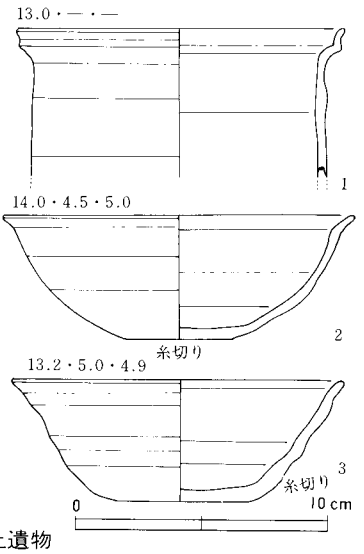
所在地：紫波郡紫波町平沢字桧　調査期日：平成３年７月25日、９月４日

平沢桧Ⅴ遺跡は、北上川に注ぐ多くの支流の一つであった旧河川により形成された沖積地上の微高地に立地し、標高は約116～116.5mを計る。現状は、宅地、水田及び畑地である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_{11}を設定し、試掘調査を実施した。土層は、耕作土の下に暗褐色土層があり、その下に褐色土層が見られたが、遺跡はほぼ平坦である。

調査の結果遺構は、T_7で北壁にカマドを持ち切り合う平安時代の竪穴住居址が2棟、T_8で平安時代の竪穴住居址が1棟検出された。遺物は、T_7の竪穴内で土師器の甕及びロクロ糸切りの土師器の坏（第42図1・2）が出土しており、T_8からもロクロ糸切りの土師器の坏（第42図3）が出土している。

遺構については、盛土による工法で保存を図った。



第42図　平沢桧Ⅴ出土遺物

第43図　平沢桧Ⅴ遺跡トレンチ配置図

(6) 伝平沢館跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字館　調査期日：平成3年7月23日

伝平沢館跡は旧河川によって形成された沖積地上の微高地に立地し、標高は約115mを計る。事業予定内にトレンチT_1～T_4を設定し、試掘調査を実施した。

調査の結果、T_3・T_4において径30～60cmの柱穴群が検出されたが、調査した範囲では規則性については確認できなかった。また、T_3において東西方向にはしる溝跡１条が検出された。T_1及びT_2については遺構は検出されていない。遺物はT_2において須恵器の大甕の破片１点が出土したのみである。

上記の調査結果から、T_3・T_4については事業者側と協議し、設計変更の上盛土により保存を図ることとした。

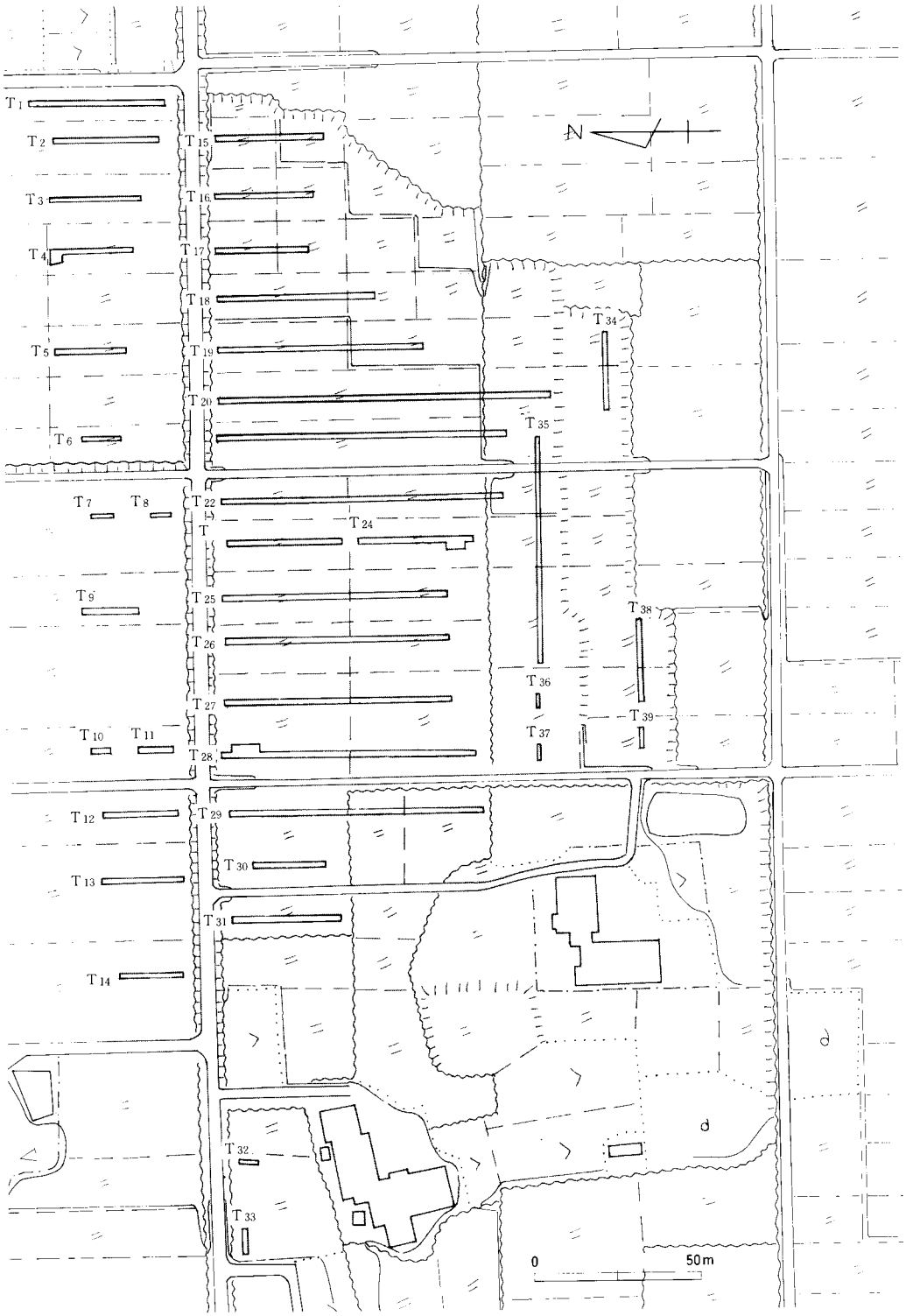
第44図　伝平沢館跡トレンチ配置図

(7)平沢堤頭Ⅰ遺跡

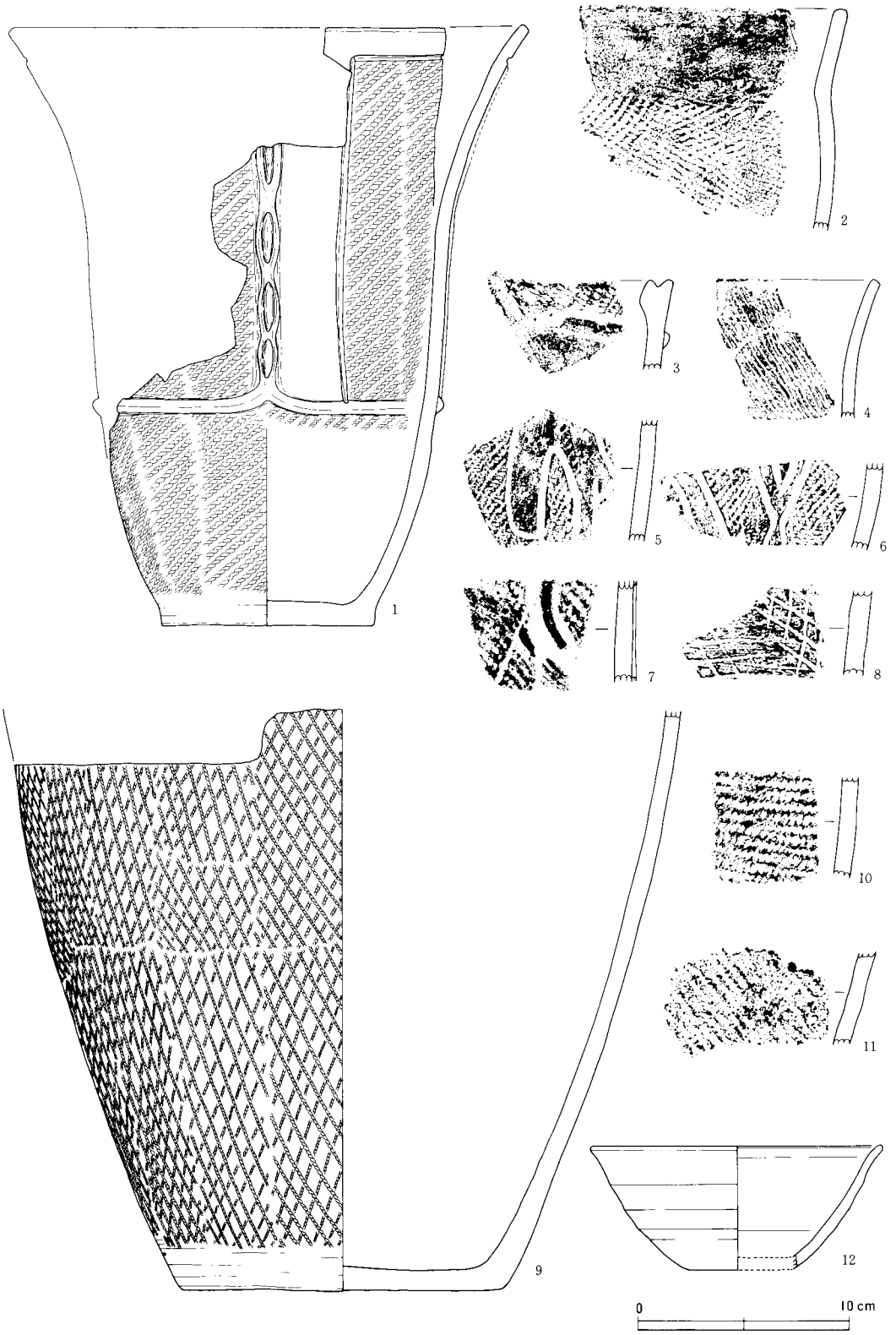
所在地：紫波郡紫波町平沢字堤頭　調査期日：平成３年７月24日～25日

平沢堤頭Ⅰ遺跡は、旧河川により南側を開析された段丘縁辺部に立地し、標高は111～113mを計る。遺跡の現状は、畑地・宅地及び水田である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_{39}を設置し調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層黒褐色土、第Ⅲ層褐色土であるが、西端は湿地に落ち込み、南側は大きく削平を受けている。遺構・遺物が集中するのは遺跡の中央部分である。T_{17}～T_{29}及びT_{35}において、縄文時代後期初頭から前葉の遺物（門前Ⅰ式・Ⅱ式）（第46図）を多量に包蔵する集石土坑群が検



第45図　平沢堤頭Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第46図　平沢堤頭Ⅰ遺跡出土遺物

出された。検出面は耕作土下約10～15cmであり、遺構はある程度削平を受けており、集石本来の配置や土坑との関連は不明である。また、遺跡の東端にあたるT_{15}～T_{17}において、それぞれのトレンチで平安時代の竪穴住居址が検出されており、土師器片及び須恵器片が出土している。

上記の調査結果から、本遺跡は縄文時代～平安時代の集落に係る遺跡であることが判明したが、遺構検出面が耕作土直下で浅く、重機で表土を剝いだだけで遺構を破壊する恐れがあるため、遺構が検出された遺跡中央部分については事業者側と協議を重ね、全面盛土により保存を図ることとした。

(8) 平沢桧Ⅰ遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字桧　調査期日：平成３年７月24日

平沢桧Ⅰ遺跡は、旧河川により形成された沖積地上の微高地に立地し、標高は118.2～118.6ｍを計る。遺跡の現状は、水田及び草地である。

事業予定内にトレンチT_1～T_3を設定し試掘調査を実施した。T_1を含む畑地では耕作土下に暗褐色土層があり、その下に黄褐色粘土層が見られたが、T_2・T_3の草地では暗褐色土層の下に礫層が見られ河川の影響を受けていることが判明した。遺構は、T_1の西端で平安時代の住居址が１棟検出され、土師器の坏が出土した。T_1を含む畑地については、盛土による工法で遺構の保存を図った。

第47図　平沢桧Ⅰ遺跡トレンチ配置図

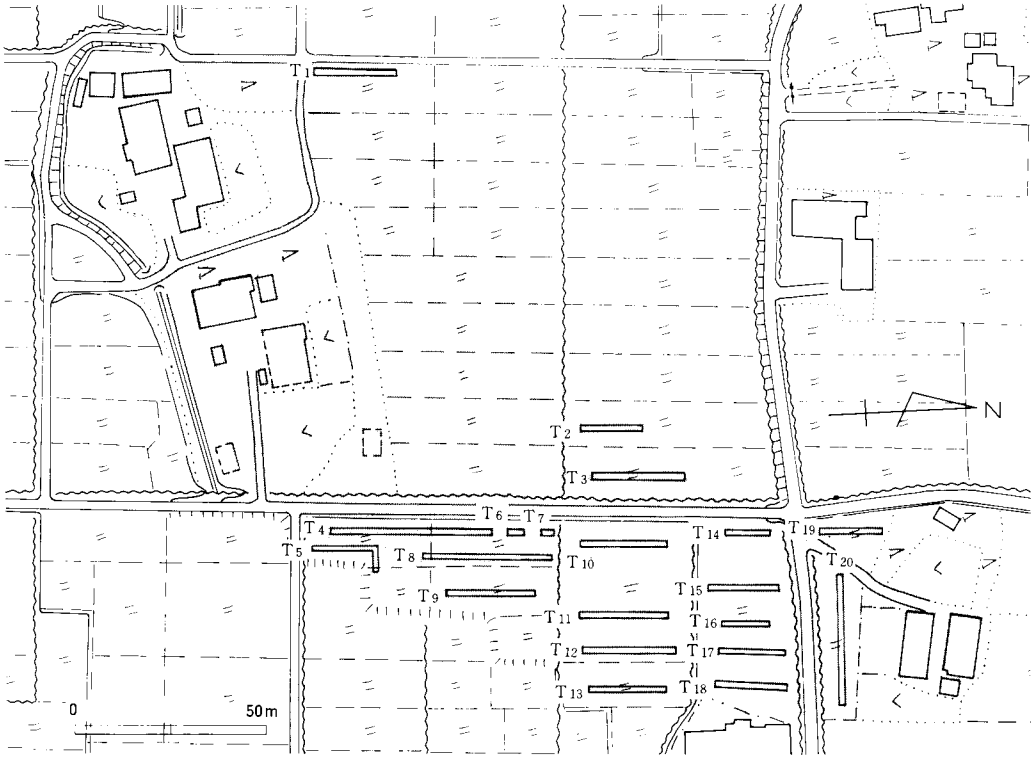
(9) 平沢桧III遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字桧　調査期日：平成３年７月26日、９月４日、10月14日

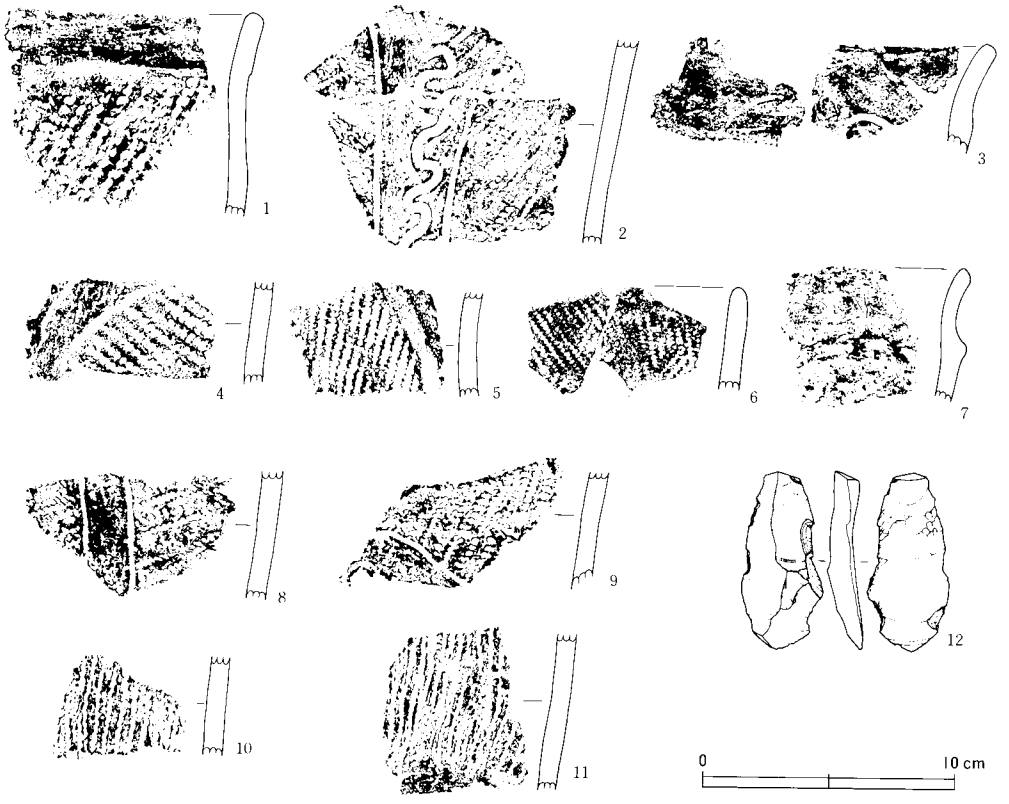
本遺跡は、滝名川等によって発達した扇状地形が大小の沢により開析された段丘上に位置する。標高は約114m、西から東にかけて緩く傾斜する。現在、宅地となってている部分以外は、水田等により削平を受けている。また、遺跡東西端は１mほどの段丘崖となる。

T_1では水田床土の下位に、黒褐色土がみられ、その中に縄文土器・焼土ブロック等が含まれていた。おそらく遺物包含層と思われるが、規模は小さく、北側部分には見られなかった。T_2・T_3では、ピットが２基検出されている。T_{12}・T_{16}以東は、湿地となり、遺構は確認されなかった。T_4～T_{10}では、礫を多く含む白灰色粘土層上から、縄文土器・石器類が出土している。特にT_4中央部では、粗製深鉢を正立させ、埋甕とした遺構が検出されている。T_5は、再堆積の土層で、遺構・遺物とも確認できなかったことから、削平することにしたが、それ以外の部分は盛土を施し保存を図った。

第49図に示した出土遺物は縄文後期初頭に位置付けられるもので、型式的には２・３型式に細分ができよう。胎土は全体に砂粒が多く含まれ、焼成もやや不良である。12は、硅質の強い頁岩で、側縁部に僅かに調整がみられる。



第48図　平沢桧III遺跡トレンチ配置図



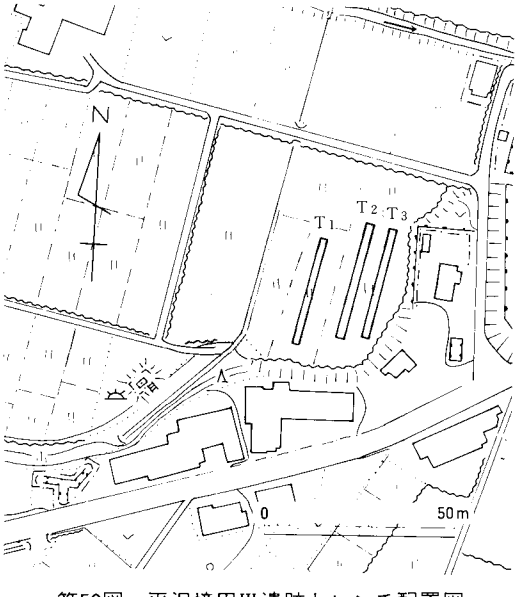
第49図　平沢桧Ⅲ遺跡出土遺物

⑽　平沢境田Ⅲ遺跡

所在地：紫波郡紫波町平沢字境田

調査期日：平成３年10月14日

本遺跡は、岩手県養鯉場のある面より、約５ｍ下の水田、畑地で、分布調査の際須恵器の散布がみられたところである。調査の結果開田等による削平を受けており、包含層、遺構等は検出できなかった。第２層とした再堆積土層中から、縄文土器の小片、須恵器片が僅かに出土している。おそらく、南側の一段高い面に遺跡の主体があるものと判断される。



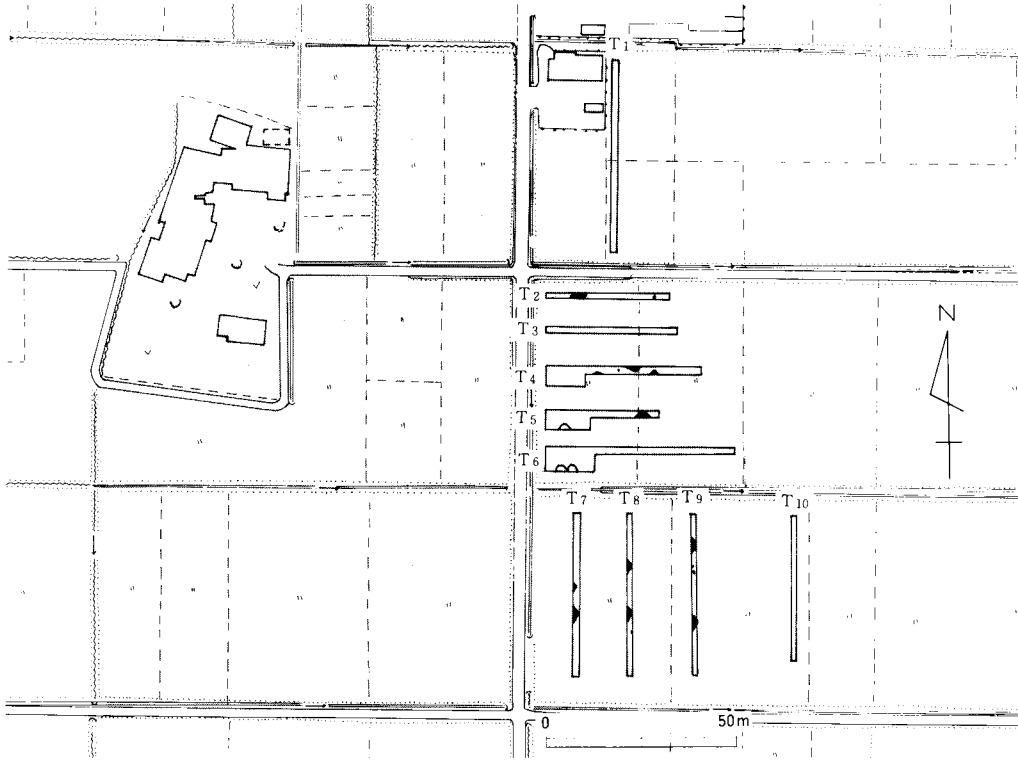
第50図　平沢境田Ⅲ遺跡トレンチ配置図

6．県営ほ場整備事業　〔飯岡第１地区〕　（位置図：第６図参照）

(1)　深渕Ⅰ遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡深渕　調査期日：平成３年８月26日～27日

本遺跡は県道盛岡和賀線の東方、約500mに位置し、標高は124～125mを計る。現状は大半が水田で、微高地が、宅地・畑地に利用されている。今年度事業予定地は、遺跡の東南部で、T_1～T_{10}のトレンチを設定した。調査の結果、T_1には深く黒褐色粘土が堆積し、水田整備による削平も受けていた。T_2～T_6では東側部分が微高地状になり、その部分に竪穴住居が４棟検出された。またT_5・T_6の西側のやや低い部分では、幅30～50cm、径４～６mの円形周湟を４基検出した。いずれも墳丘・主体部は確認できなかったものの、T_6では２基の重複が観察でき、そのうち、一基の周湟の一端が切れているのを確認した。T_7～T_9は、現状は畑地であり、周囲より30～50cmの高まりであるが、耕作土直下に、暗黄褐色砂層が分布するなど一端削平されたものと判断された。遺構としては、竪穴住居６棟、土壙等５基、時期不詳の溝２条等が検出されている。T_{10}以東は、低湿地となると思われる。遺物は、T_6の周湟付近で第53図３が出土するほか、T_4の竪穴住居から４が出土しており、奈良時代から平安前期の遺跡と判断される。なお本遺跡の遺構が検出された区域は、盛土を施して保存することとした。



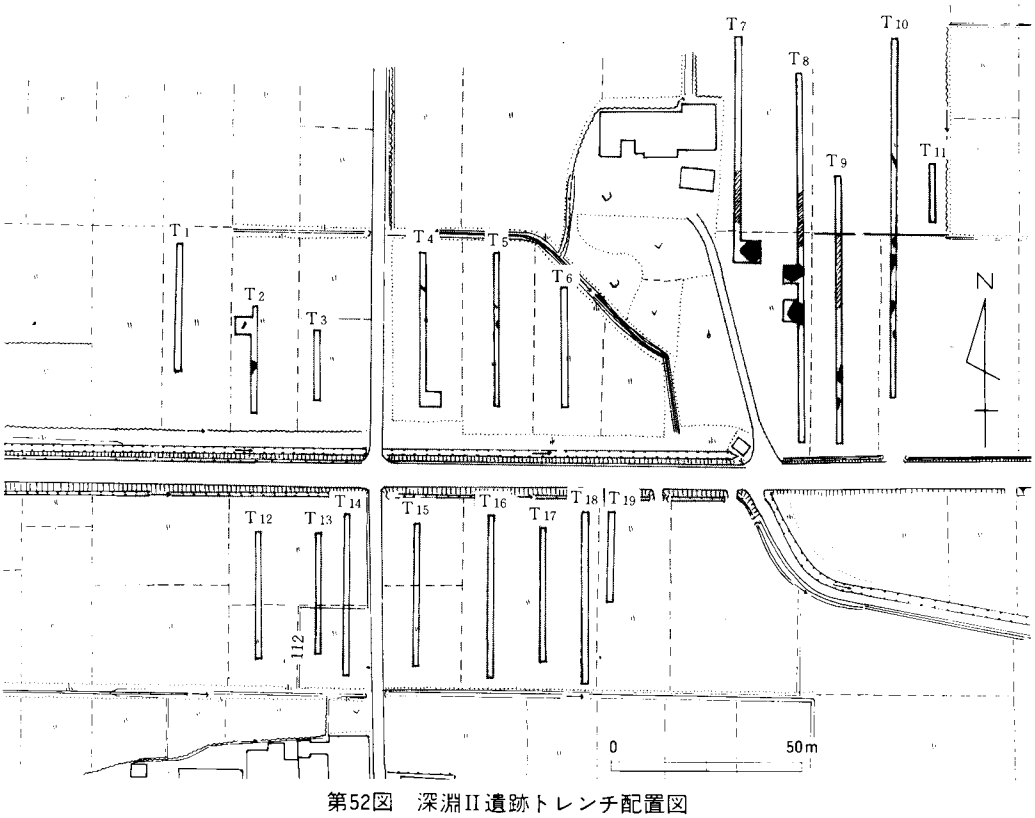
第51図　深淵Ⅰ遺跡トレンチ配置図

(2) 深渕II遺跡

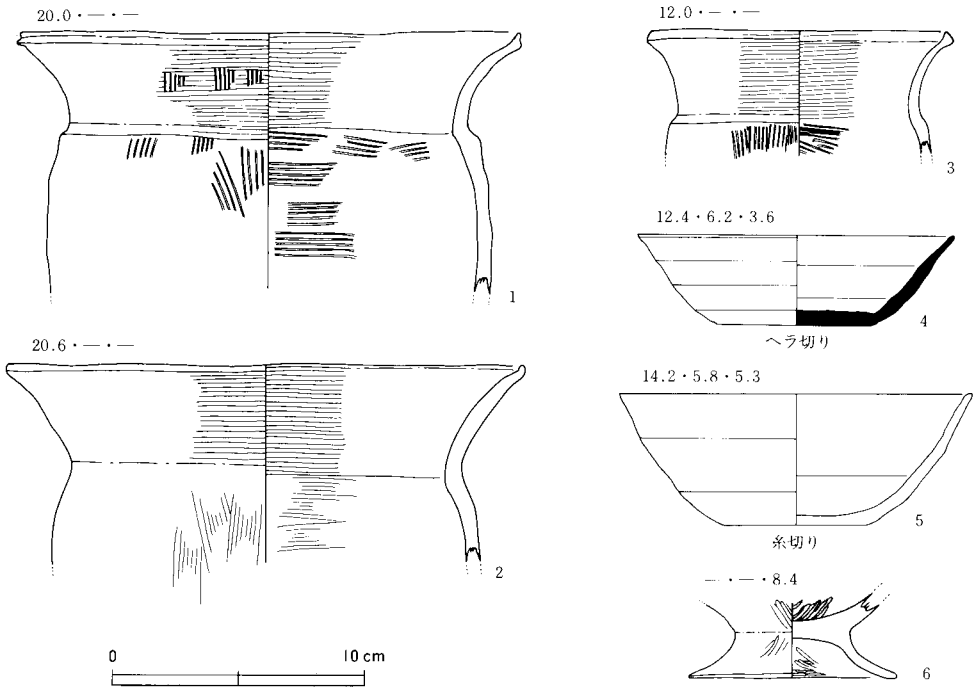
所在地：紫波郡都南村下飯岡深渕　調査期日：平成３年８月28～30日

本遺跡は、深渕Ｉ遺跡の南側に位置し、宅地とその周囲以外は水田で、かなり削平されているものと推定された。標高は、北側の宅地で123.9m、道路南側の水田面で123mを計る。事実T_1～T_6では、耕作土直下に礫層が発達し、僅かに残った黄褐色砂層部分で遺構が確認されたものの、上部は削平されたと思われた。T_4の北部から宅地北側さらにT_7－T_{11}の北半部にかけては低湿地が広がり、道路南側のT_{12}～T_{19}も同様で、遺構は検出されていない。従って、遺跡は宅地の東南側から西側にかけての東西に細長い微高地上に形成されたといえる。比較的保存が良好であったT_7～T_{10}の南側では、T_7で１、T_8で２、T_9で２、T_{10}で３の計８棟の竪穴住居跡が検出されたほか、土坑３基、溝跡等がある。特にT_7～T_9な斜線で示した溝状の落ち込みには、覆土の黒褐色粘土層中に土師器類が含まれており、遺物包含層か、遺跡北部を区画する溝状遺構の可能性が指摘できる。

遺物は、大半が平安時代に属する土師器、須恵器類であるが、第53図６に示したように内黒処理が施された高坏の脚部があり、奈良期に遡る遺構も存在する。また縄文土器の細片も僅かであるが出土している。遺構等の検出された区域は、盛土し保存することとした。



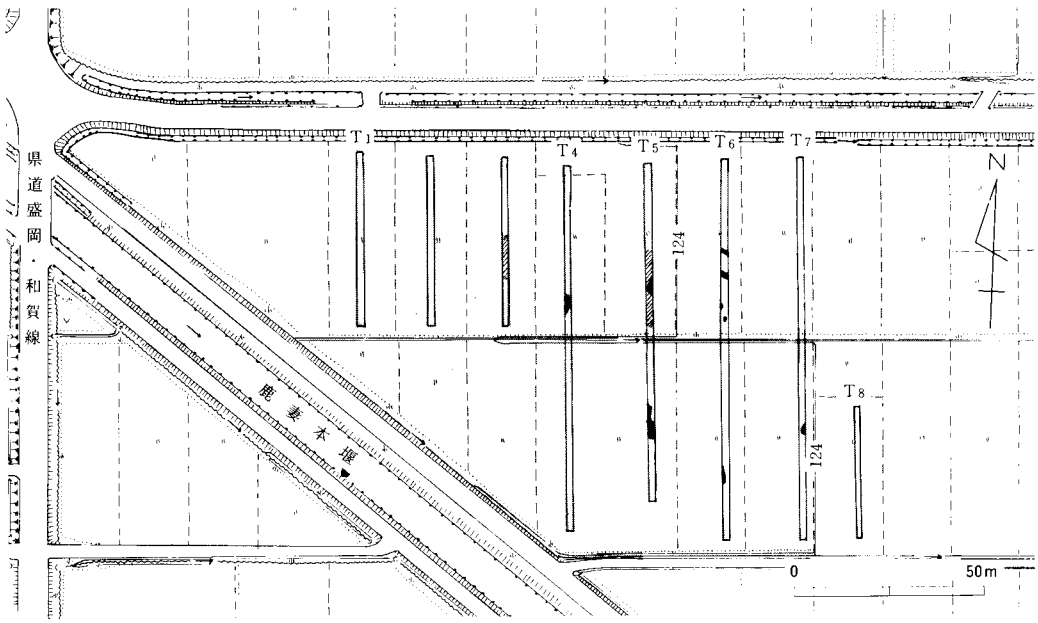
第52図　深淵II遺跡トレンチ配置図



第53図　深渕Ⅰ遺跡(1～4)・深渕Ⅱ遺跡(5・6)出土遺物

(3) 上新田Ⅰ遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡上新田　調査期日：平成3年8月26・27日



第54図　上新田Ⅰ遺跡トレンチ配置図

本遺跡は県道盛岡和賀線から飯岡小学校へ向う道路と、鹿妻本堰とに挟まれた部分に位置する。標高は約124m、西から東にかけて緩く傾斜する。T_1・T_2それにT_4の南側、T_8以東には、グライ化した青灰色粘土層が厚く堆積し、その中から近代の陶器片が出土するなど、かっての水田整備によって整地される以前は、低湿地であったと推定された。遺構・遺物は、T_3からT_7にかけての微高地上に集中するが、T_7北部では礫層が広がり、削平を受けたことがわかる。T_3中央部には、径10mほどの凹みがみられ覆土中に土師器等が包含されていた。同様の凹みは、T_5中央部においても確認された。

検出された遺構は、竪穴住居跡が6棟以上、楕円形の土壙3基等であり、いずれも出土遺物から9世紀代のものと考えられる。ただ、T_5南側で重複する住居跡があり、時期幅はあると推定できる。トレンチ調査のため確実なカマド跡は検出していないが、おそらく西カマドになると思われる。これらの遺構のほか、詳細な時期は把握できないが、T_6において平行する2条の溝を確認しているが、隣接のトレンチでは見られず、小規模なものであろう。また、縄文晩期の土器片・剝片も僅かであるが出土している。これらの遺構が検出された部分については、盛土し保存を図った。

(4) 上新田II遺跡

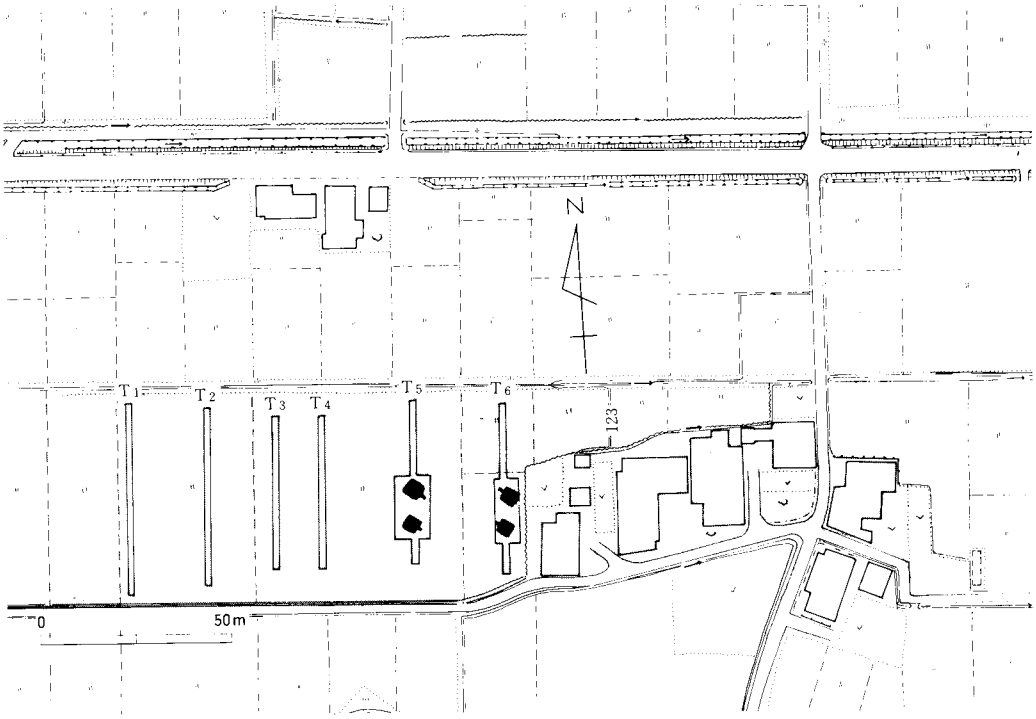
所在地：紫波郡都南村下飯岡上新田　調査期日：平成3年8月30日

上新田II遺跡は沖積地上の微高地に立地し、標高は123mを計る。遺跡の現状は、水田・畑地及び宅地である。

事業予定地内にトレンチT_1～T_6を設定し、試掘調査を実施した。土層の基本層序は第I層耕作土、第II層黒褐色土、第III層褐色土で第III層上面を遺構検出面としたが、T_1～T_4及びT_5・T_6の北半では耕作直下に砂礫層が見られた。本遺跡は、T_5・T_6の南半から東へのびる微高地が遺跡の中心である。

調査の結果遺構は、T_5において南東方向にカマドを持つ竪穴住居址2棟が検出された。北側の住居址は、3.5m×3.5mの大きさで西側部分は砂層を掘り込んでつくられている。南側の住居址は、3.4m×3.4mの大きさで西側部分は砂礫層を掘り込んでつくられており、この2棟は、カマド方向・大きさともほぼ同じであり、同時期につくられたものと思われる。T_6においては北西方向にカマドを持つ竪穴住居址2棟が検出された。北側の住居址は一辺約5.1mを計るが、南側の住居址もほぼ同じ大きさである。これら2棟の住居址は、前述した住居址よりも古い時期のものと思われる。遺物は多数出土しているが、T_6住居址から出土した土師器の甕及び甑について第57図に掲げた。

上記の調査結果から、遺構については設計変更の上盛土により保存を図ることとした。

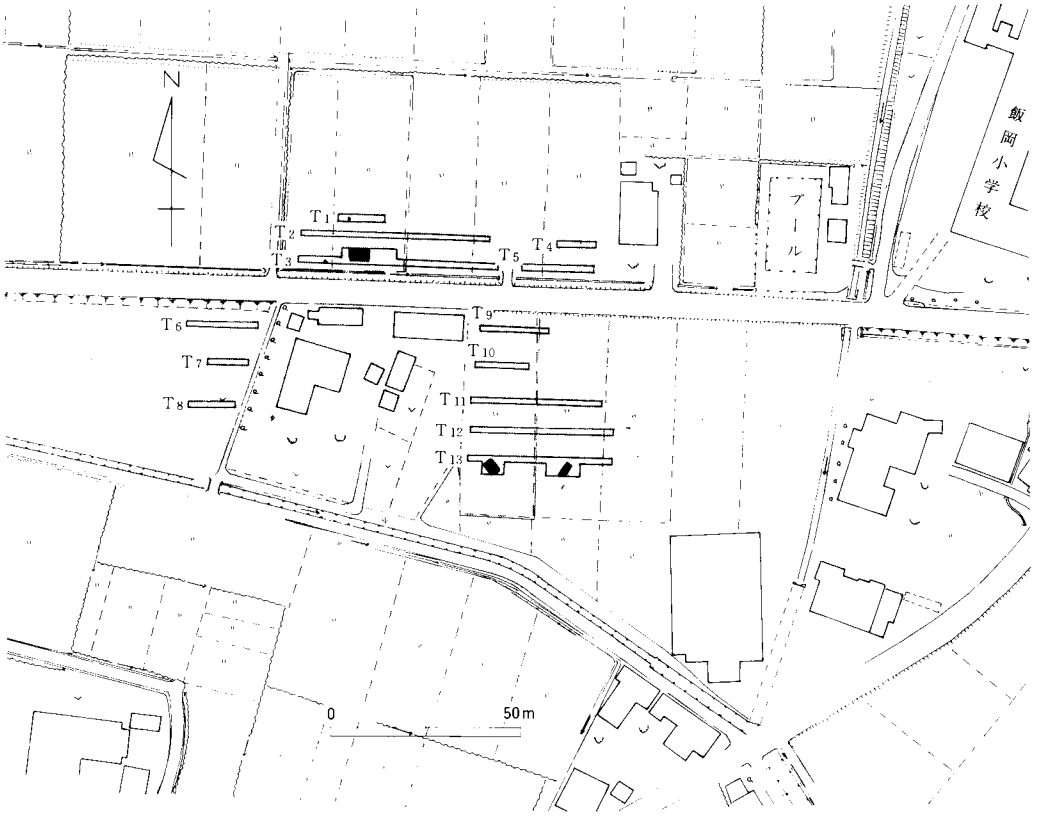


第55図　上新田II遺跡トレンチ配置図

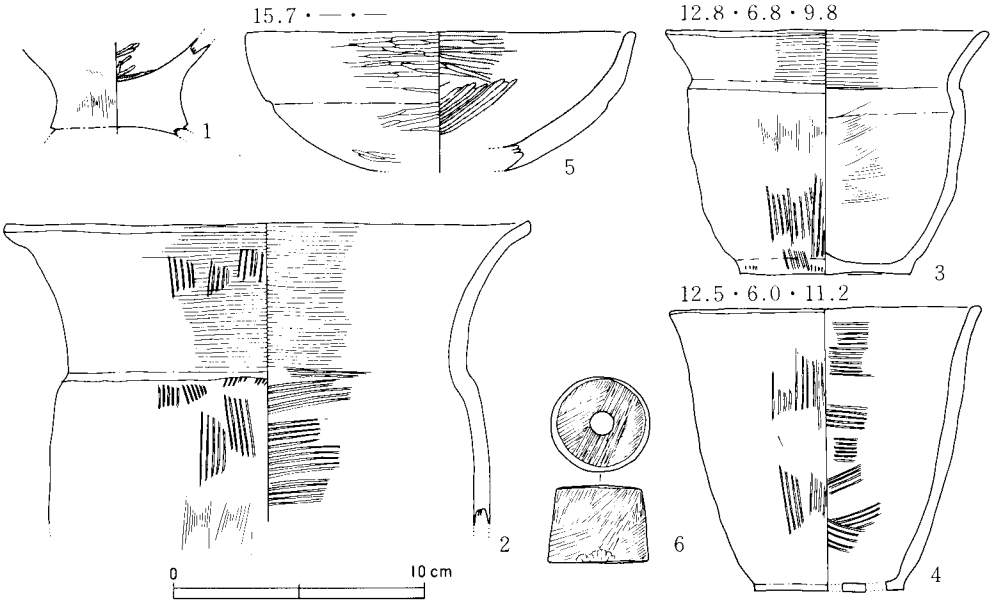
(5) 西遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡西　調査期日：平成３年８月30日～

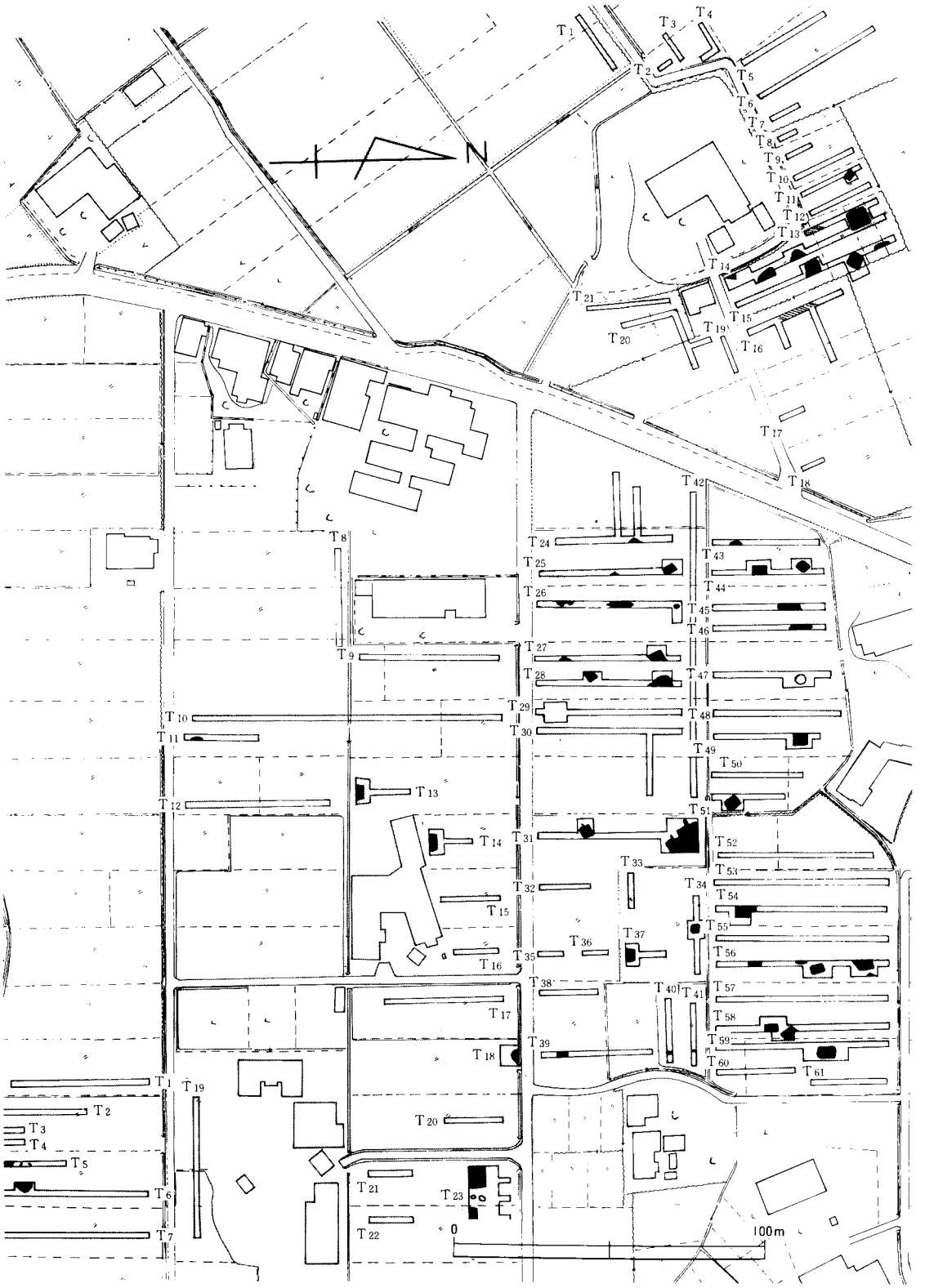
西遺跡は標高123mほどの沖積面の微高地上に立地する。東西130m・南北80mほどの範囲に広がりをもつ。区整理の計画されている範囲に第56図に示した通りT_1～T_{13}トレンチを設定し調査を実施した。T_1トレンチにおいて縄文時代のピットが１基検出されている。周囲から縄文時代晩期と推定される土器片が僅かに出土している。また、T_3トレンチにおいて７世紀後半から８世紀前半と推定される竪穴住居址１棟と焼土が１ヶ所で検出されている。竪穴住居の周囲より、内面黒色処理の施された坏１点と石製紡錘車１点が出土した（第57図５・６）。坏は、直径15.6cmの丸底坏で外面に沈線状の段を有し、内外面とも篦ミガキ調整が施されている。底部が直径５cmほど欠いているが、意識的な欠損とみられることから底部穿孔の坏であろう。この他T_{13}トレンチにおいて、長方形を呈する竪穴住居跡状の遺構を２棟検出している。カマドは不明である。遺構上面及び周辺部から、土師器では、ロクロ糸切り坏、須恵器では、坏・壺・大型甕の破片等が出土している。土器片からこれらの遺構は平安時代前半のものであろうと推定される。今回発見された遺構は、周辺部も含めて遺構検出面の上に数十cmの盛土を行い、保存することとなった。



第56図　西遺跡トレンチ配置図



第57図　上新田Ⅰ遺跡(1)・上新田Ⅱ遺跡(2～4)・西遺跡(5・6)出土遺物



第58図　熊堂Ⅰ遺跡(上)・熊堂Ⅲ遺跡(下)トレンチ配置図

(6) 熊堂Ⅰ遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡熊堂　調査期日：平成３年８月28日～８月30日

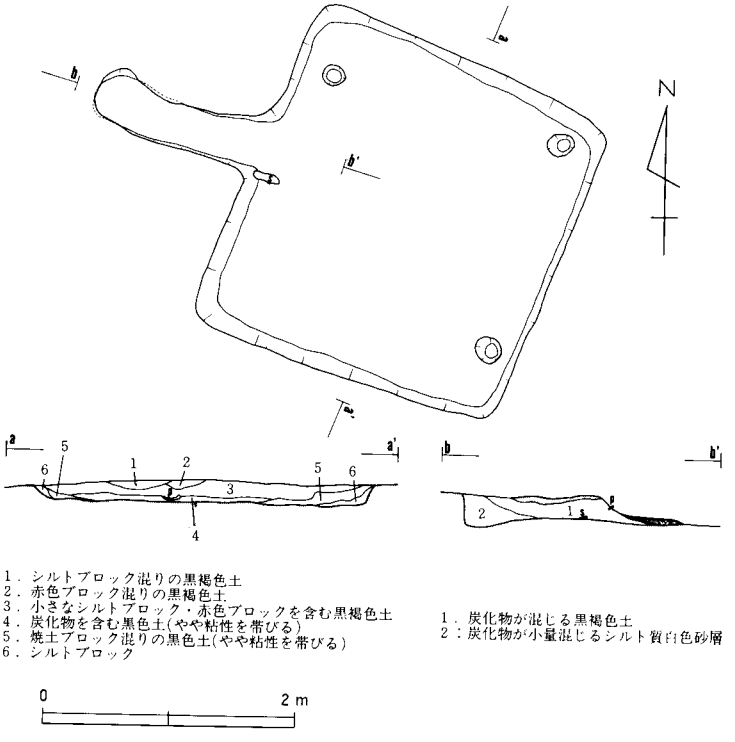
熊堂Ⅰ遺跡は、志波城の南約２kmほどに位置し、沖積地の微高地上に立地する。標高は、122.5m前後を計る。第58図に示した通り区画整理予定地内にT_1～T_{20}トレンチを設定し調査を実施した。その結果、遺跡の北端部分において、奈良時代から平安時代の竪穴住居跡が８棟検出された。住居址上面或はその周辺から出土した土器から９世紀から10世紀にかけての住居址が大半を占めると考えられるが、T_{14}トレンチの南側２棟は、８世紀代の住居址と推定される。竪穴住居は、更に南側の方に広がっていくものと考えられる。ただし、西側・北側・東側の三方は、湿地に近く厚く黒色土とグライ化層が堆積しており、黒色土の中位にうすく十和田ａ火山灰の層がみられる。竪穴住居址は、規模・方向においても相違がみられることから、時期の異なるいくつかのグループに分けることが出来るものと推定される。出土土器は、土師器と須恵器がある。土師器は、坏・甕が大半を占めるが、ロクロ使用のものとロクロ未使用のものとがある。ロクロ未使用の甕（第61図１）は、外面がナデ調整・内面はナデ及びハケ目調整が施されている。須恵器には、坏・甕・壺の器種が認められる。坏には、ヘラ切りと糸切りのものがあるが後者が大半を占める。また、須恵系土器に分類されるものも含んでいる。

(7) 熊堂Ⅲ遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡熊堂　調査期日：平成３年８月28日～８月30日

熊堂Ⅲ遺跡は、熊堂Ⅰ遺跡の東側の沖積地の微高地に立地する。奈良時代及び平安時代の大規模な集落である。第58図に示した通り、区画整理予定地内T_1～T_{61}を設定し、調査を実施した。遺構は遺跡全体に分布しているが、特に北側に集中して検出されている。遺跡の周囲は開析を受け、黒色土及び粘土層が堆積しており、黒色土中に十和田ａ火山灰が帯状にみられる。遺構には、竪穴住居址が最も多く検出されており、そのほか、周溝状の遺構、隅丸長方形の土壙・大小の円形ピットなどがある。トレンチで確認された竪穴住居址だけでも30棟を越えており、全体では、相当数の住居が残されていると考えられる。住居址には、カマドが明確なものもみられ南北方向或は、東側のものとがある。また、規模や方向性にもいくつかのタイプがみられることから、いくつかのグループに分けられるであろう。遺跡の大半は、現在水田であり、耕作土下にシルト質の黄褐色土層がみられるが、この層の上面で遺構を検出した。遺跡の周囲の黒色土中には、十和田ａ火山灰がみられることから、古代の水田が発見される可能性もある。この遺跡が、志波城の南方約2.5kmにあり、志波城と同時期或はそれと前後する時期の大規模な遺跡であることから、志波城との関連で今後注目される遺跡となろう。今回調査された遺構については、周辺の水田部分も含めてすべて数十cmの盛土を行い、その上で区画整理を行い水田

として使用することとした。なお、給排水路については、設計を変更し、出来るだけ遺構の保存に務めた。熊堂III遺跡の出土品は、奈良時代と平安時代の土師器及び須恵器がある。(第61図2～9）奈良時代のものとしては、内黒の丸底坏と甕がみられる。坏は外面に沈線状の段を有する。調整は内外面ともヘラ磨きを主とするが、61図5のように外面にハケ目のみられるものもある。平安時代の土師器には、ロクロ調整のみられる甕・糸切り内黒坏がある。須恵器には坏・壺・甕等の器種がみられる。坏には、ヘラ切り・糸切り或は回転ヘラ調整の施されたものが認められるし、須恵系土器に分類されるものも含む。しかし、全体からみるとヘラ切り坏が糸切りのものより多くみられる。ヘラ切り坏の体部は、直線的に外傾するようである。甕には、内外面とも平行叩目の施されたものやロクロ調整だけのものもある。以上のことから熊堂III遺跡の遺物は、大別して3期に分けられる。I期は奈良時代つまり8世紀後半に位置するもの、第II期は平安時代はじめつまり9世紀前半代の志波城が成立していた頃、そして第III期として平安時代中頃（10世紀）に分けられる。この中で最も多いと推定されるのが第II期である。第59図に示した竪穴住居址は、T_{18}トレンチで検出されたものである。西方向にカマドを有する一辺約2.5mの小型の竪穴住居址である。床面上部全体に焼土及び炭化物を多く含む層が認められ、その中に骨片も検出されている。床面から出土した土器より、この竪穴住居跡は、8世紀後半のものと考えられる。



第59図　熊堂III遺跡竪穴住居址平断面図

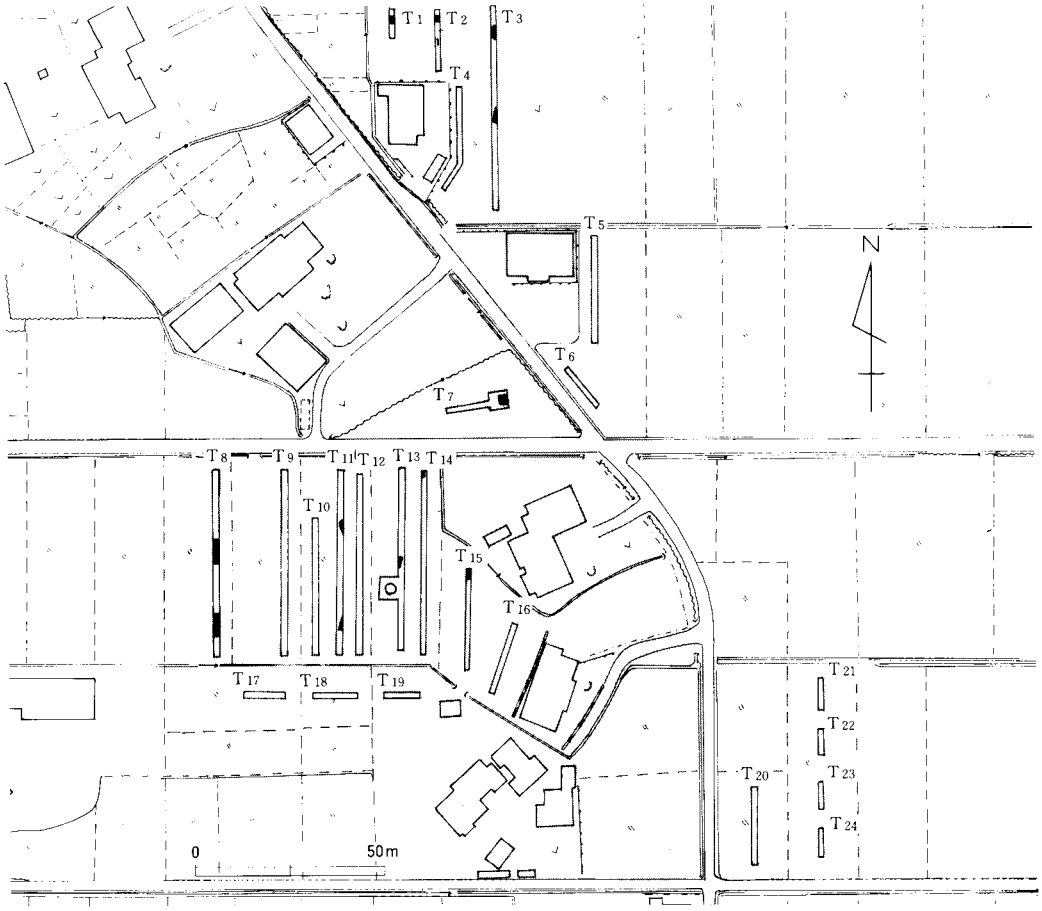
(8) **熊堂II遺跡**

所在地：紫波郡都南村下飯岡字熊堂　調査期日：平成３年８月28日～29日

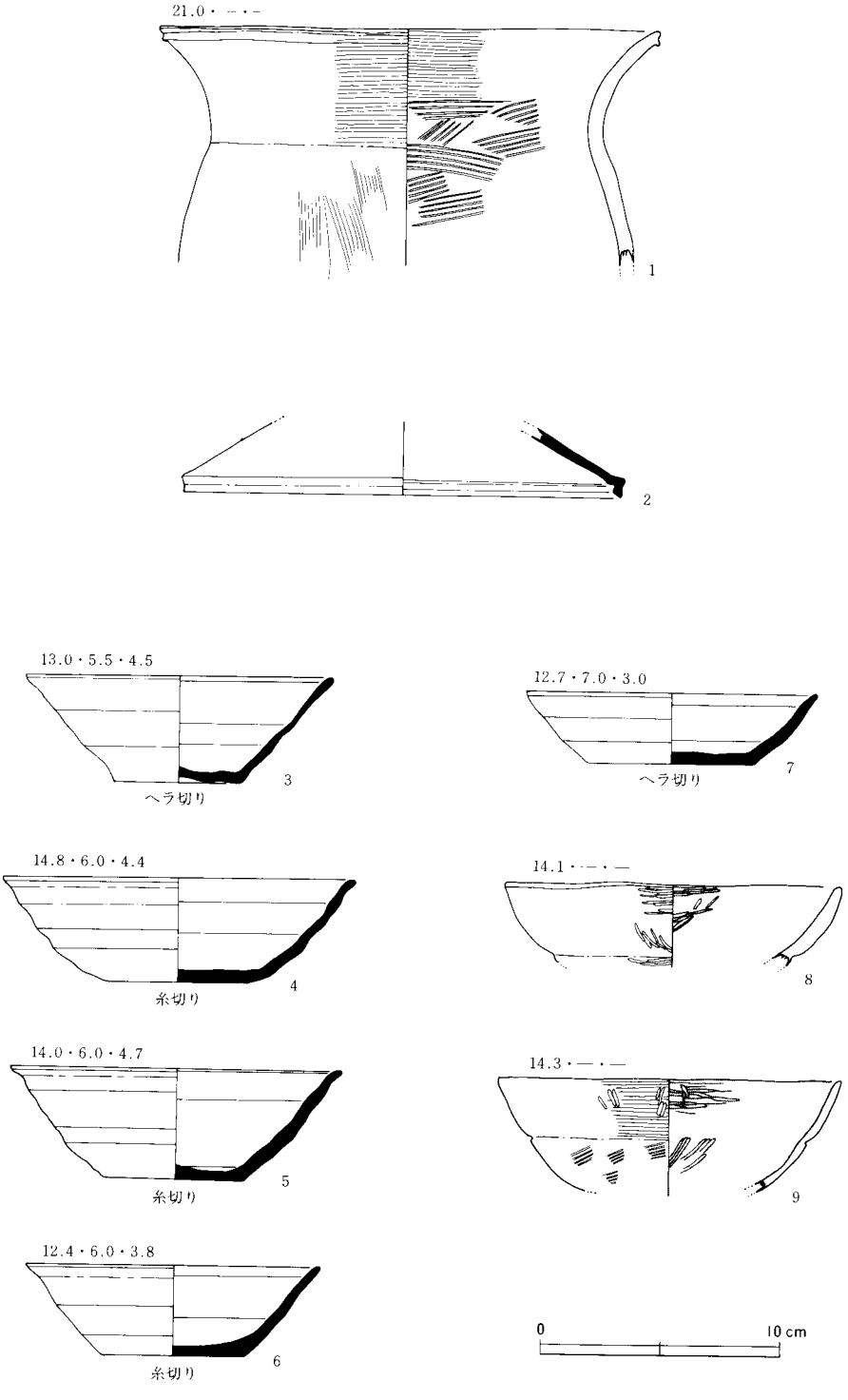
熊堂II遺跡は、沖積地上の微高地に立地し、標高は約120～122mを計る。事業予定地内にトレンチT_1～T_{24}を設定し試掘調査を実施した。

調査の結果、T_1～T_2の北端部で時期不明の溝跡１条、T_2において土坑１基が検出された。T_3において竪穴住居址が２棟検出されたが、中央部分の住居址は北東方向にカマドを持つ。T_7東端においても竪穴住居址１棟が検出されている。

T_8～T_{14}の南端部及びT_{15}～T_{19}では砂礫層が見られたが、微高地であったところでは遺構が検出された。T_8において竪穴住居址２棟、T_{11}において竪穴住居址２棟が検出された。T_{13}において竪穴住居址１棟及び幅30cm、径約５ｍを計る円形周湟１基が検出されたが墳丘及び主体部は確認できなかった。T_{14}・T_{15}でも竪穴住居址が１棟ずつ検出されたが、T_{15}の住居址は砂礫層を掘り込んでいた。遺物は、土師器坏・甕の破片及び須恵器甕の破片が出土している。



第60図　熊堂II遺跡トレンチ配置図



第61図　熊堂Ⅰ(1)・熊堂Ⅲ(2～9)遺跡出土遺物

(9) 南谷地II遺跡

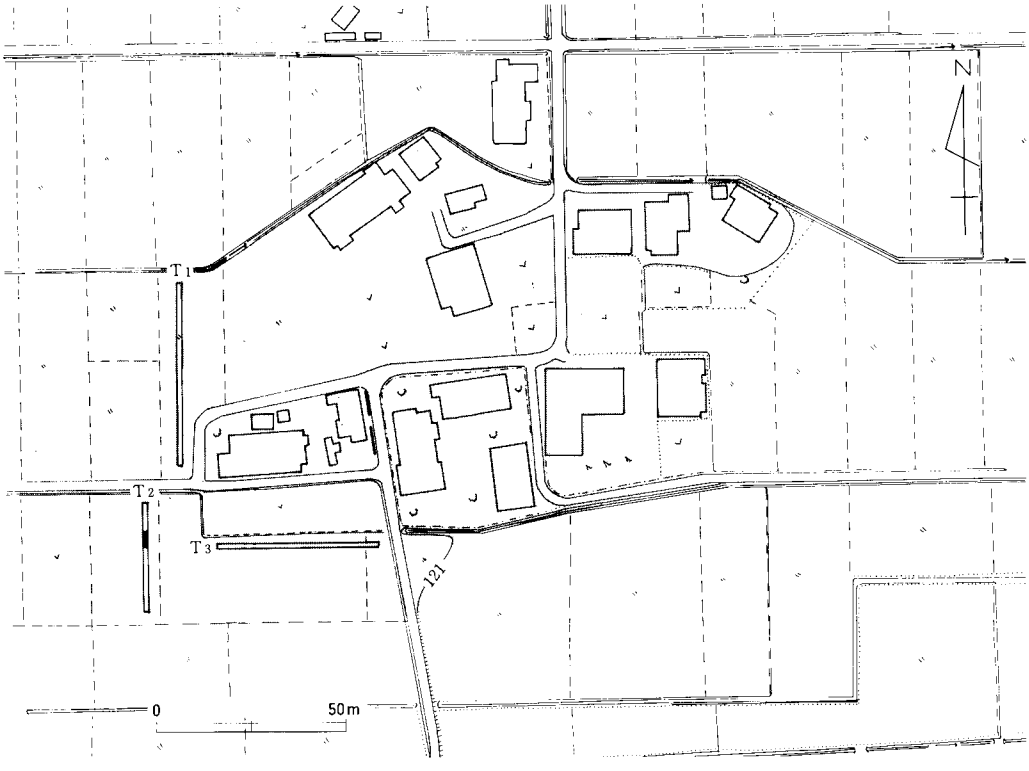
所在地：紫波郡都南村下飯岡字南谷地　調査期日：平成３年８月28日

南谷地II遺跡は、沖積地上の微高地に立地し、標高は120.4～121.8mを計る。平安時代の周知の遺跡として知られていたが、今年度の分布調査により土師器片が表採されたため、遺跡の範囲をやや西側に広げた。遺跡の現状は、畑地・水田及び宅地である。

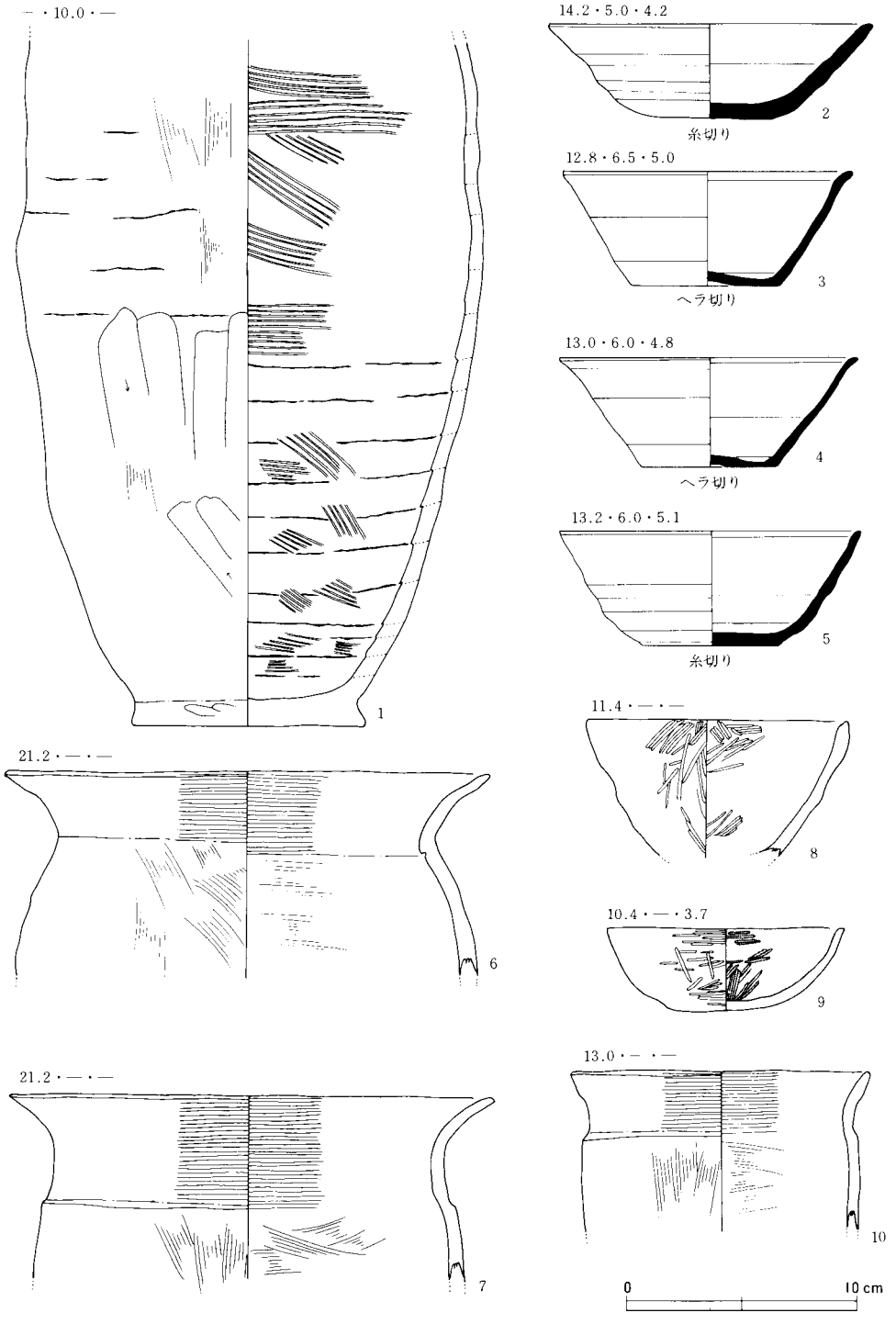
宅地及び畑地はほ場整備事業の除外地となるため、水田部分についてのみトレンチT_1～T_3を設定し、試掘調査を実施した。土層の基本層序は、第Ｉ層耕作土、第II層暗褐色土、第III層褐色土であるが、T_3及びT_2の南半部は低湿地であり、T_1の南端部では砂礫層が見られた。

調査の結果遺構は、旧地形の微高地として残るT_2北半部で、北壁にカマドを持つ奈良時代末から平安時代前期のものと思われる竪穴住居址１棟が検出された。その他のトレンチにおいては、遺構は検出されなかった。

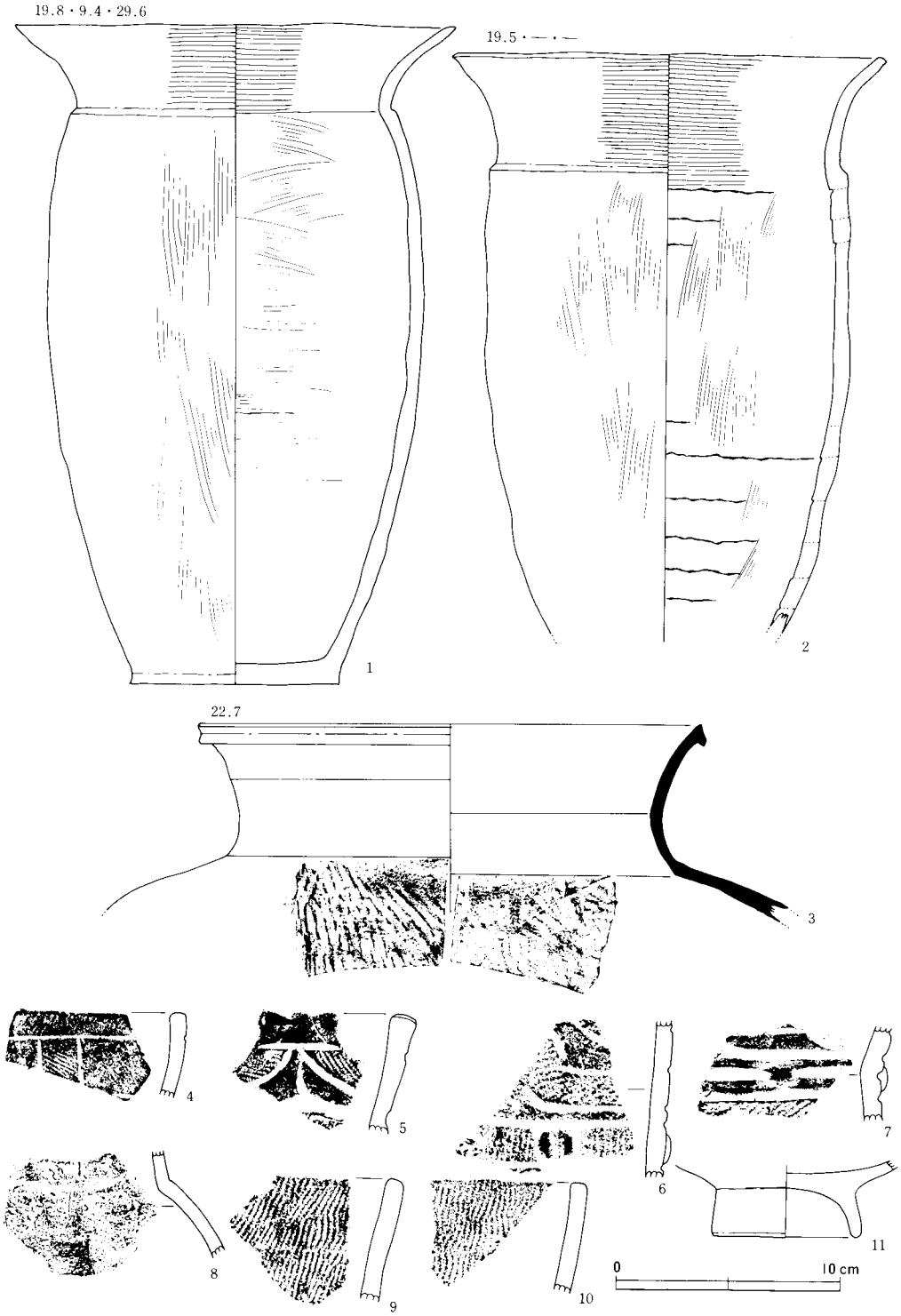
遺物は、T_3の中央部の湿地層の中から須恵器の甕の破片が出土したが、現地性のものではない。T_2の竪穴住居址の埋土上面からは多数の土器が出土したが、輪積痕を残す土師器甕を第63図１に掲げた。



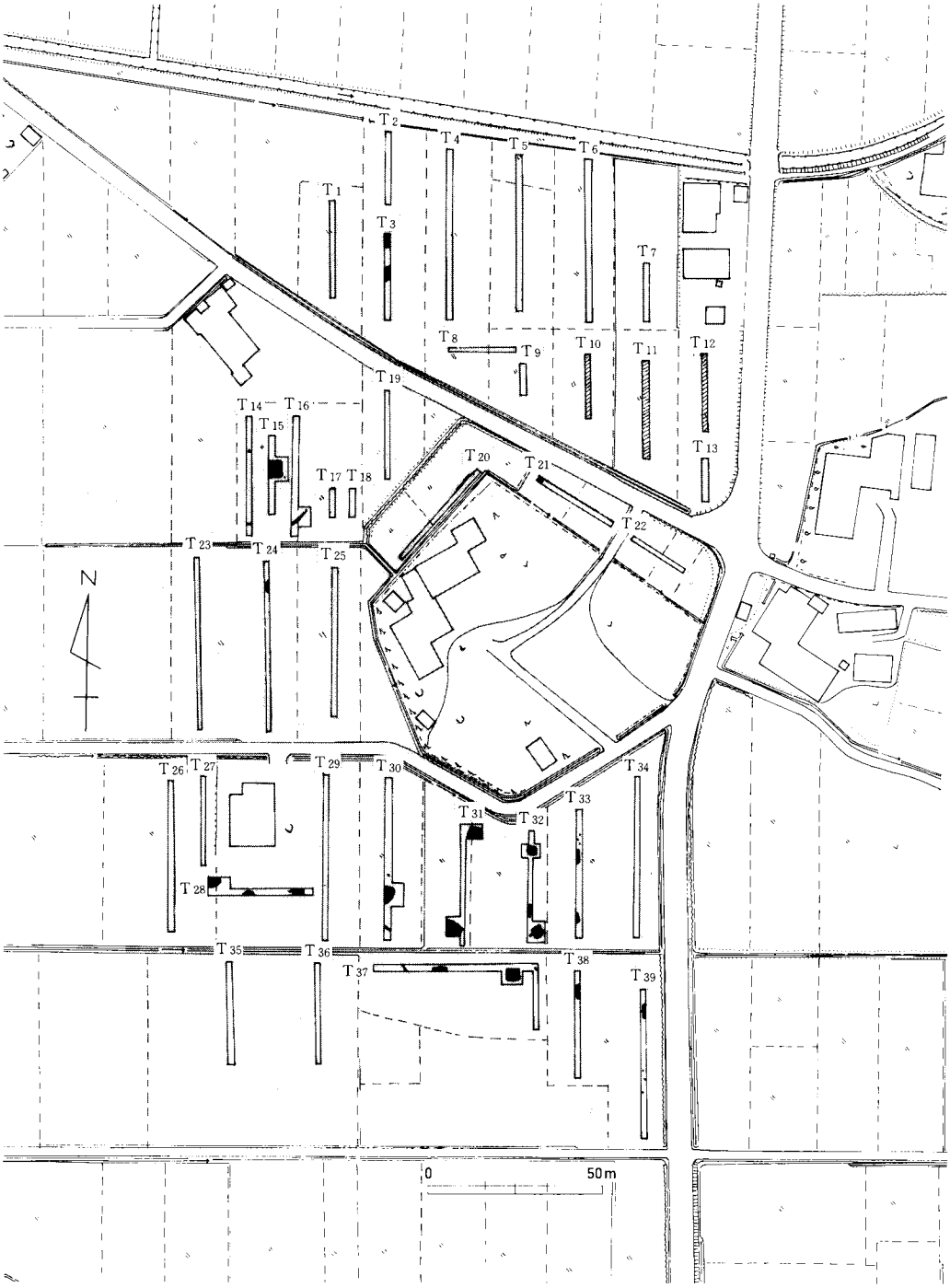
第62図　南谷地II遺跡トレンチ配置図



第63図　南谷地II遺跡(1・2)・田中遺跡(3～10)出土遺物



第64図　田中遺跡出土遺物



第65図　田中遺跡トレンチ配置図

⑽　田中遺跡

所在地：紫波郡都南村下飯岡字田中　調査期日：平成３年８月26日～27日

田中遺跡は、沖積地上の微高地に立地し、標高は120～121mを計る。遺跡の現状は、水田・畑地及び宅地となっている。調査の結果遺構は、T_3において竪穴住居址２棟が検出されたが、北側の住居址については南側にカマドを持つことが確認できた。T_{14}北半部で径約40cmの柱穴１基及びT_{14}～T_{16}にのびる溝跡１条が検出された。またT_{15}において、１辺4.3mを計る竪穴住居址が検出されたが、カマドの位置については不明である。T_{21}西端で竪穴住居址が検出されたが、縄文土器片が出土しており、本遺跡では唯一の縄文時代の竪穴住居址である。

T_{31}では竪穴住居址が２棟検出されているが、北側の住居址は１辺3.8mを計る。南側の住居址は１辺4.9mを計り南西側に焼土が見られる。T_{32}においては、竪穴住居址が３棟検出された。北側の住居址は１辺1.9mを計るがカマドは不明である。南端の住居址は１辺３mを計りカマドを南西方向に持つ。

T_{37}において竪穴住居址２棟・溝跡１条及び土坑１基が検出された。西側の住居址は１辺3.5mを計り、東側の住居址は１辺3.1mを計るが、いずれもカマドの位置については不明である。溝跡は幅約70cmで南北の方向にはしる。土坑は、87×100cmの楕円形である。T_{38}の北端部で竪穴住居址が１棟検出されており、南西部分に焼土が見られた。T_{38}の北半部は低湿地となっている。T_{39}においても北端部で竪穴住居址１棟が検出されたが、カマドは西側につくられている。南半部では、径約25cmの柱穴３基が検出された。T_{39}南端部は低湿地である。

以上のように、低湿地を除く微高地のほとんど全てで遺構が検出された。遺物については、縄文時代及び奈良・平安時代の土器が多数出土しており、その一部を第63・64図に掲げた。

縄文土器は、T_{10}～T_{13}の耕作土直下の遺物包含層及びT_{21}・T_{22}に集中する。時期は縄文時代後期末から晩期初頭のものが多い（第64図４～10）。土師器・須恵器は坏・甕が出土している。土師器坏・須恵器坏ともに回転糸切りのものとヘラ切りのものがある。

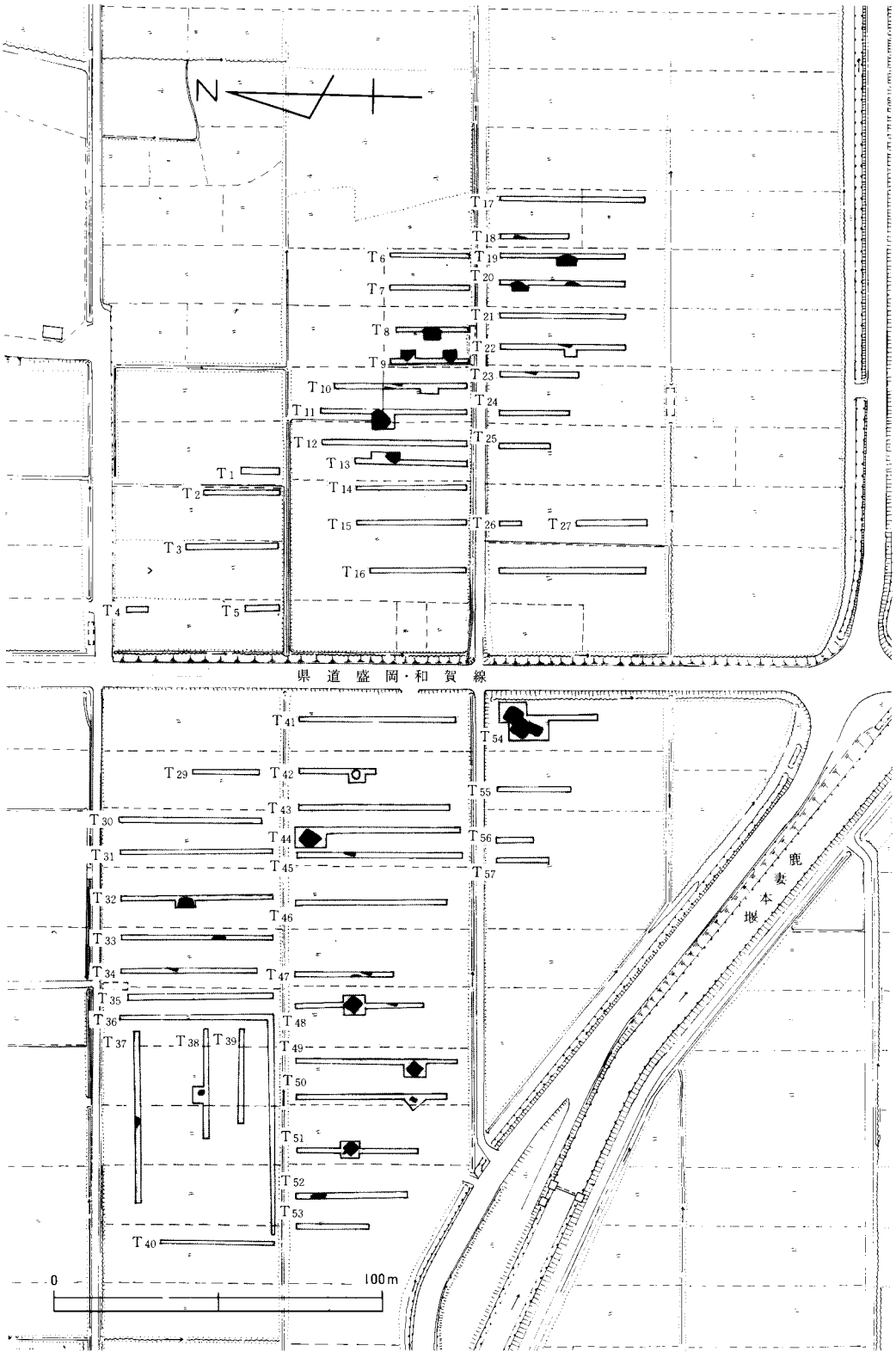
上記の調査結果から、本遺跡は縄文時代及び奈良～平安にかけての大集落跡であることが判明したため、事業者と協議の結果、遺構については盛土による保存を図った。

⑾　林崎Ⅱ遺跡

所在地：紫波郡都南村上飯岡林崎・下飯岡新田　調査期日：平成３年８月

本遺跡は、県道盛岡和賀線を挟み、鹿妻本堰の北側の水田地帯に広がる。標高はおよそ125mで、西から東にかけて緩やかに傾斜するが、かつての水田整備により旧地形は失われ、微高地などは削平されるなど、耕作土直下に礫層、黄褐色砂質粘土が見られる地点も少なくない。

今回の調査では、南北ラインを基本に、東からT_1～T_{57}のトレンチを設定した。その結果、かつて微高地であった粘土・礫層が分布する部分で多数の遺構が検出された。これらの遺構群



第66図　林崎II遺跡トレンチ配置図

は、地域的にはT_{14}～T_{18}の東側ブロックと、T_{42}～T_{52}を中心とする北西側ブロック、それにT_{54}周辺の南側ブロックの三ブロックに細分される。

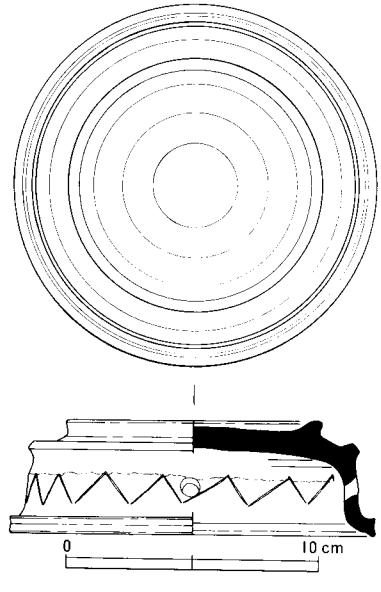
東側ブロックは、T_{7}の中央部からT_{10}の北端部より北側は、湿地となり泥炭・青色粘土が堆積し、遺構はみられない。T_{17}以東、T_{14}・T_{25}以西も同様で、南側もT_{21}の南端付近から傾斜することが確認された。このブロックで検出した遺構は、竪穴住居が13～15棟、時期不詳の大小の溝等である。溝には、竪穴住居を切るもの、溝相互に切り合うもの等があるが、T_{11}の住居跡南側で確認した溝には火山灰と思われる白色砂を覆土に含むものがあり、あるいは古代まで遡る例もある可能性が高い。

北西ブロックは、県道付近を東限とし、南部と西部の範囲も一応確認できた。ただし北側については、より北へ伸びると推定される。ただ、T_{39}やT_{46}には湿地が広がっており、複雑な微高地であったことがわかる。遺構は、竪穴住居15棟以上、T_{42}で円形周湟1基等ほか、東側ブロックと同様に、複数の溝が走る。また、T_{46}の低湿地の泥炭質層中で、火山灰が筋状に薄く堆積していることも確認している。水田址に関わるものであろうか。

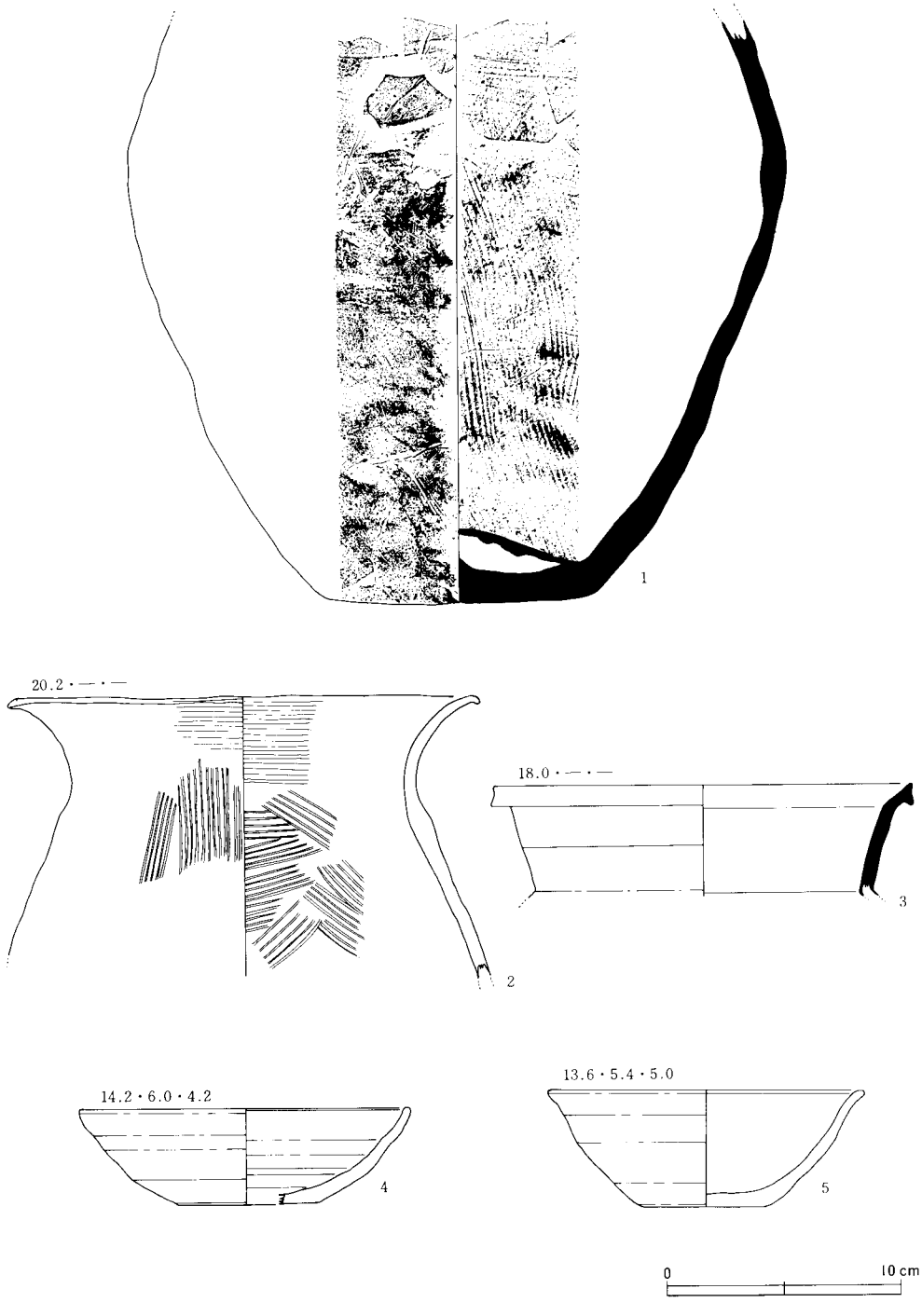
南側ブロックは、T_{41}～T_{46}の中央部に低湿地が入り、北西ブロックとは区画できる微高地である。ここからは、T_{54}で三棟の竪穴住居址の切り合いを検出した。また遺構は確認できなかったものの、T_{55}から縄文土器が出土している。なお、第66図には図示していないが。T_{56}の北側の農道部分で、竪穴住居が3棟確認されている。

今回の調査で検出した竪穴住居跡は、35棟以上になる。カマドを確認した例が少ないため主軸方向のまとまりは不詳だが、大きくは北西カマド、南西カマドの二者に区分できる。

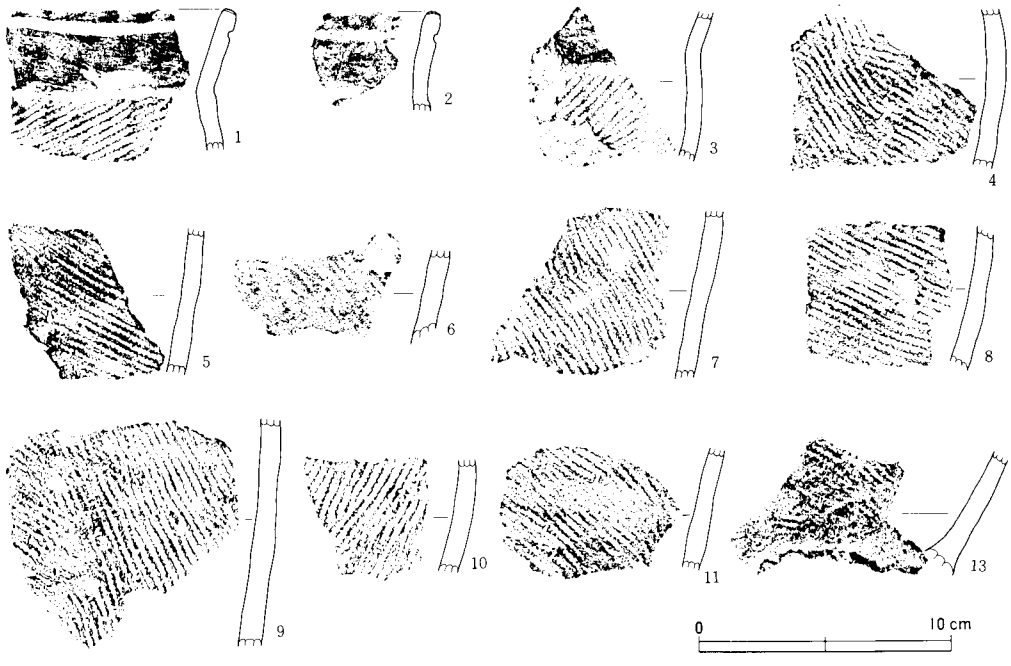
遺物としては、まず、T_{44}北端の竪穴住居北東壁際から出土した円面硯がある（第67図）。底径14.6cm、高さ4.6cm、海部外径12.7cm、陸部外径10.2cmを計る。脚部には鋭い竹管による鋸歯文、四方に円形の窓が付く。陸海の高低、底部断面等から9世紀前半に比定できるものであろう。第68図1は、T_{54}の三棟切合いの住居跡のうち北端からの出土。火膨れを持つ例はT_{9}でも出土しており、近隣に窯跡存在が予想される。他は糸切りの坏を主とする9世紀前半の資料が大半を占めるが、奈良以前の土師器（2）も散見する。また、表採品には、1078年初鋳の元豊通宝（宋）が一点ある。縄文土器は、局部的に出土したものだが、大洞C_{1}式を主としたまとまりを持ち、当該期の遺跡立地を知る上でも、貴重な資料となろう。



第67図　林崎II遺跡出土遺物



第68図　林崎II遺跡出土遺物

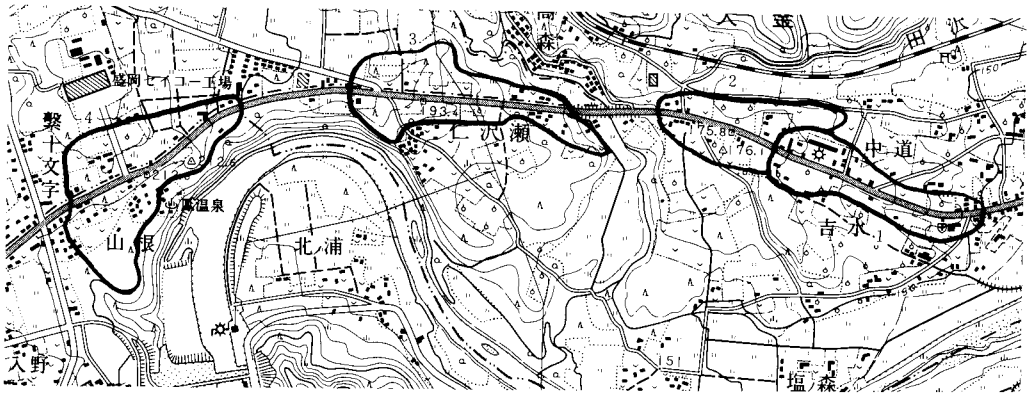


第69図　林崎II遺跡出土遺物

《飯岡地区の遺跡群について》

今回の県営ほ場整備事業に伴う飯岡第1地区の試掘調査は、盛岡南西部の古代史研究にとっていくつかの貴重な資料を提供することとなった。特に志波城築造前後の集落の一部を確認出来たことは、今後平安時代初期における東北地方北部への律令社会の進出を考える上でいくつかの問題を提示することとなろう。飯岡地区の遺跡群は、志波城の南2～3km地点に広がる最下位の砂礫段丘上に立地する。周囲が開析を受けているため集落は微高地上に在る。飯岡第1地区だけでも10遺跡ほど確認されているが、これらの遺跡を部分的に調査しただけで奈良時代から平安時代の竪穴住居が136棟余り検出されたし、また、古墳時代末から奈良時代のものと推定される古墳や土壙等も多く発見されている。今回の調査で特に注目されるのは、次の3点であろう。第1点は、奈良時代の集落がかなりの広がりをもって形成されているということである。古墳等も含め、志波城築造前夜を解く大きな鍵となるものと考えられる。第2点は、志波城設置直後頃の集落も多くみられることである。志波城設置後の集落の再編がどのように行われたのかを追求する資料となろう。第3点は、林崎遺跡において、円面硯が出土したことと焼成中の破損と推定される須恵器が多く発見されたことである。硯は、志波城との関わりでその他の須恵器は、生産遺跡との関わりで注目される資料となろう。

7．国道46号線稲荷前バイパス建設事業関連



第70図

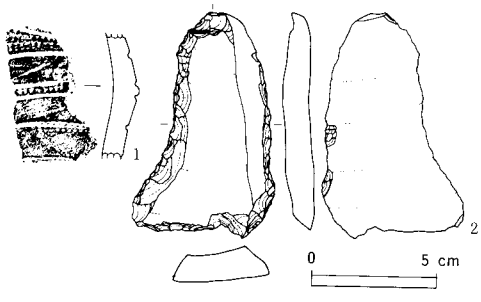
(1)　**中道II遺跡**（第70図の１）

所在地：岩手郡滝沢村大釜字中道・吉水

調査期日：平成３年６月10日、７月16日

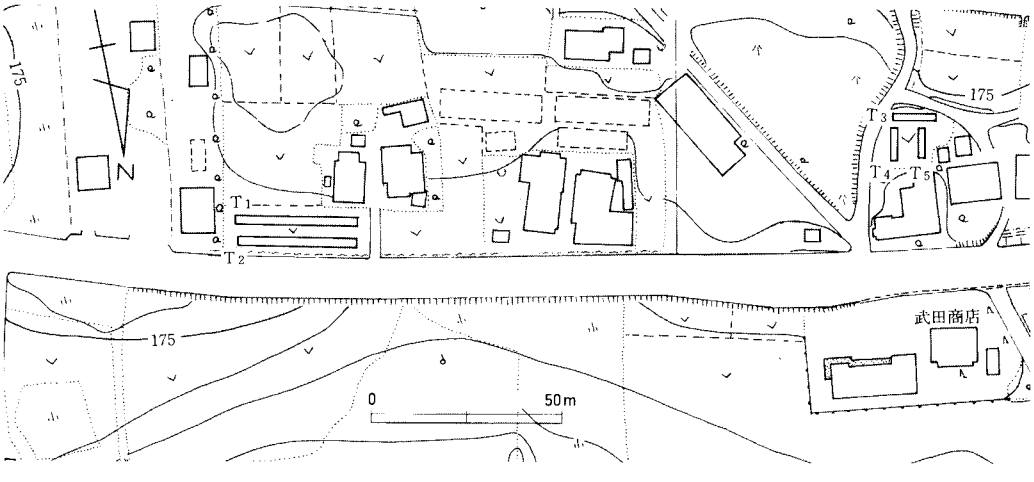
中道II遺跡は、雫石川左岸の丘陸東端に立地し標高は約155～175mを計る。

遺跡東端の丘陵部に設定したT_1において、表土下の黒色土中から縄文早期土器片（物見台式）と削器（第71図）が出土したため、発掘調査を実施することとした。



第71図　中道II遺跡出土遺物

T_2～T_6では、遺跡・遺物ともに発見されなかった。



第72図　中道II遺跡トレンチ配置図

⑵　**中道Ⅰ遺跡**（第70図の２）

所在地：岩手郡滝沢村大釜字中道・吉水　調査期日：平成３年６月11日、11月22日

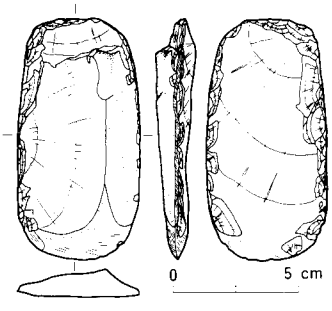
中道Ⅰ遺跡は、西側を芋桶沢によって開析された丘陵上に立地し、中道Ⅱ遺跡と隣接する。標高は170～175mを計る。道路拡幅部分及び取付道路部分について、トレンチT_1～T_5を設定し調査を実施した。いずれも現状は畑地である。耕作土下に暗褐色シルト層があり、その下に黄褐色シルト層が見られた。黄褐色シルト層上部を検出面とし遺構検出を行ったが、いずれのトレンチからも遺構は検出されなかった。遺物も出土していない。

⑶　**仁沢瀬Ⅱ遺跡**（第70図の３）

所在地：岩手郡滝沢村大釜字仁沢瀬

調査期日：平成３年６月12日、７月17日

仁沢瀬Ⅱ遺跡は、雫石川と芋桶沢に開析された丘陵の先端部に立地し、標高は約175m～195mを計る。道路拡幅部分にトレンチT_1～T_7を設定し調査を実施した。今年度の発掘調査区の西側に設定したT_6において、東端で石斧（第73図）が出土したものの遺構は検出されなかった。T_1～T_5においても調査の結果、遺構・遺物ともに発見されなかった。

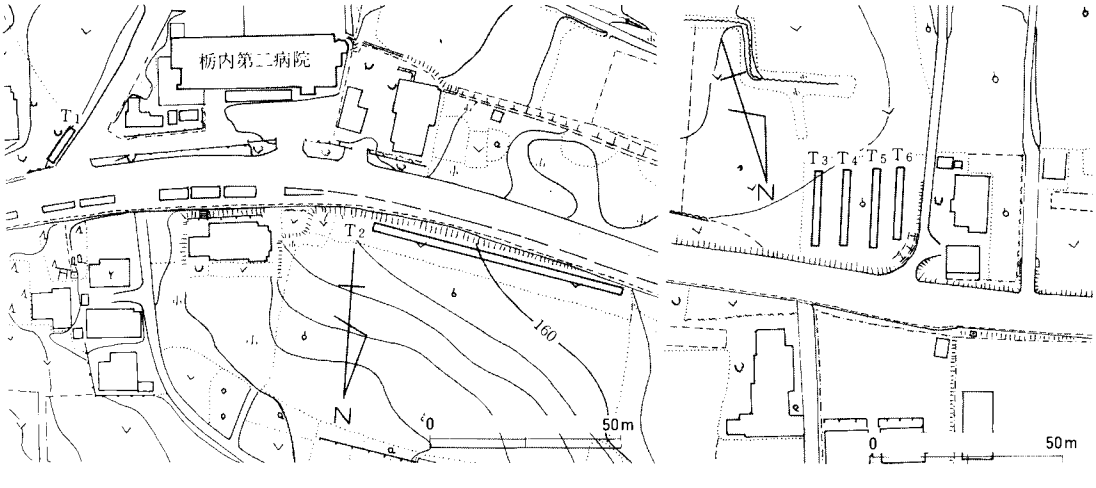


第73図　仁沢瀬Ⅱ遺跡出土遺物

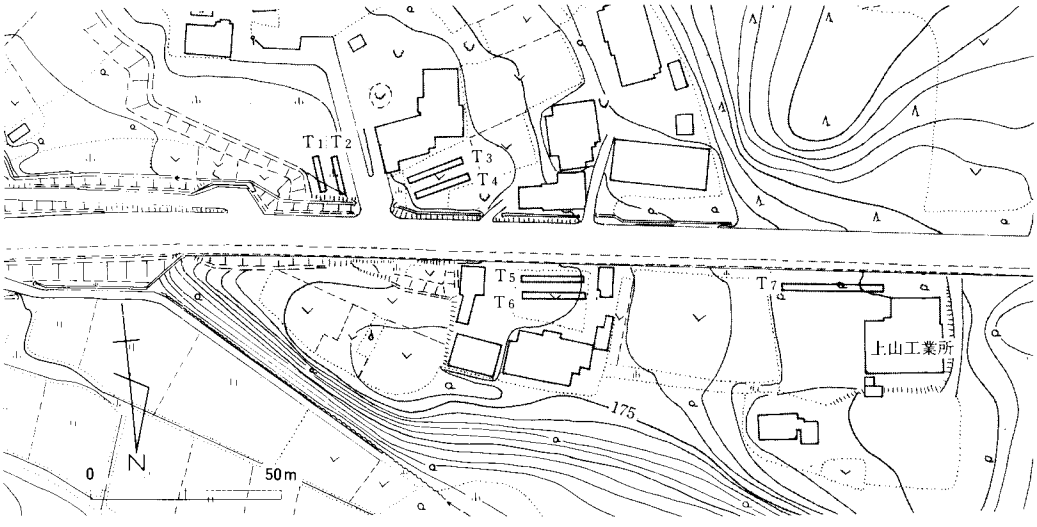
⑷　**板橋Ⅱ遺跡**（第70図の４）

所在地：岩手郡雫石町板橋　調査期日：平成３年６月12日、７月18日

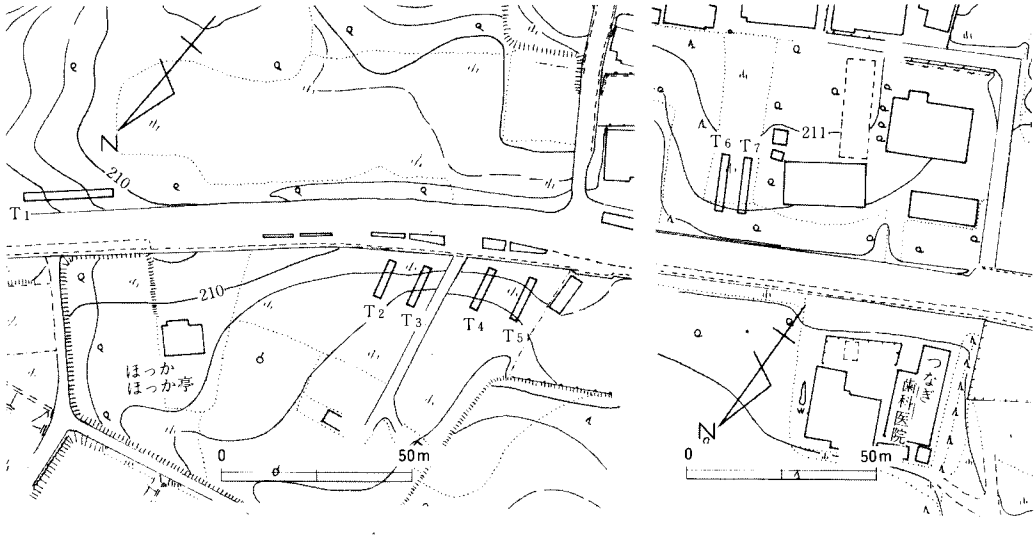
板橋Ⅱ遺跡は、雫石川左岸の丘陵上に立地し、標高は約205～210mを計る。試掘調査の結果、T_2～T_5では表土直下に黄褐色粘土の地山が見られた。また、T_1・T_6～T_7では表土下に黒褐色土が見られたが、いずれのトレンチからも遺構・遺物ともに発見されなかった。



第74図　中道Ⅰ遺跡トレンチ配置図



第75図　仁沢瀬II遺跡トレンチ配置図



第76図　板橋II遺跡トレンチ配置図

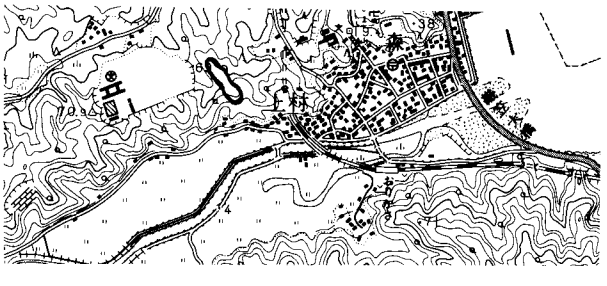
8．三陸国道建設事業関連・山田道路

(1)　上村遺跡（第77図）

所在地：下閉伊郡山田町織笠

調査期日：平成３年10月７・８日

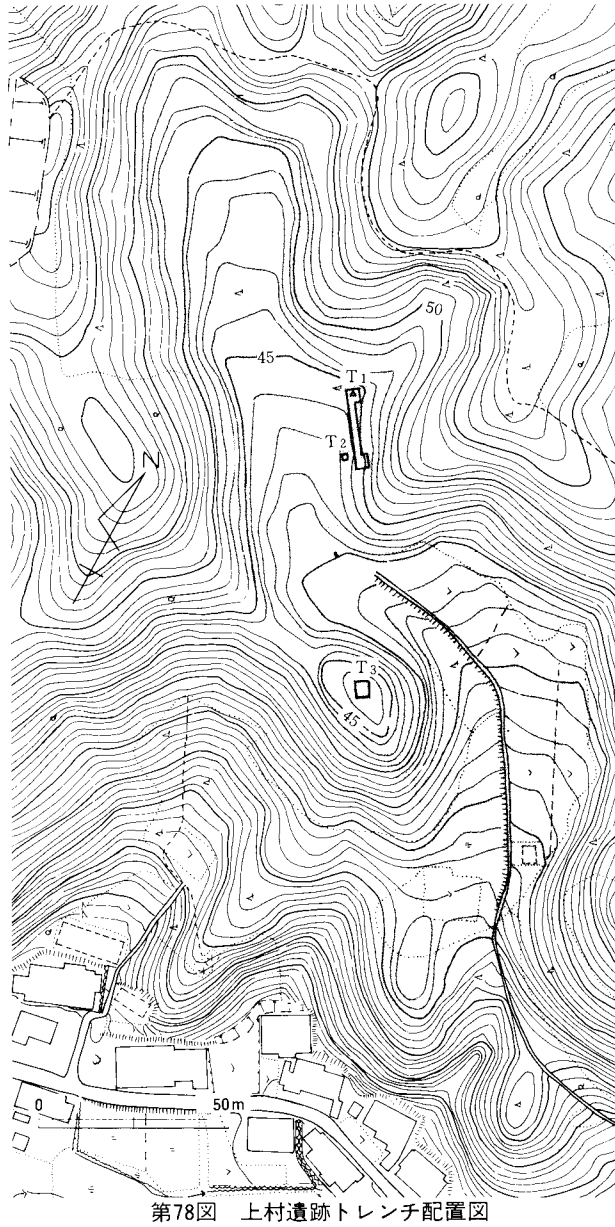
本遺跡は、標高50m前後の丘陵裾部の沢沿いに広がる遺跡である。遺跡の状況を把握するため、第78図に



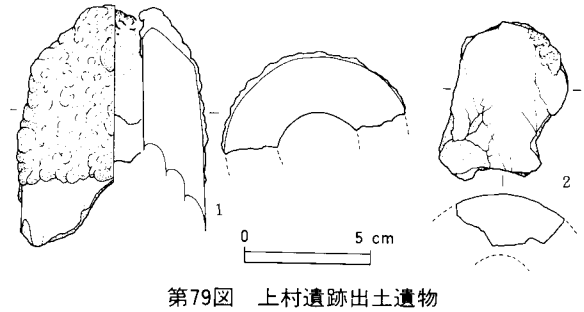
第77図

示した通りT_1～T_3トレンチを設定し調査を実施した。T_1トレンチの基本層序は、第1層に表土、第2層に黒褐色土層、第3層に暗褐色土層、第4層に砂質の明黄褐色土層となっている。第3層から第4層の上面にかけ遺構の確認を行った。北側のやや高い部分で粘土と焼土のブロック。それに接して円形状の炭と粘土の面が確認され、周囲には、多くの炭の分布がみられた。また、南側の下位では、鉄滓を多数含む落ち込みを確認出来た。遺物は、鉄滓のほか、羽口も出土している。これらのことからT_1トレンチの遺構は、製鉄と関連するものと考えられる。時期を決める遺物が出土しなかったためいつ頃の製鉄跡か不明である。しかし、当該遺構は沢沿いの小規模な凹みに小規模に営まれていること、鉄滓の分布も極めて範囲がせまいことなどから古代に遡る可能性がある。

T_3トレンチは、独立丘陵頂部に設定したが、表土直下のある一程の範囲内に平坦な亜角礫が集中しているのが確認された。自然の可能性もあるが、T_1・T_2トレンチの周辺部も含めて、平成4年度に発掘調査を実施することとした。



第78図　上村遺跡トレンチ配置図



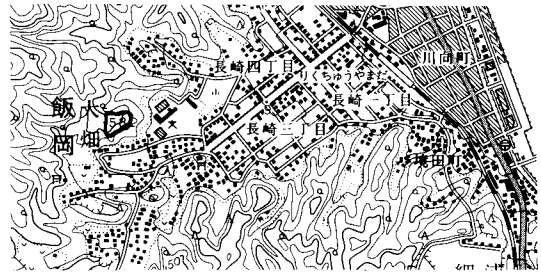
第79図　上村遺跡出土遺物

(2) 大畑II遺跡（第80図）

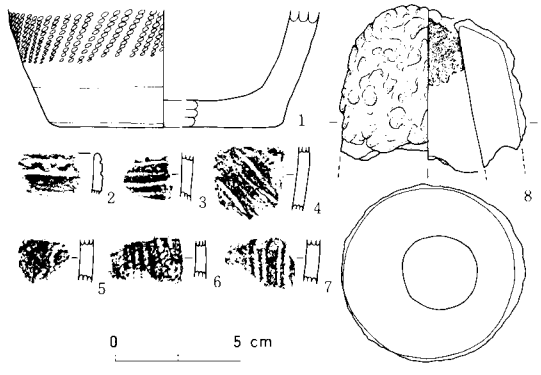
所在地：下閉伊郡山田町飯岡第６地割

調査期日：平成３年10月８日・９日

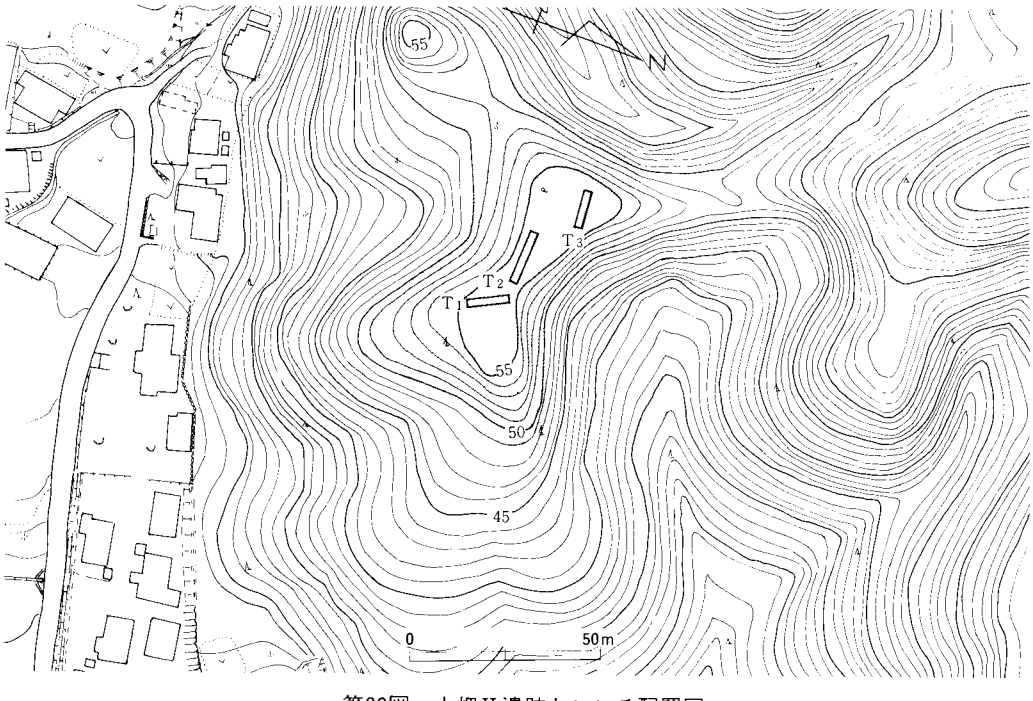
本遺跡は、丘陵の馬の背状尾根の平坦部に立地し、標高は約55mを計る。第78図に示した通り調査予定地内にT_1～T_3トレンチを設定し調査を実施した。基本層序は、第１層に表土、第２層に黒色土がみられ、第３層に黄褐色土層がみられる。T_1トレンチにおいて第２層よりふいごの羽口１点が出土した。また、第81図に示した通りT_2・T_3トレンチにおいて、縄文土器片および弥生土器片が出土している。T_2・T_3トレンチには、僅かであるが落ち込みもみられ、遺構が残されている可能性がある。当遺跡については、平成４年度に発掘調査を実施することとなっている。



第80図



第81図　大畑II遺跡出土遺物

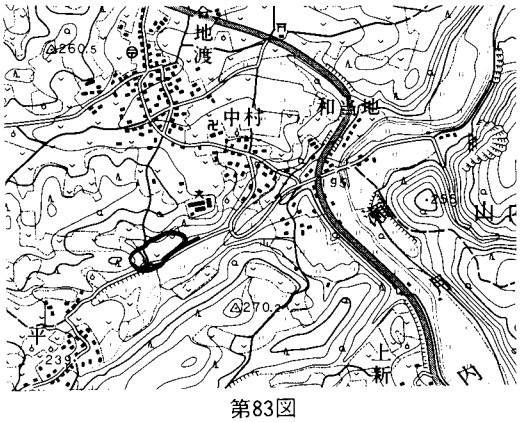


第82図　大畑II遺跡トレンチ配置図

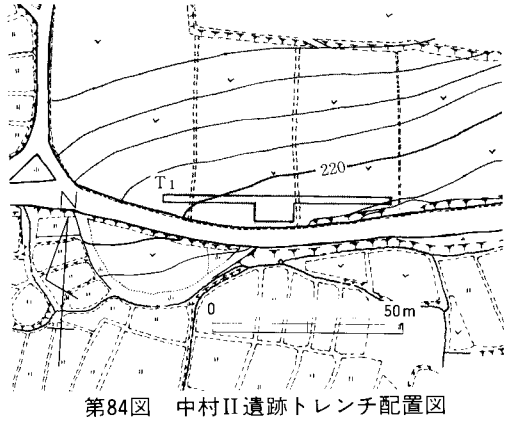
9．県道二戸軽米線凍雪害対策事業関連

(1)　中村II遺跡（第83図）

所在地：九戸郡軽米町大字山内字中村　調査期日：平成３月10月23日

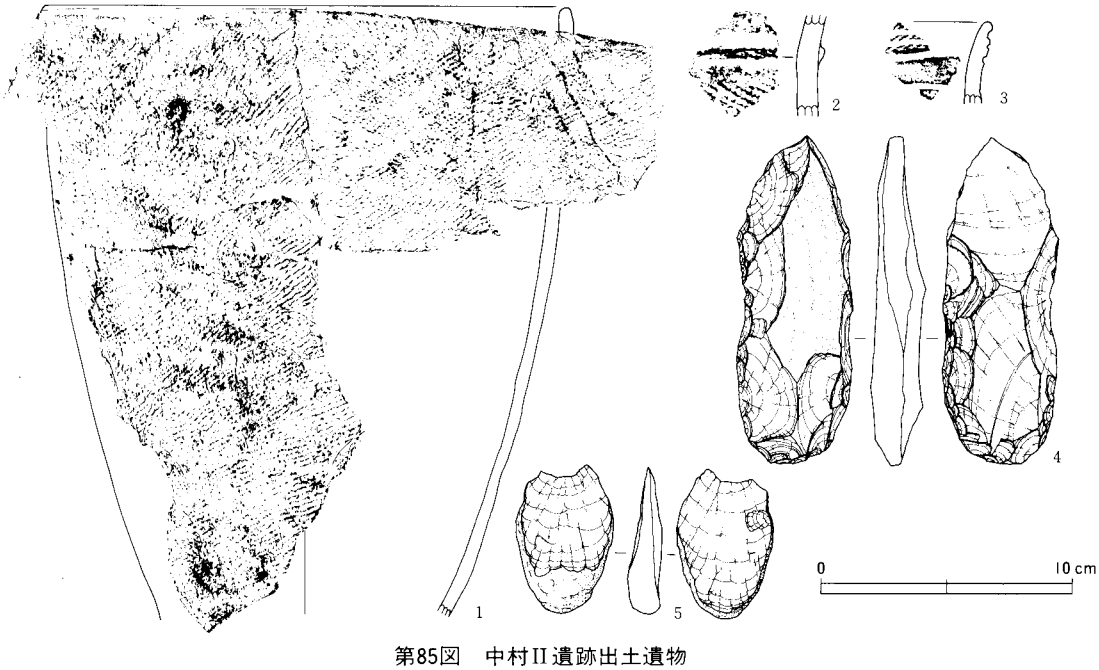


第83図



第84図　中村II遺跡トレンチ配置図

本遺跡は標高約220mの南面する丘陵上に位置し、縄文後、晩期の遺跡として知られていた。今回の調査では東西にトレンチを設定した。その中央部分で、南部浮石を乗せる小規模な尾根状の高まりがみられ、縄文晩期の粗製深鉢片（第85図１）がまとまって出土したが、隣接してビニルシートが出土するなど、攪乱を受けたものと判断された。出土遺物は、前述の粗製深鉢のほか、円筒下層ｄ式（２）、撚糸側面圧痕を有する後期中葉の土器片（３）、打製石斧（４：表採）や、チャート質の円礫を打割した石器（５）などが出土している。



第85図　中村II遺跡出土遺物

10. 県道北成島花巻線整備事業

(1) 高松II遺跡（第86図の１）

所在地：花巻市高松第３地割

調査期日：平成３年８月７日

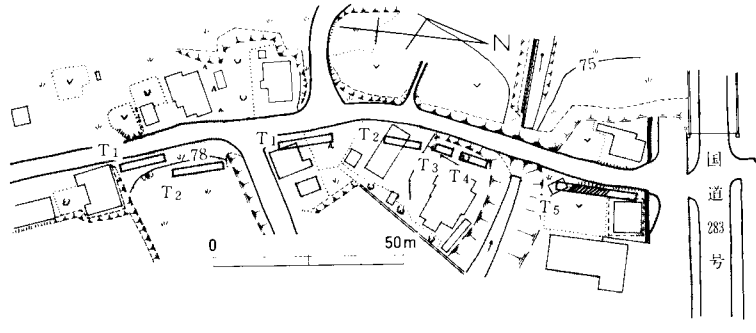
高松II遺跡は猿石川右岸の段丘縁辺部に立地し、標高約80mを計る。第87図に示した通り計画道路内にT_1～T_5トレンチを設定し調査を実施した。T_5トレンチ周辺は宅地による攪乱部分も認められるものの第２層の暗褐色土中に弥生式土器が認められたことから、発掘調査を実施することとした。T_1～T_4トレンチでは、第２層を欠き、表土下に砂礫層がみられた。

第86図

(2) 高松III遺跡（第86図の２）

所在地：花巻市高松第３地割　調査期日：平成３年８月７日

本遺跡は、高松III遺跡の南側に位置し、猿石川右岸で標高約77mほどの段丘縁辺部に立地する。今回の試掘調査は、遺跡の北側の一部（第87図・T_1・T２トレンチ）だけ実施した。土層は、１層が黒褐色の表土、第２層が暗褐色土で第３層に砂礫層がみられた。T_1トレンチにおいて縄文土器の小破片１点が発見されたが、遺構は検出されなかった。



第87図　高松II遺跡(右)・高松III遺跡トレンチ配置図

11. 県道一関北上線交通安全施設整備事業関連

(1) 斉羽場遺跡（第88図）

所在地：北上市稲瀬町下門岡　調査期日：平成３年７月８日～10日

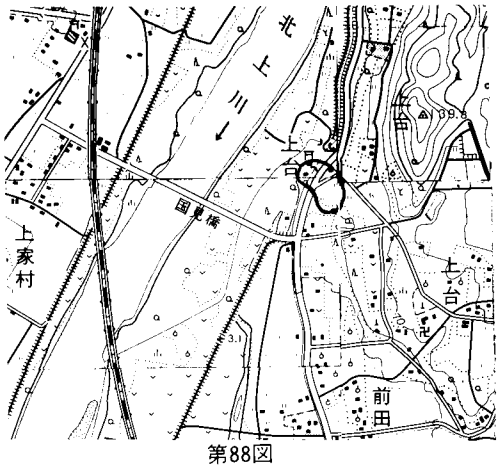
本遺跡は、昭和46年に発掘調査され、旧石器時代・縄文時代早、中期の遺跡として知られてきた。今回の調査は歩道設置部分についてのみ実施したもので、その層序は、１層（耕作土）、

2層（暗茶褐色土）、3層（黄褐色粘土）、4層（黄褐色砂質粘土）であった。遺物は、1・2層から出土しただけで、遺構は確認できず、旧石器として確実な層位をもつものはない。

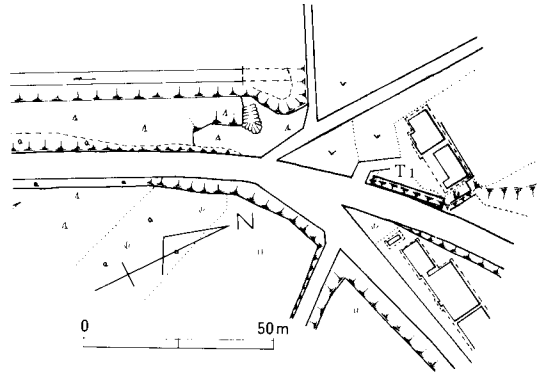
土器は、いずれも小片のみで、胎土・焼成ともに不良のものが多い。第90図1は大洞C_1式の壺形土器の肩部で雲形文が描かれる。2は、器表面に横位の擦痕がみられ、雲母をやや多く含むことなどにより、縄文早期中葉に比定できる。3～5の詳細な時期は不祥である。

石器は、石鏃（6～8）、尖頭器（9）、削掻器（10～12）などが出土している。いずれも風化膜の発達は、他遺跡の同石材の旧石器に比べて弱く、頭部調整を施さず、剥離技術の統一性がみられないことなど、旧石器時代の所産に係るものとは言えない。

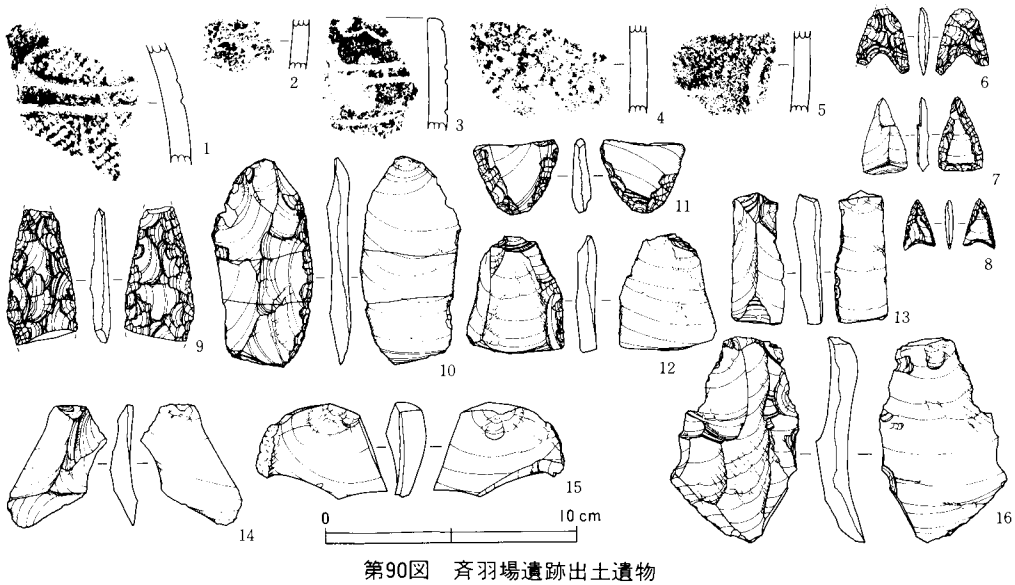
なお、本遺跡は、中世以降、城館としても利用されたと考えられているが、今回の調査ではそれに関わる遺構・遺物は出土していない。



第88図



第89図　斉羽場遺跡トレンチ配置図



第90図　斉羽場遺跡出土遺物

12. 農免農道整備事業〔江刺家地区〕　(位置図：第10図参照)

(1) 田代III遺跡

所在地：九戸郡九戸村江刺家第３地割　調査期日：平成３年10月24日・11月30日

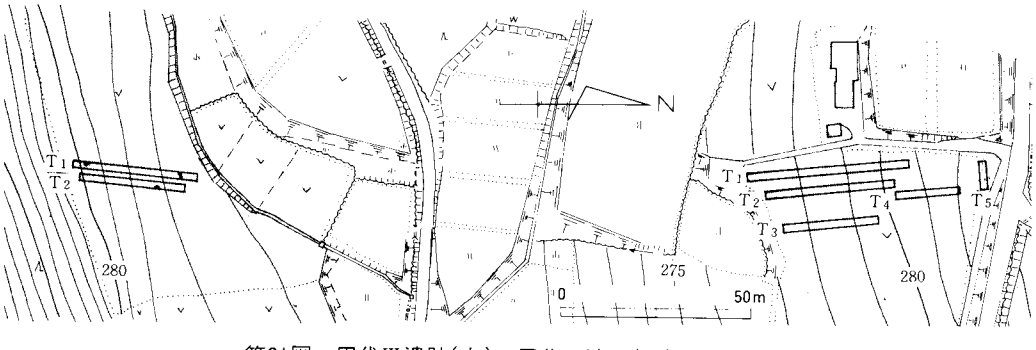
本遺跡は、九戸インターの南、約700m、標高約280mの南面する丘陵に位置する。事業予定地内にT_1～T_5のトレンチを設定したが、一部に再堆積の南部浮石が分布するものの、遺構遺物は確認できなかった。

(2) 田代VI遺跡

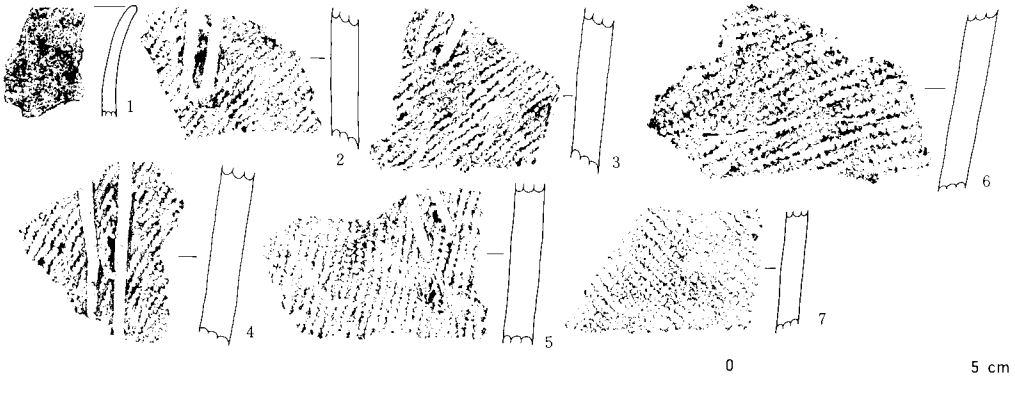
所在地：九戸郡九戸村江刺家第３地割　調査期日：平成３年10月24日

田代III遺跡の南側、沢を挟んで北面する丘陵上に位置する。南北に平行してT_1・T_2のトレンチを設定した。T_1では、土壙１・陥し穴１のほか、縄文中期中葉の土器の包含層を確認した。T_2では、土壙２基を検出し、そのうち一基には、十和田ａと思われる火山灰が堆積していた。この他にも、いくつかの場所で、中振浮石・十和田ａの集中部分があり、遺構の存在を予想させた。出土土器（第92図）には、最花式的な要素も看取できる。

なお、本遺跡は、平成４年度に発掘調査を実施する予定である。



第91図　田代III遺跡(右)・田代VI遺跡(左)トレンチ配置図



第92図　田代VI遺跡出土遺物

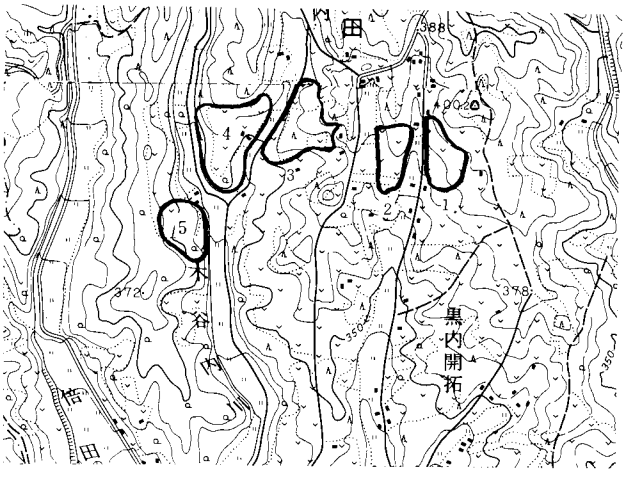
13. 農免農道整備事業〔岩手地区〕

(1) 宮沢Ⅰ遺跡（第93図の1）

所在地：岩手郡岩手町大字葉木田第1地割字宮沢

調査期日：平成3年9月11日

宮沢Ⅰ遺跡は、東西を沢によって開析された丘陵上に立地し、標高は約370～385mを計る。現状は、畑地及び原野となっている。



第93図

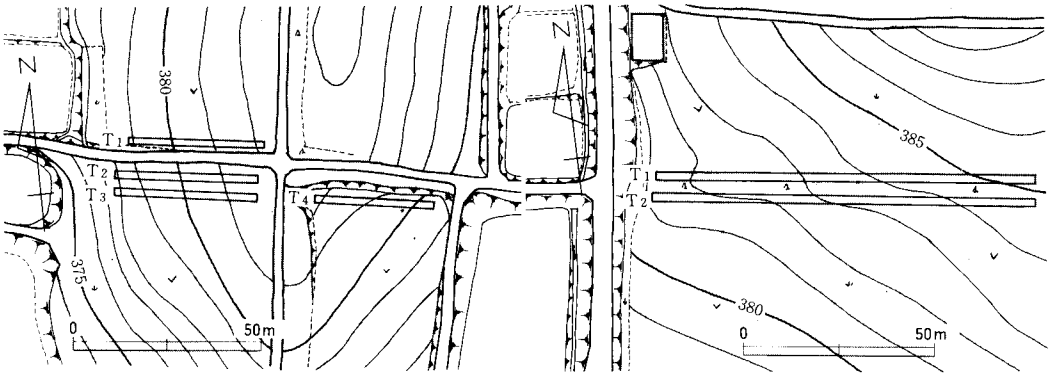
工事予定地内にトレンチT_1～T_4を設定し調査を実施した。耕作土の下に暗褐色シルトがあり、その下に黄褐色火山灰が見られた。畑地として利用されているところに設定したT_1～T_3は、黄褐色火山灰層まで耕作による攪乱を受けており、遺構は検出されなかった。遺物は、T_1の攪乱土中から縄文晩期土器片が1点出土した。原野となっているT_4は、大規模な削平を受けており、表土直下に黄褐色火山灰層が見られ、遺構・遺物ともに発見されなかった。

(2) 宮沢Ⅱ遺跡（第93図の2）

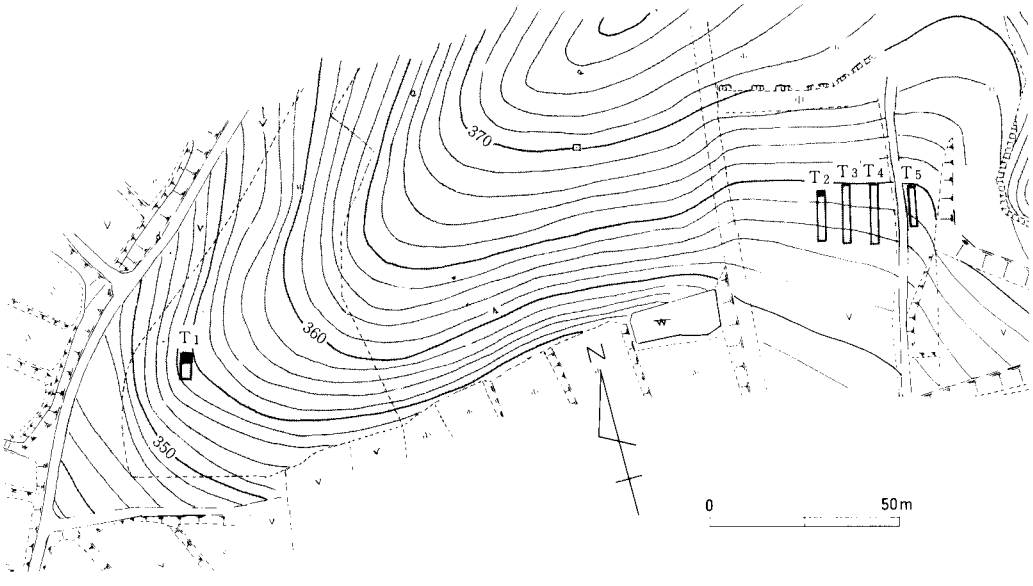
所在地：岩手郡岩手町大字葉木田第1地割字宮沢　　調査期日：平成3年9月10日

宮沢Ⅱ遺跡は、西側を沢によって開析された丘陵上の西側暖斜面に立地し、標高は約375～390mを計る。現状は畑地区及び草地である。

工事予定地内にトレンチT_1・T_2を設定し調査を実施した。耕作土の下に黒褐色シルトがあり、その下に黄褐色火山灰層が見られた。いずれのトレンチにおいても、黄褐色火山灰層を握り込むトレンチャー痕が見られた。調査の結果、遺構・遺物ともに発見されなかった。



第94図　宮沢Ⅰ遺跡(左)・宮沢Ⅱ遺跡(右)トレンチ配置図



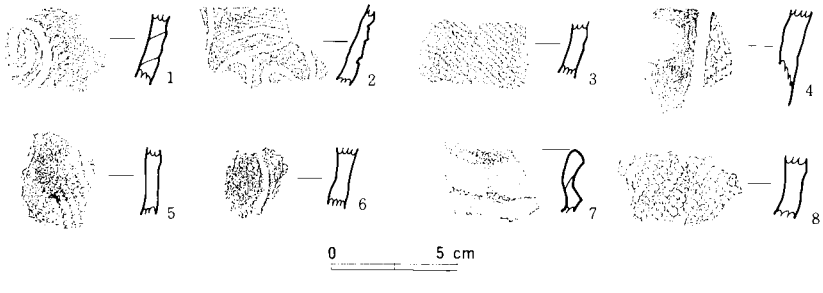
第95図　倍田Ⅳ遺跡トレンチ配置図

⑶　倍田Ⅳ遺跡（第93図の３）

所在地：岩手郡岩手町大字黒川第２地割　　調査期日：平成３年11月13日

本遺跡は標高350～370mの東西に延びた丘陵上に位置し、広範囲にわたると推定される。遺跡西側のT_1では、黒色土の発達はないものの、焼土を有する遺構が確認された。また、東側のT_2～T_5には、沢の影響による黒褐色土が厚く堆積する。T_2の北端で、その黒褐色土の下位の暗褐色土中から、縄文中期後葉の土器がまとまって出土した。付近には炭化物が分布することから、何らかの遺構の存在が予想された。第96図に示した遺物は、T_1より出土したもので、曲線と磨消縄文を組み合わせるモチーフ等から、縄文時代後期初頭に位置付けられる土器群である。

本遺跡については、西側の谷を挟んで対応する黒内Ⅷ遺跡（第93図の４）、さらにその南側に位置する黒内XIII遺跡（第93図の５）とあわせ、平成４年度に発掘調査を実施する予定である。



第96図　倍田Ⅳ遺跡出土遺物

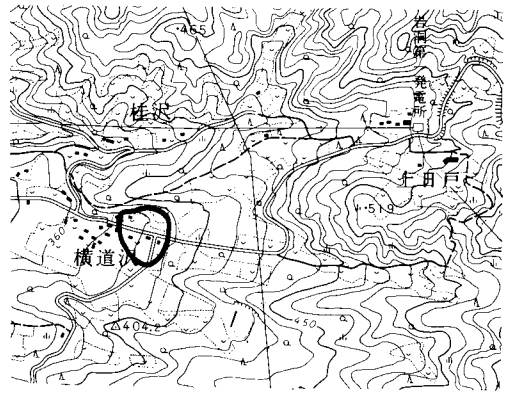
14. 広域農道整備事業〔盛岡西部地区〕関連

(1) 横道沢遺跡（第97図）

所在地：岩手郡玉山村大字日戸字新田

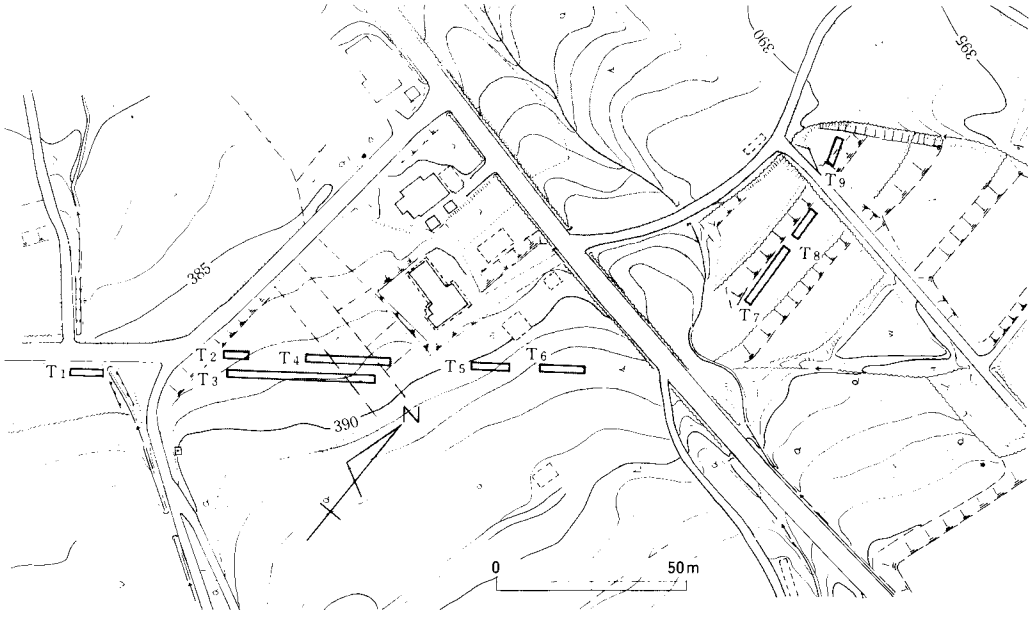
調査期日：平成３年10月11日

本遺跡は姫神山の西麓、標高約350mの丘陵上に位置する。事業予定地内にT_1～T_9のトレンチを設定し、調査を実施した。T_2～T_4では、黄褐色粘土層の上位に赤褐色土の分布が見られたが、これは酸化による色調変化と判断された。



第97図

遺物は、T_3から剝片１、縄文土器片２が出土したが、いずれも耕作による攪乱を受けた層からの出土で、遺構も確認されなかった。T_1及びT_7～T_9は、開田時に削平され、礫層が耕作土直下に分布していた。



第98図　横道沢遺跡トレンチ配置図

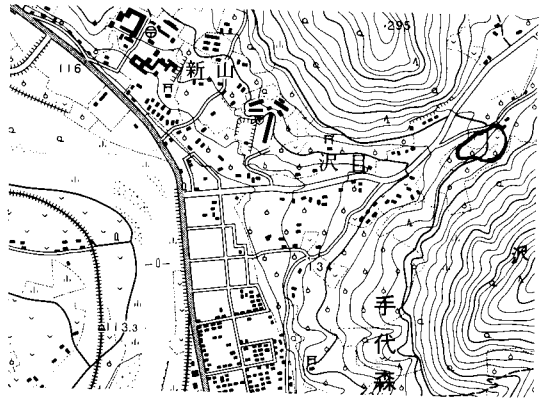
15. 農免農道整備事業〔手代森地区〕関連

(1) 妻の神遺跡（第99図）

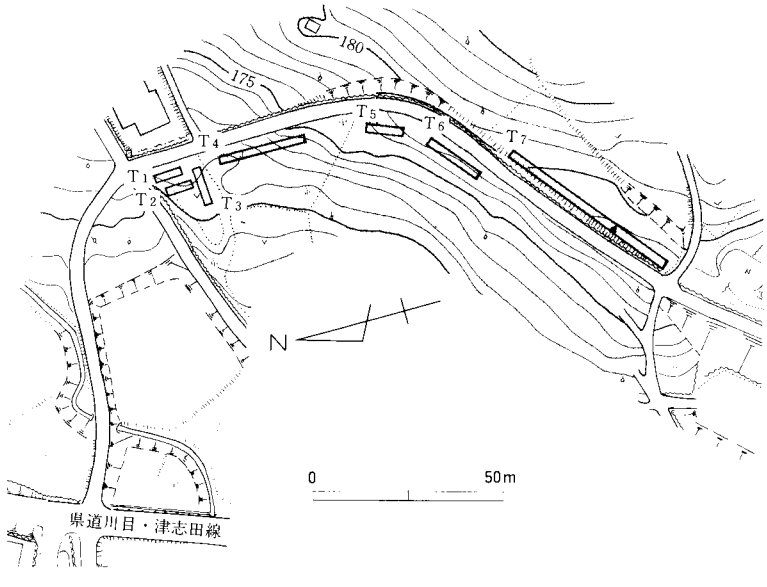
所在地：紫波郡都南村手代森字妻の神　調査期日：平成３年４月19日

本遺跡は、沢口山（標高370m）の西側丘陵の緩斜面に位置し、標高は、170～180mを計る。工事予定区に第100図に示した通のT_1～T_7トレンチを設定し調査を実施した。

下位にあるT$_1$～T$_4$トレンチにおいては、表土下すぐに礫層がみられ遺構・遺物とも発見されなかった。T$_5$～T$_7$トレンチにおいては、比較的安定した火山灰が堆積していた。T$_7$トレンチにおいて僅かに焼土がみられたが、他の遺構も確認出来なかったし、共伴する遺物も無かった。T$_7$トレンチにおいて縄文土器と土師器の小破片が数片出土したが、現地性のものでないと判断された。



第99図



第100図　妻の神遺跡トレンチ配置図

16. 胆沢ダム建設関連調査

(1) 下尿前Ⅰ遺跡（第101図の１）

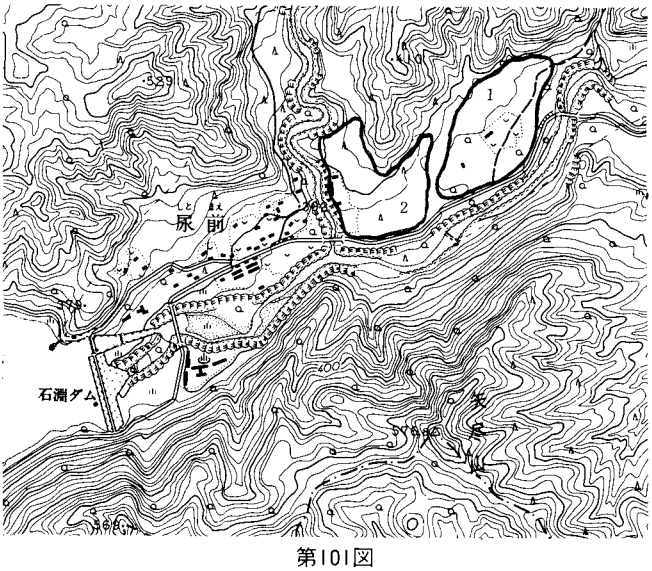
所在地：胆沢郡胆沢町若柳字下尿前　調査期日：平成３年11月８日

本遺跡は、胆沢川の北岸、丘陵裾部の南側に位置し、標高約275mの比較的平坦な面に形成される。胆沢川の現河床面との比高差は約30mで、遺跡の東側で急な崖となり落ち込んでいる。

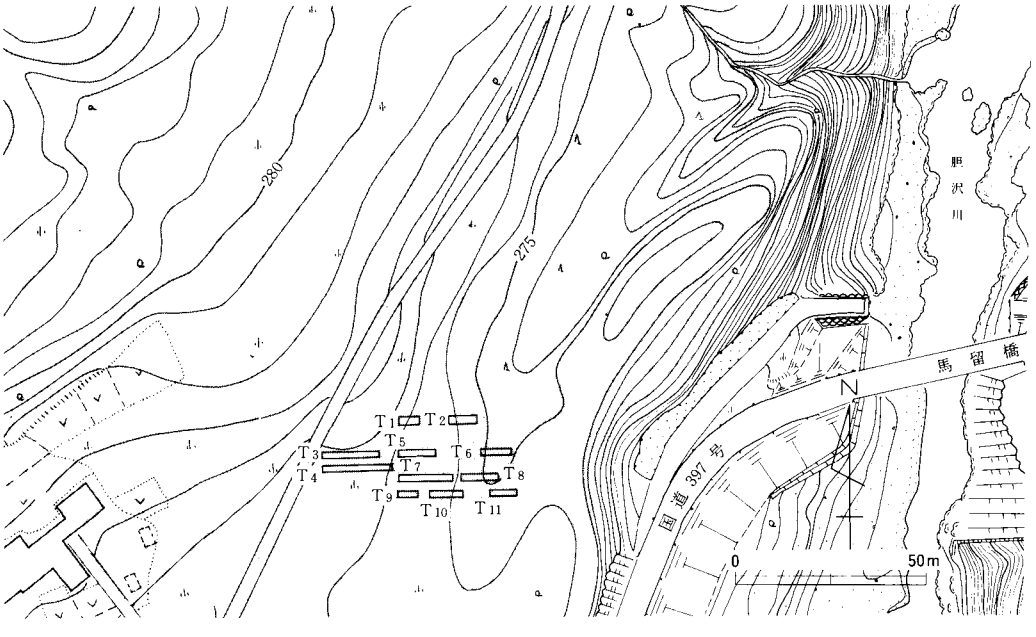
今回の調査は、ダムサイトの地質調査で掘削を受ける部分についてのみ実施した。調査区の西側には、宅地と畑地があり、その畑地からは、耕作の際に土器片等がしばしば出土したという。今回は、その畑地の東側の杉林部分に、T$_1$～T$_{11}$のトレンチを設定した。

いずれのトレンチにおいても表土の下位に腐食土からなる黒色土がみられ、その下位に部分的ながら砂層が分布していた。その下位には、背後の丘陵から供給されたと思われる巨礫を含む黄褐色砂質粘土層が発達する。

遺物は、T_7の黒色土中から縄文土器の小破片が１点出土したが、磨耗状況や層位等から、流れ込んだものと判断した。また遺構も検出できなかった。



第101図



第102図　下尿前Ⅰ遺跡トレンチ配置図

⑵　**下尿前Ⅳ遺跡**（第101図の２）

所在地：胆沢郡胆沢町若柳字下尿前　調査期日：平成３年５月28・29日，11月５～７日

本遺跡は、胆沢川と尿前川に挟まれた丘陵裾部の南側暖斜面に位置し、標高は約295～315mを計る。今年度は、昨年度秋に実施した工事用道路に係わる部分の補足調査と、水没地域のう

第103図　下尿前Ⅳ遺跡トレンチ配置図

ち立木伐採が終了した部分を調査した。前者については、昨年度のT_3トレンチで直径約70cmのピットを調査した。それ以外については、いずれも攪乱・風倒木痕と思われた。遺物は、丘陵上位で、縄文晩期の土器片が僅かに出土したのみで、他には遺物・遺構とも見られなかった。

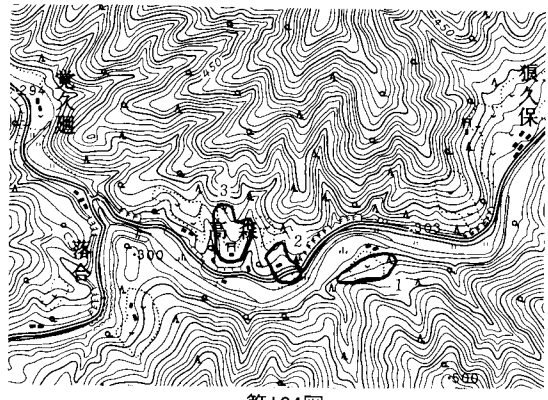
17. 早池峰ダム建設関連調査

(1) 人中遺跡（第104図の1）

所在地：稗貫郡大迫町内川目字人中

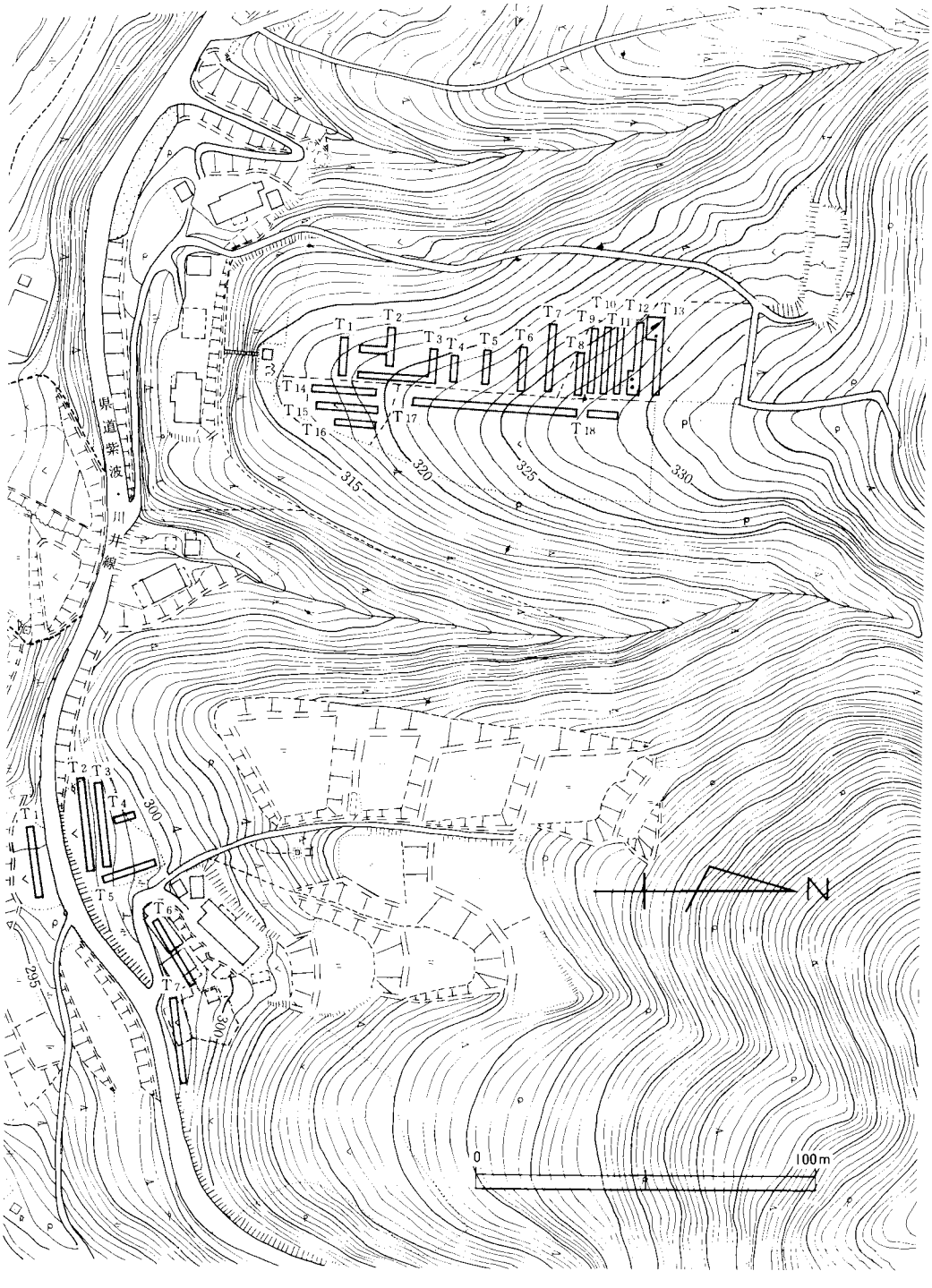
調査期日：平成3年10月28・29日

本遺跡は、稗貫川の南岸、標高300～310mの崖錐性の北面する斜面に位置する。遺跡の大半は畑地等により地形の改変を受けているが、層的には安定している。T_1～T_5のトレンチを設定し調査したが、T_2・T_3の



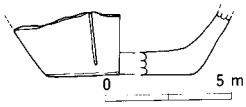
第104図

第105図　人中遺跡トレンチ配置図



第106図　高森遺跡(上)・上高森遺跡(下)トレンチ配置図

第３層とした角礫を含む黄褐色砂質粘土層上面で、径60～70cmのピット２基、主軸方向をほぼ同じとする陥し穴２基が確認された。またT_5では、陥し穴１基と隣接して、縄文中期の遺物（第106図）を含む黒色土層が検出され、遺物包含層あるいは遺構となるものと判断できた。



第107図　人中遺跡出土遺物

⑵　**上高森遺跡**（第104図の２）

所在地：稗貫郡大迫町内川目字高森　調査期日：平成３年10月28・29日

本遺跡は、稗貫川北岸に張り出す丘陵斜面に位置し、標高は295～310mを計る。丘陵の上部は、開田等によって粘土層が露出するまで削平されている。また遺跡の中心部も宅地等により削平されている。今回は緩斜面を中心にT_1～T_7のトレンチを設定した。T_6・T_7には沢によると思われる厚い黒色土が堆積していたが、他のトレンチはいずれも崖錐性の角礫を含む黄褐色粘土層が表土直下に分布している。遺構・遺物は検出されなかった。

⑶　**高森遺跡**（第104図の３）

所在地：稗貫郡大迫町内川目字高森　調査期日：平成３年11月14、15日

本遺跡は、上高森遺跡の西、標高315～345mの南北にのびる丘陵の尾根に位置する。事業者の要請により湛水区域以外にもトレンチを設定した。T_{12}・T_{13}で陥し穴１基、ピット４基が検出されたほか、縄文中期の土器片が、T_7・T_{12}で出土している。地層の動きから、遺跡の主体は北東斜面にあるものと推定される。

18．一関遊水地事業関連

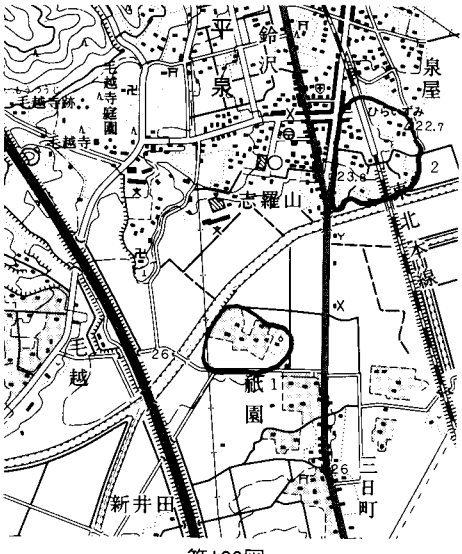
⑴　**樋渡遺跡**（第108図の１）

所在地：西磐井郡平泉町平泉字樋渡

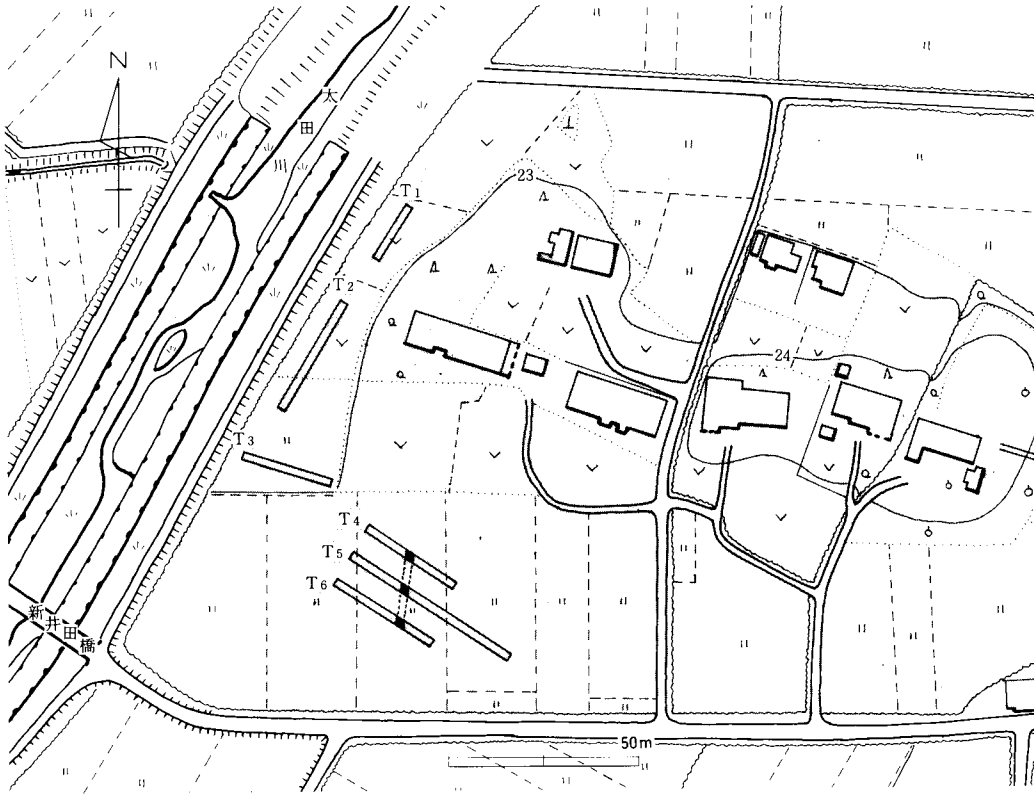
調査期日：平成３年５月27日、６月17日～19日

樋渡遺跡は、太田川右岸の沖積地上の微高地に立地し、標高は約23～24mを計る。遺跡の現状は水田及び畑地である。

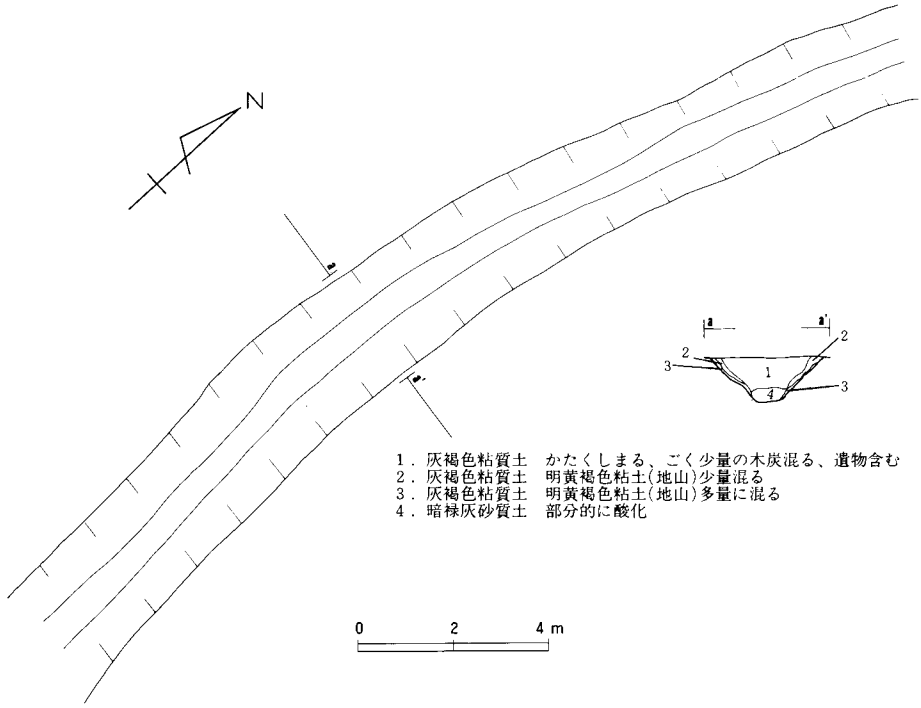
築堤工事に係わる部分と橋脚に係わる部分について、トレンチT_1～T_6を設定し試掘調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ層耕作土、第Ⅱ層灰褐色小礫混り粘土、第Ⅲ層褐色粘土、第Ⅳ層明黄褐色粘土である。T_1～T_3では、一部に砂層及び



第108図



第109図　樋渡遺跡トレンチ配置図



第110図　樋渡遺跡溝跡平断面図

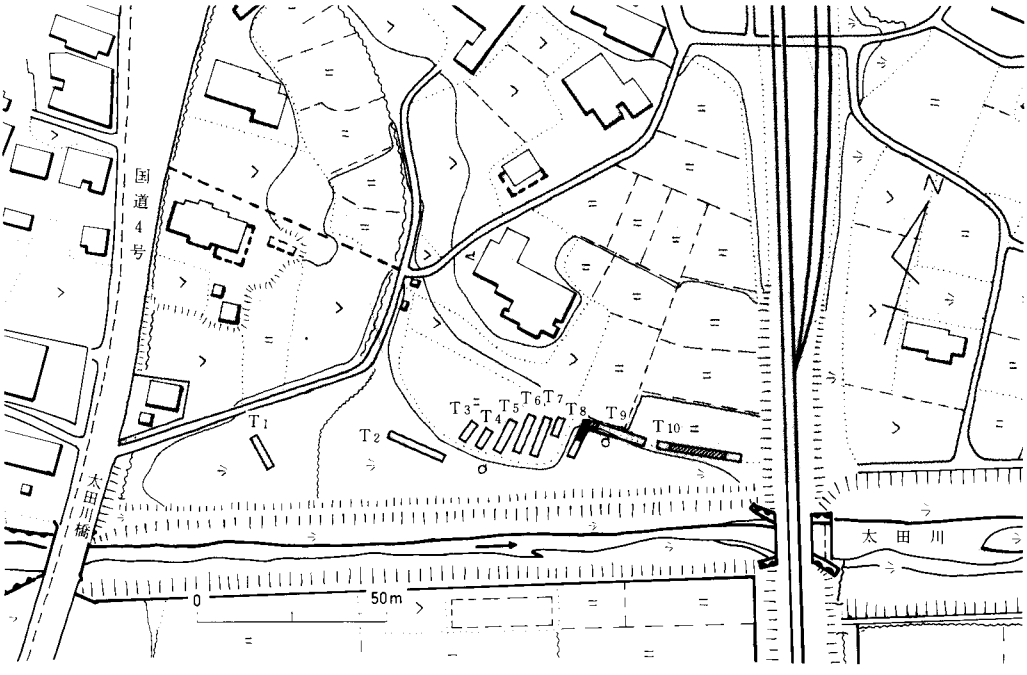
礫層が見られ、太田川の旧河道であった様子がうかがえたが、T_4～T_6では砂層、礫層ともに認められなかった。T_1～T_3における調査の結果、遺構・遺物ともに発見されなかったが、T_4～T_6においてほぼ南北に走る溝跡が１条検出されたため、日を改めて精査を実施した。（第110図）

精査の結果、溝跡はほぼ南北の方向にやや湾曲して走り、上幅で約２～2.5m、下幅で約40～70cm、高さ約１～1.5mを計る。底にはグライ化した砂層があり、酸化した部分が見られることから、水が流れていたと思われるが、埋土は一時期のものである。遺物は、かわらけ片４点と陶磁器片３点が埋土中から出土しており、この溝跡が中世以前に遡ることが推定できた。

(2) 泉屋遺跡（第108図の２）

所在地：西磐井郡平泉町大字平泉字泉屋　調査期日：平成３年３月18日～20日

本遺跡は、太田川左岸に位置し、伽羅之御所跡の南に接し、標高約23mを計る。工事予定地内に第111図に示した通りT_1～T_{10}トレンチを設定し、調査を実施した。T_1・T_2トレンチは、沢部分であったし、T_3～T_8においても部分的に安定したシルトがみられるものの表土下は砂層となっており、遺構遺物とも発見されなかった。ただし、T_9・T_{10}トレンチにおいて、縄文晩期の土器片、土師器片、かわらけ片、陶磁器片が出土した。また、土器の出土した周辺になんらかの遺構が存在することが推定された。従って、T_9・T_{10}トレンチ及びその東方に広がる工事区については、発掘調査を実施することとした。



第111図　泉屋遺跡トレンチ配置図

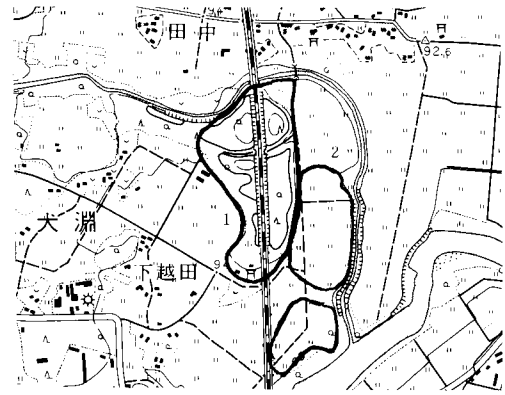
19. 滝名川河川改修事業関連

(1) 西田遺跡（第112図の１）

所在地：紫波郡紫波町犬渕字西田

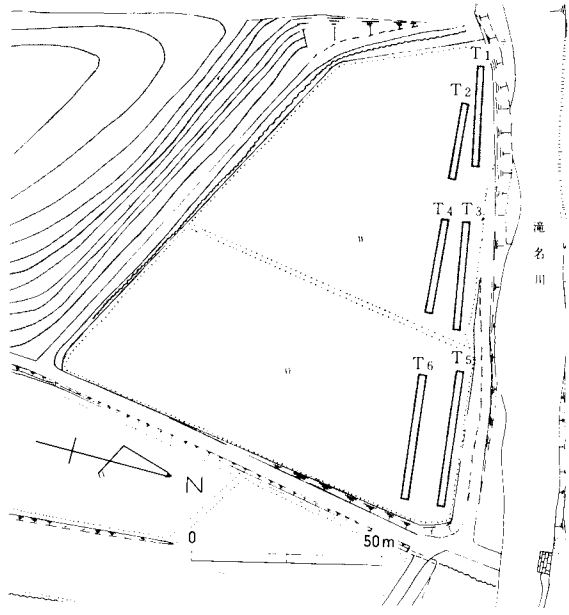
調査期日：平成３年11月21日

西田遺跡は、北上山地西縁丘陵部が北上川によって切り離された小規模な残丘及び裾部に立地する。工事予定地は、残丘裾部の北縁に当り、滝名川による開析を受けている。標高は約91.5～91.6mを計り、現状は水田である。



第112図

工事予定地内にトレンチT_1～T_6を設定し、調査を実施した。調査の結果、水田造成のための大規模な地形の改変を受けており、T_6の東半分を除き、グライ化した青灰色の粘土層が耕作土直下に見られた。遺物は、T_5の攪乱土中から土師器坏の底部及び細片が出土したが、遺構については検出されなかった。



第113図　西田遺跡トレンチ配置図

(2) 西田東遺跡（第112図の２）

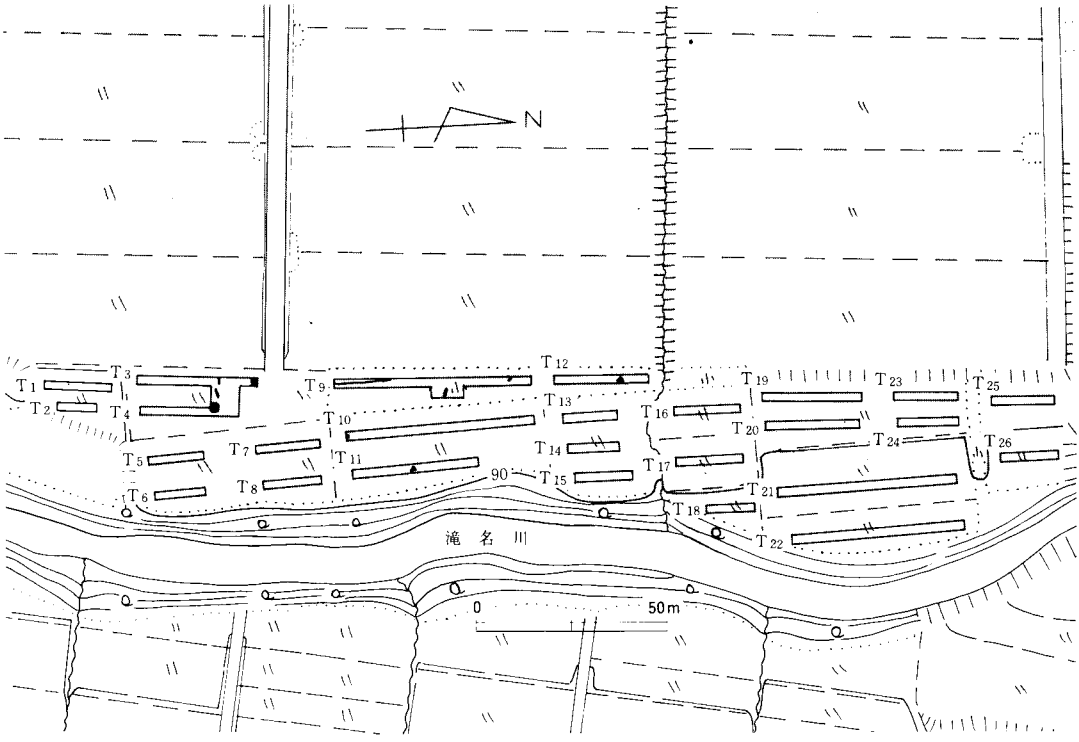
所在地：紫波郡紫波町犬渕字西田

調査期日：平成３年11月19日～20日

西田東遺跡は、滝名川西岸の河岸段丘の縁周辺部に立地し、昨年度発掘調査が実施された下川原II遺跡のちょうど対岸に当る。標高は約88～91mを計り、現状は草地及び荒蕪地である。

工事予定地内にトレンチT_1～T_{26}を設定し、調査を実施した。土層の基本層序は、第Ｉ層表土、第II層黒色土、第III層暗褐色砂質土、第IV層褐色砂質土である。遺跡東端の滝名川沿いでは、滝名川に向かって傾斜しており、第III層の厚い堆積が見られた。

調査の結果、T_3・T_4において土師器片及び須恵器片を共伴する竪穴住居址各１棟が表土直下から検出された。また、陥し穴２基が第III層上面で検出された。T_9・T_{12}においては、溝跡１条、陥し穴２基及び焼土遺構１基が検出されており、T_{10}の南端でピット１基が検出された。T_{13}より北のトレンチでは部分的に土師器片が出土した。工事予定地内については発掘調査を実施する。



第114図　西田東遺跡トレンチ配置図

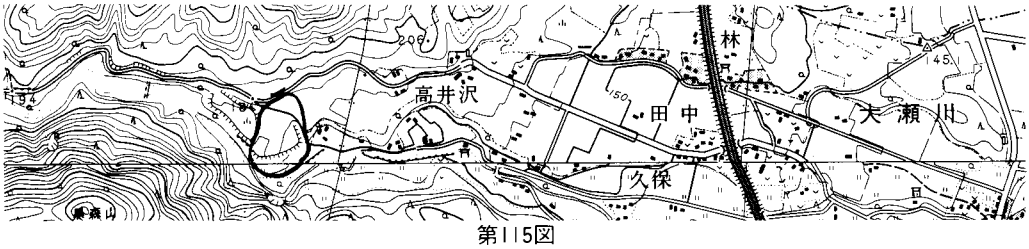
20. 山王海農業水利事業関連

(1) 弥五郎屋敷遺跡（第115図）

所在地：稗貫郡石鳥町大瀬川　調査期日：平成３年７月17日、10月21日

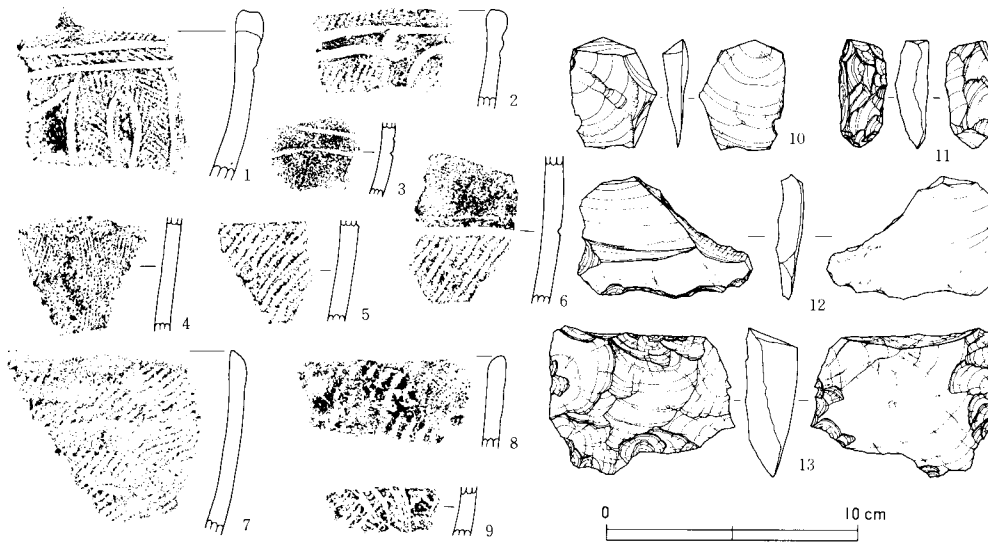
本遺跡は葛丸川の北岸、小規模な扇状地形の扇頂部に位置する。かっての水田区画整備により、遺跡の大半は削平されている。今回の調査では、送水管敷設に係る部分のみを調査した。

T_4～T_6では、焼土を伴う遺物包含層が確認されたため、送水管を東側へ移動し、その部分の保存を図った。T_1～T_3及びT_7～T_9は、すでに削平されていた。T_{10}～T_{13}は崖錐地形起源の巨礫が分布し、遺構・遺物とも確認できなかった。出土遺物（第117図）は、縄文後期中葉の土器及び石器類で、石材に硬質頁岩が卓越する点、葛丸川上流域の石材原産地存在の可能性を示唆するものとして興味深い。



第115図

第116図　弥五郎屋敷遺跡トレンチ配置図



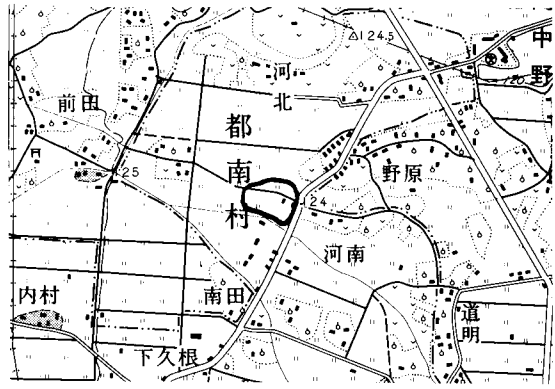
第117図　弥五郎屋敷遺跡出土遺物

21. 工業技術センター建設事業関連

(1) 矢盛遺跡（第118図）

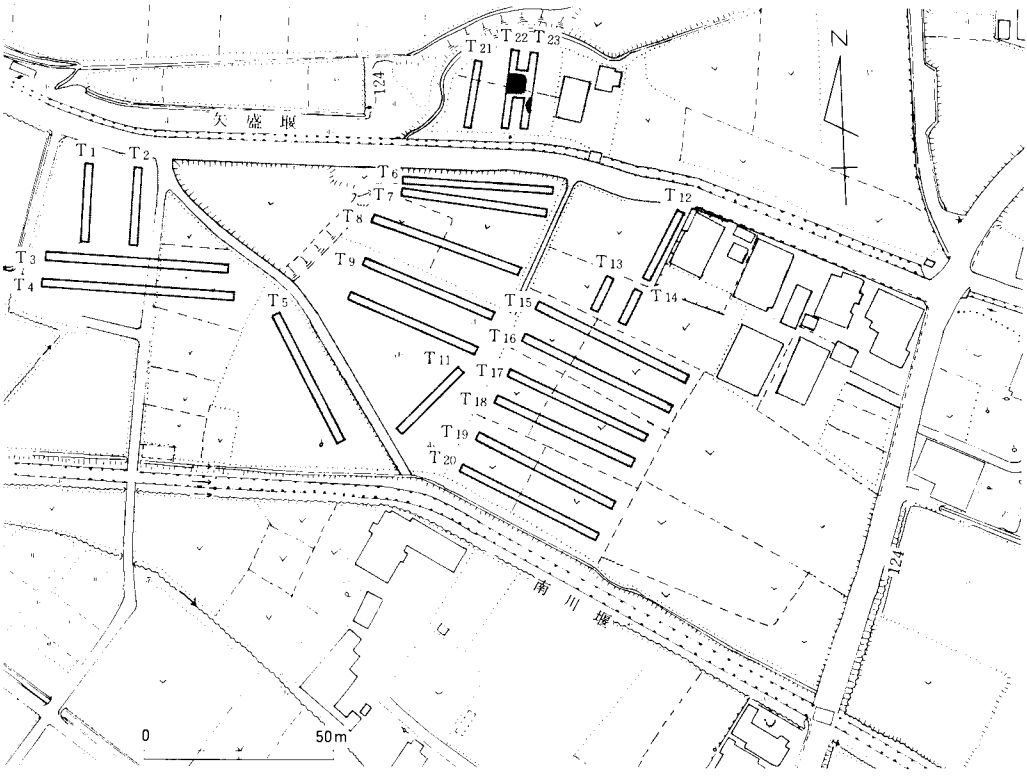
所在地：紫波群都南村大字飯岡新田第3地割字矢盛

調査期日：平成3年3月25日



第118図

本遺跡は、標高約123mほどの微高地上に広がる遺跡である。第119図に示した通り工事予定地内にT_1～T_{23}トレンチを設定し調査を実施した。T_1～T_{10}トレンチにおいては、旧河道による砂礫層が分布しており、遺構・遺物とも発見されなかったし、T_{12}～T_{20}トレンチでは、耕作による大規模な攪乱がみられ、遺構・遺物とも確認出来なかった。ただし、遺跡の北端部分であるT_{22}・T_{23}トレンチにおいて竪穴住居跡を2棟確認することが出来た。T_{23}トレンチにおける住居跡の上面より奈良時代末と思われる土師器片及びトレンチ内より平安時代の土師器の小片が発見された。T_{22}・T_{23}を含む北側部分については、平成4年度に発掘調査を実施することとした。



第119図　矢盛遺跡トレンチ配置図

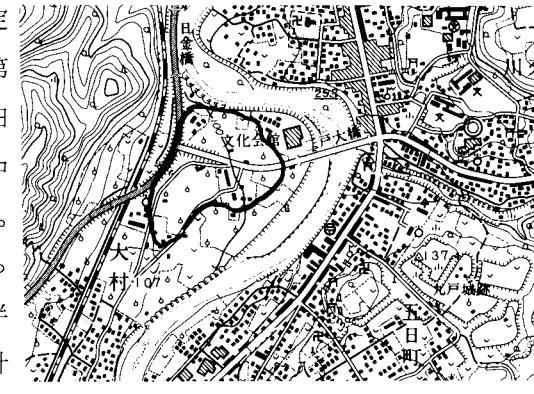
22. 県職員住宅建設事業関連

(1) 中曽根遺跡（第120図）

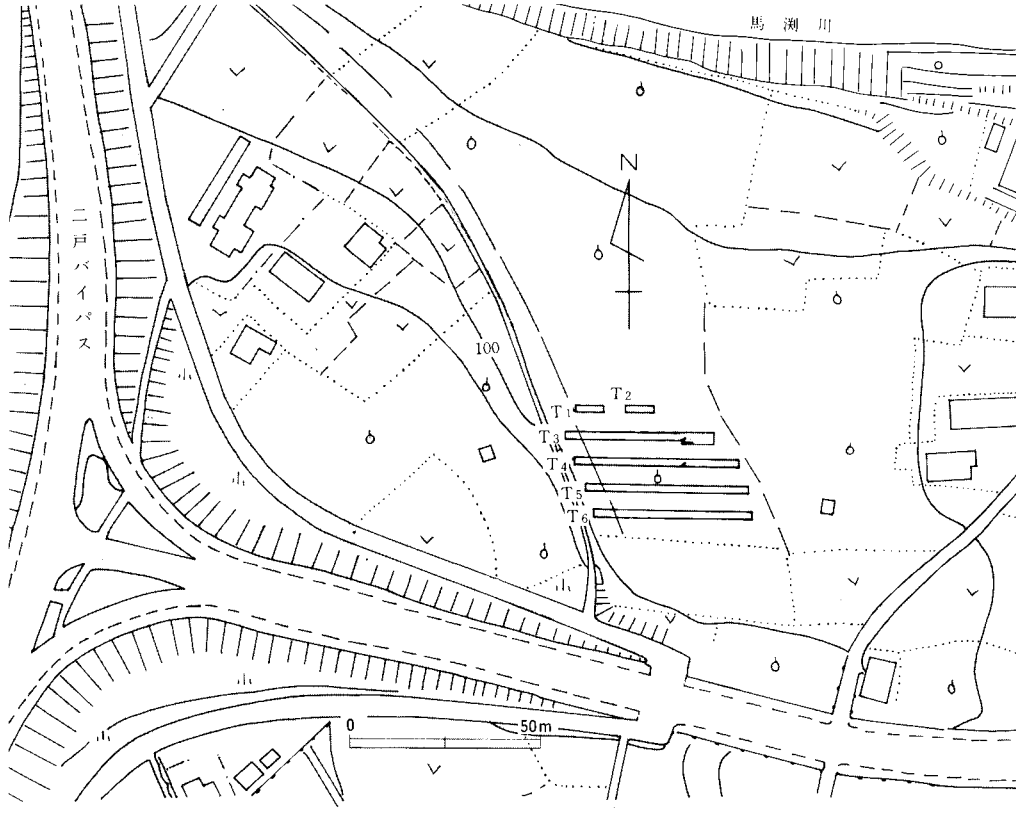
所在地：二戸市石切所字中曽根　調査期日：平成３年７月11日～12日

中曽根遺跡は、馬渕川と白鳥川の合流付近で、舌状に突出する低位段丘の中央部から先端部に立地する。標高は100m前後を計り、現状は果樹園である。

工事予定地内にトレンチT_1～T_6を設定し、調査を実施した。土層の基本層序は、第Ⅰ黒褐色土（表土）、第Ⅱ層黒褐色土（十和田ａ火山灰混り）、第Ⅲ黒色土、第Ⅳ暗褐色土（中掫浮石層混り）、第Ⅴ層暗褐色砂質土である。第Ⅱ層以下を検出面とし順次掘り下げながら調査を実施したが、T_1及びT_3～T_6のに西半部で第Ⅴ層までの層厚が約1.5～2.2mを計り、かつて沢が入っていた様子がうかがえた。



第120図

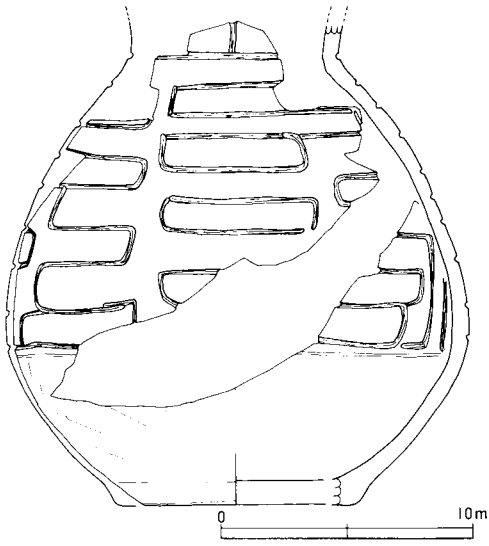


第121図　中曽根遺跡トレンチ配置図

東半部では徐々に高くなり、T_3～T_6トレンチの東端では、第Ⅴ層まで約70cm～1mを計る。

遺構は、T_3・T_4トレンチにおいて、北東方向に主軸を持つ陥し穴各1基が検出された。第Ⅳ層・第Ⅴ層を掘り込んでつくられており、縄文時代中期のものと思われる。また、T_3の陥し穴と近接するかたちで、第Ⅲ層中で竪穴住居址の一部と思われる遺構が発見された。第122図で示した縄文後期土器（十腰内Ⅰ式）が出土しており、縄文時代後期の竪穴住居址となる可能性が高い。

事業者側と協議の結果、遺構が集中した東半部については、来年度発掘調査を実施することとした。



第122図　中曽根遺跡出土遺物

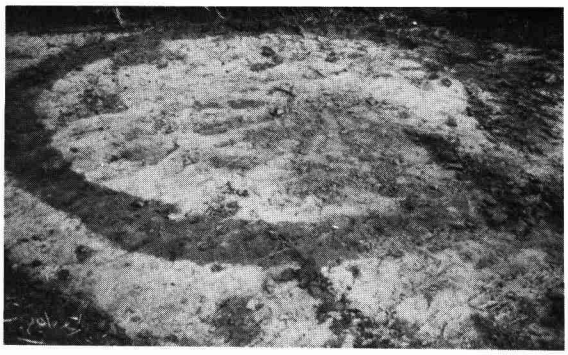
23. その他の試掘調査

22までに示した試掘調査以外にも調査を実施しているが、調査が小規模であったり、遺構・遺物ともに発見されなかったり、来年度に継続調査になったものについては以下に記す。

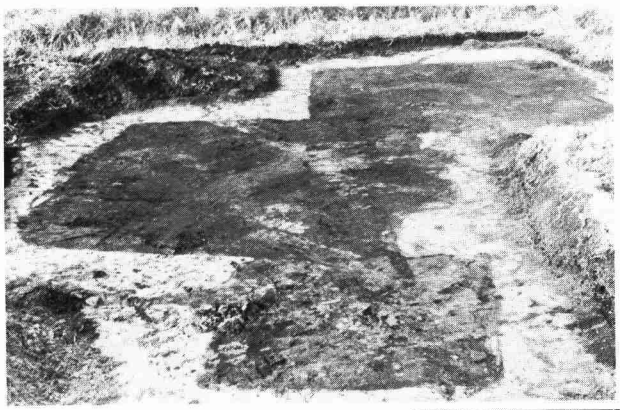
No	事業名	事業者	道跡名	市町村	調査期日	調査状況	備考
1	県営ほ場整備事業新堀地区	岩手県	侍中館	稗貫郡石鳥谷町	1/14	土師器	遺物取り上げ
2	県営ほ場整備事業和賀中央第3	〃	飯島	北上市	1/13～1/14	竪穴2棟、土坑1基、縄文土器	4年度発掘調査
3	〃	〃	ME64 0176	〃	1/13		
4	県営ほ場整備事業土館地区	〃	弥勒地	紫波郡紫波町	5/9～5/10		
5	県営ほ場整備事業	〃	六本松	紫波郡紫波町	5/15		
6	国道4号矢巾道路拡幅事業	建設省	徳丹城跡隣接地	紫波郡矢巾町	5/17		
7	盛岡西バイパス建設事業	〃	八卦	盛岡市	8/8		
8	国道397号交通安全施設整備	岩手県	土橋	水沢市	12/2		
9	国道397号道路改良事業	〃	箸塚要害	胆沢郡胆沢町	3/11		
10	県道上米内停車場線道路改良	〃	道のドB	盛岡市	7/30	石器	遺物取り上げ
11	〃	〃	米内沢B	〃	7/30		
12	県道盛岡和賀線交通安全施設	〃	稲葉Ⅰ	北上市	7/19		

No.	事　業　名	事業者	遺　跡　名	市　町　村	調査期日	調　査　状　況	備　　考
13	県道一関栗駒線道路改良事業	岩　手　県	上黒沢城	一　関　市	12/6		
14	県道一戸山形線道路改良事業	〃	小井田Ⅰ	二戸郡一戸町	12/17	縄文土器	来年度再調査
15	県道盛岡岩泉線道路改良事業	〃	稲荷窪	盛　岡　市	9/9,1/9		
16	県道盛岡和賀線道路改良事業	〃	金栗Ⅱ	花　巻　市	10/21		
17	〃	〃	鹿田野	〃	10/21		
18	〃	〃	田屋	〃	10/21		
19	県道紫波雫石線安全施設整備	〃	升沢竹原	紫波郡紫波町	1/10	縄文土器、土師器、遺物包含層	来年度発掘調査
20	県道不動盛岡線安全施設整備	〃	神田	紫波郡都南村	1/17		
21	農免農道整備事業紫波地区	〃	北条館	紫波郡紫波町	6/28		
22	砂鉄川改修事業	建　設　省	河崎棚擬定地	東磐井郡川崎村	1/17～1/18		
23	〃	〃	高畑	〃	1/18,2/17	竪穴状遺構、土坑1基、土師器	記録保存
24	一関遊水地太田川築堤事業	〃	志羅山	西磐井郡平泉町	5/8	かわらけ	遺物取り上げ
25	林業技術センター建設事業	岩　手　県	稲荷街道井戸跡	紫波郡矢巾町	11/18	縄文土器	現状保存
26	〃	〃	ＬＥ45-0228	〃	11/19	縄文土器	遺物取り上げ
27	河南公舎改築事業	〃	小山	盛　岡　市	6/17	縄文土器(攪乱土中)	遺物取り上げ
28	高等学校運動部部室建設事業	〃	岩谷堂城	江　刺　市	8/19		
29	農業水利事業	〃	南勝寺	稗貫郡石鳥谷町	10/23		

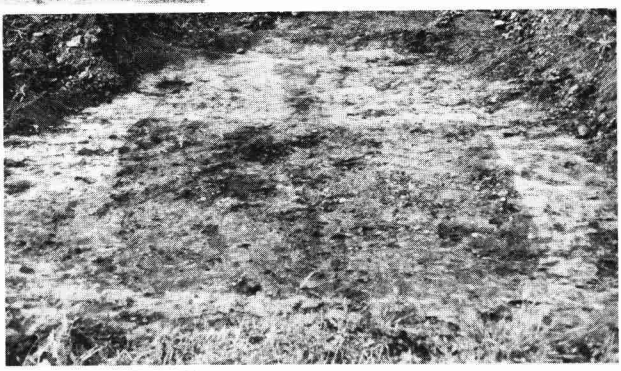
Ⅲ 写 真 図 版



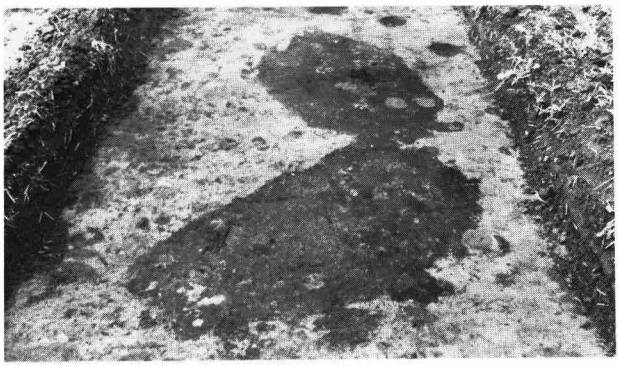
都南村・林崎II遺跡



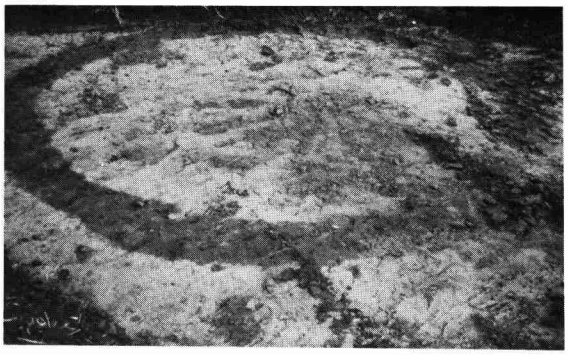
都南村・林崎II遺跡



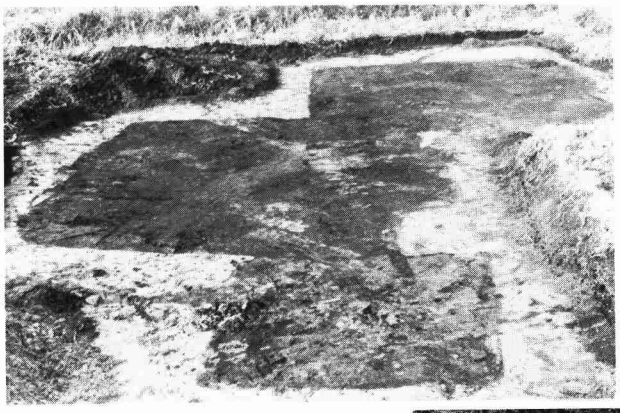
都南村・田中遺跡



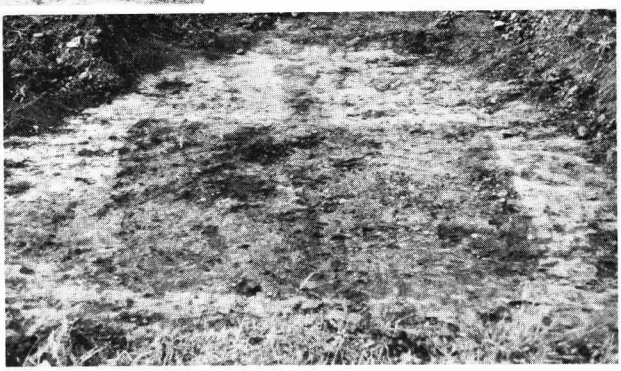
都南村・深渕I遺跡



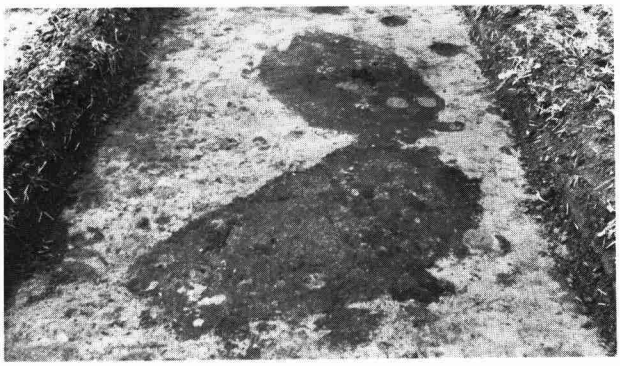
都南村・林崎II遺跡



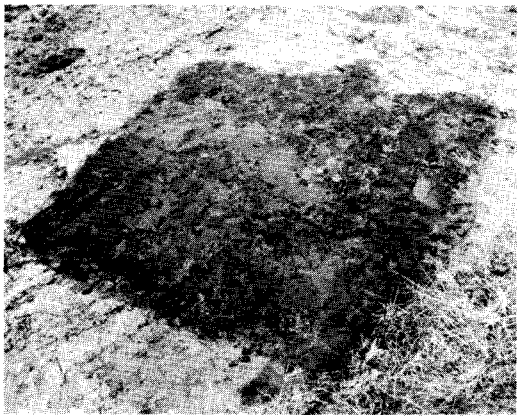
都南村・林崎II遺跡



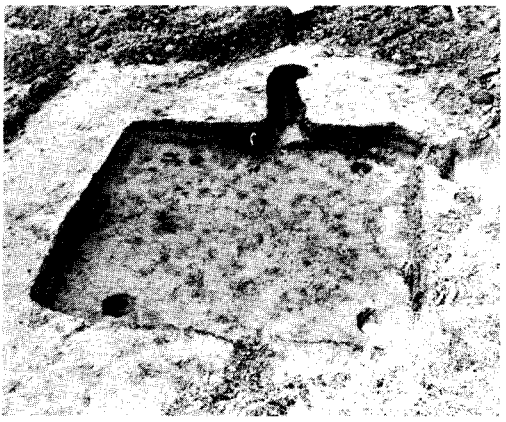
都南村・田中遺跡



都南村・深渕I遺跡

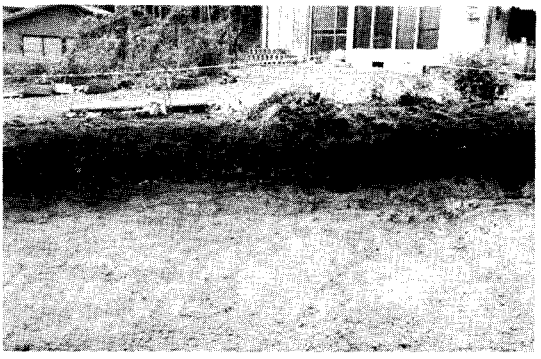


都南村・熊堂Ⅲ遺跡（竪穴住居検出状況）

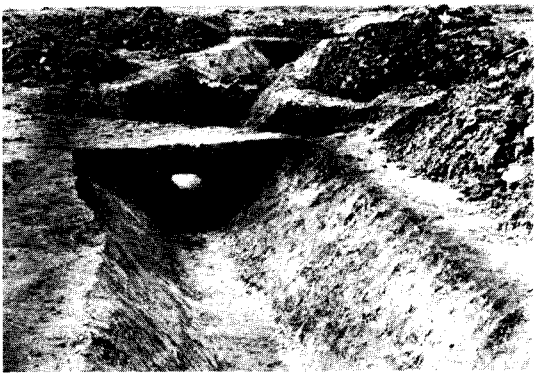


都南村・熊堂Ⅲ遺跡（竪穴住居完掘状況）

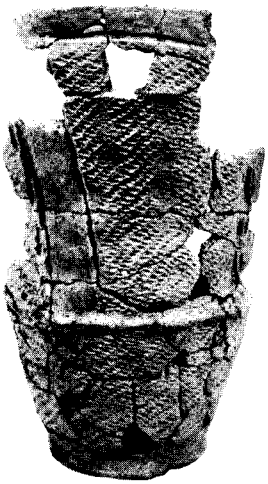
山田町・上村遺跡



北上市・斉羽場遺跡

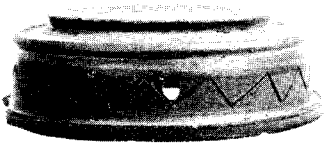


平泉町・樋渡遺跡



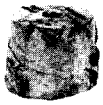
深鉢（紫波町・平沢堤頭Ⅰ遺跡）

深鉢（紫波町・平沢堤頭Ⅰ遺跡）

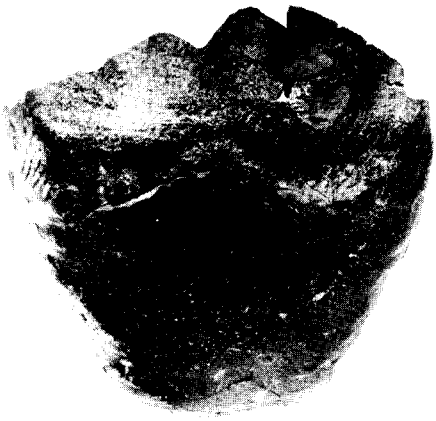


円面硯（都南村・林崎Ⅱ遺跡）

土師器・坏（都南村・西遺跡）



石製紡錘車（都南村・西遺跡）



須恵器・甕（都南村・林崎Ⅱ遺跡）

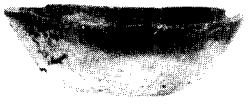
土師器・坏（都南村・熊堂Ⅲ遺跡）

土師器・坏（都南村・熊堂Ⅲ遺跡）

土師器・甑（都南村・上新田II遺跡）

土師器・小型甕（都南村・上新田II遺跡）

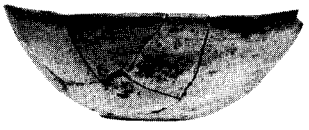
須恵器・甕（都南村・田中遺跡）



土師器・坏（都南村・田中遺跡）

土師器・甕（都南村・田中遺跡）

須恵器・坏（都南村・南谷地遺跡）



土師器・坏（矢巾町・不動馬場遺跡）

岩手県文化財調査報告第91集

岩手県内遺跡詳細分布調査報告書III

発行日　平成4年3月

発　行　岩手県教育委員会
岩手県盛岡市内丸10－1

編　集　岩手県教育委員会事務局文化課

印　刷　杜陵印刷
盛岡市みたけ二丁目22番50号